

町田市データブック

2025 年度

2025 年 12 月

町 田 市

目 次

ねらい	17
利用にあたっての留意事項	17
グラフの見方	18
町田市・比較市・参考市 区域図	20
町田市・比較市・参考市 基礎データ	21

I 基礎指標

1 人口・世帯	25
(1) 人口	25
①人口	
②人口増加率【他市比較】	
③人口密度【他市比較】	
(2) 世帯	27
①世帯数、1世帯あたり人員	
②1世帯あたり人員【他市比較】	
③世帯構成比【他市比較】	
(3) 年齢別人口	28
①年齢（3区分）別人口構成比	
②年齢（3区分）別人口構成比【他市比較】	
③人口ピラミッド	
(4) 老年化指数	30
①老年化指数	
②老年化指数【他市比較】	
(5) 人口動態	31
①人口動態	
(6) 外国人登録人口	31
①外国人登録人口	
②外国人登録人口構成比【他市比較】	
③市民1万人あたり外国人登録人口【他市比較】	
2 土地利用	33
(1) 地目別土地面積	33
①地目別土地面積構成比	

②地目別土地面積構成比【他市比較】	
(2) 公示価格	34
①住宅地・商業地の平均公示価格	
②住宅地の平均公示価格【他市比較】	
③商業地の平均公示価格【他市比較】	

Ⅱ 福祉

1 子ども	39
(1) 保育サービス	39
①保育サービス定員	
②保育サービス提供率	
③保育所等の入所児童数	
④延長保育実施保育所数	
(2) 待機児童	41
①待機児童数	
②待機児童数の就学前児童人口比率【他市比較】	
③待機率	
④待機率【他市比較】	
(3) 学童保育	43
①学童保育クラブ入会児童数	
②学童保育クラブ入会児童の割合	
③1クラブあたり入会児童数【他市比較】	
(4) 各種手当	45
①児童手当受給者数、支給額	
②児童育成手当受給者数、支給額	
(5) 乳幼児医療の助成	46
①乳幼児医療対象者数	
②乳幼児医療費助成金額、助成件数	
(6) ひとり親家庭医療の助成	47
①ひとり親家庭医療費助成医療証交付世帯数	
②ひとり親家庭医療費助成金額、助成件数	
2 高齢者	48
(1) 高齢者福祉	48
①高齢者生活支援事業利用延べ回数	
②地域包括支援センター数、相談件数	
③成年後見制度相談新規受付け数（高齢者）	

(2) 高齢者住宅	50
①高齢者住宅（シルバーピア）入居戸数	
②老人ホーム等入所者数	
③住宅設備改修給付・住宅改修予防給付利用件数	
④住宅改修支援事業（住宅改修アドバイザー）延べ利用回数	
(3) 介護保険	52
①第1号被保険者数、人口に占める第1号被保険者の割合	
②人口に占める第1号被保険者の割合【他市比較】	
③第1号被保険者に占める要介護（要支援）認定者（第1号）の割合【他市比較】	
④介護保険認定者数（第1号、第2号）	
(4) サービス受給状況	54
①サービス受給割合（第1号）【他市比較】	
(5) 後期高齢者医療費等	54
①受給者1人あたり後期高齢者医療費給付額、件数	
(6) 仲間づくり、健康づくり、社会参加等	55
①老人クラブ数、会員数	
②シルバー人材センター会員数、受託件数	
(7) 高齢者福祉センター	56
①高齢者福祉センター利用者数	
②町田市、相模原市の高齢者福祉センター相互利用数	
3 障がい者	57
(1) 障がい者福祉	57
①知的障がい者「愛の手帳」、身体障害者手帳所持者数	
②成年後見制度相談新規受付者数（障がい者）	
(2) 障がい者雇用	58
①障がい者雇用率	
4 保健・医療	59
(1) 医療施設	59
①医療施設数	
②病院病床数（総病床、一般病床）	
③市民1千人あたり病院病床数（総病床、一般病床）	
④市民1千人あたり病院病床数（総病床、一般病床）【他市比較】	
(2) 医療従事者	61
①医療従事者数	
②市民1千人あたり医師数	
③市民1千人あたり医師数【他市比較】	

(3) 市民病院	63
①市民病院の外来患者数、入院患者数	
(4) 救急診療	63
①救急診療延べ病院数、受診患者数	
②小児準夜急病診療患者数、休日歯科応急診療患者数	
(5) 健康診査等	64
①特定健診受診者数、受診率	
②がん検診受診者数	
③妊産婦、新生児、乳幼児訪問指導実施件数	
④予防接種の接種者数	
(6) 主要死因	66
①主要死因別死亡数	
5 生活保護	67
(1) 生活保護	67
①被保護人員、保護率（人員）	
②被保護世帯数、保護率（世帯）	
③年齢区分別被保護人員構成比	
④保護率（人員）【他市比較】	
6 国民健康保険・国民年金	70
(1) 国民健康保険	70
①国民健康保険被保険者数、加入割合	
②国民健康保険加入割合【他市比較】	
③被保険者1人あたり医療費	
(2) 国民年金	72
①国民年金被保険者数、免除者数、受給者数	

Ⅲ 環境

1 ごみ	75
(1) 総ごみ量	75
①総ごみ量	
②市民1人1日あたり総ごみ量【他市比較】	
(2) ごみの資源化	76
①総資源化量、総資源化率	
②市民1人あたり総資源化量【他市比較】	
③リサイクル率、可燃ごみの組成（乾ベース）【他市比較】	

(3) ごみ処理	78
①ごみ処理経費	
2 水質	79
(1) 河川の水質	79
①主要河川の環境基準点における水質の状況（BOD 年度平均値）	
3 公害	80
(1) 公害	80
①公害関係苦情受付件数	
②公害関係苦情受付構成比【他市比較】	
(2) 航空機騒音	81
①航空機騒音測定回数	
②航空機騒音苦情受付件数	

IV 経済

1 労働	85
(1) 労働力状態	85
①労働力人口、人口に占める労働力人口の割合	
②人口に占める労働力人口の割合【他市比較】	
(2) 就業者	86
①産業大分類別 15 歳以上就業者数	
②産業大分類別 15 歳以上就業者構成比【他市比較】	
(3) 失業率	87
①完全失業者数、失業率	
②失業率【他市比較】	
(4) 事業所、従業者	88
①産業大分類別事業所構成比【他市比較】	
②産業大分類別従業者構成比【他市比較】	
2 中小企業融資	90
(1) 中小企業融資	90
①中小企業融資利用件数	
②中小企業融資額	
3 商業	92
(1) 卸売業、小売業事業所数	92

①卸売業、小売業事業所数	
②卸売業事業所数【他市比較】	
③小売業事業所数【他市比較】	
④卸売業、小売業事業所構成比【他市比較】	
(2)卸売業、小売業従業者数	94
①卸売業、小売業従業者数	
②卸売業従業者数【他市比較】	
③小売業従業者数【他市比較】	
④卸売業、小売業従業者構成比【他市比較】	
(3)卸売業、小売業年間販売額	96
①卸売業、小売業年間販売額	
②卸売業年間販売額【他市比較】	
③小売業年間販売額【他市比較】	
④卸売業従業者1人あたり年間販売額【他市比較】	
⑤小売業従業者1人あたり年間販売額【他市比較】	
(4)町田駅周辺	99
①町田駅周辺事業所数、従業者数	
4 工業	100
(1)事業所数	100
①事業所数	
②事業所数【他市比較】	
(2)従業者数	101
①従業者数	
②従業者数【他市比較】	
(3)製造品出荷額等	102
①製造品出荷額等	
②製造品出荷額等【他市比較】	
③従業者1人あたり製造品出荷額等【他市比較】	
5 農業	104
(1)農家数	104
①農家数	
②農家（個人経営体）構成比【他市比較】	
③1千世帯あたり農家数【他市比較】	
(2)農家人口	106
①農家人口	
②人口1千人あたり農家人口【他市比較】	

(3) 経営耕地面積	107
① 経営耕地面積	
② 経営耕地構成比【他市比較】	
③ 市域面積に占める経営耕地面積の割合【他市比較】	
(4) 市民農園	108
① 市民農園區画数、面積	

V 都市基盤

1 交通	111
(1) 道路	111
① 道路延長	
② 道路構成比【他市比較】	
③ 道路率【他市比較】	
④ 道路平均幅員【他市比較】	
(2) 鉄道	113
① 市内鉄道路線別年間乗車人員	
② 主要駅別年間乗車人員【他市比較】	
(3) バス	114
① 地域コミュニティバス利用者数	
② 町田市民バス「まちっこ」利用者数	
③ 市内民営バス路線輸送人員、延ベキロ数	
(4) 自動車	116
① 自動車保有台数	
② 1千世帯あたり乗用車保有台数【他市比較】	
2 交通安全	117
(1) 交通安全	117
① 交通事故発生件数（人身事故のみ）	
② 交通事故類型別構成比【他市比較】	
(2) 自転車対策	118
① 放置自転車撤去台数	
② 自転車駐輪場利用台数	
3 公園・緑地等	120
(1) 公園、緑地等	120
① 都市公園等面積、市民1人あたり都市公園等面積	
② 市民1人あたり都市公園等面積【他市比較】	

③市域面積に占める安定的に確保された緑地の割合

4 住宅	122
(1) 新設住宅	122
①新設住宅着工数	
(2) 居住状況	123
①1 住宅あたり延べ面積【他市比較】	
②建て方別住宅数	
③建て方別住宅構成比【他市比較】	
④住宅の所有関係別住宅構成比【他市比較】	
⑤駅からの距離別住宅構成比【他市比較】	
(3) 空き家状況	125
①空き家率【他市比較】	
(4) 地震対策	126
①住宅耐震化率	
5 下水道	127
(1) 下水道	127
①下水道処理区域面積、人口普及率、面積普及率	
②人口普及率【他市比較】	
③下水処理量	
④公共下水道人口水洗化率	
6 治水・防災	130
(1) 治水	130
①調整池の規模、箇所数	
②雨水管面積整備率	
(2) 火災	131
①市民1 万人あたり火災発生件数【他市比較】	
②建物不燃化率	
(3) 地域防災	132
①消防団員数、火災・風水害等出動延べ人数	
②自主防災組織数、自主防災組織リーダー講習会修了者延べ数	
(4) 防災無線	133
①防災無線屋外拡声子局設置箇所数	

VI 教育

1 学校教育	137
(1) 児童、生徒数	137
①市立小学校児童数、学級数	
②市立中学校生徒数、学級数	
③小学校 1 校あたり児童数【他市比較】	
④中学校 1 校あたり生徒数【他市比較】	
(2) 学校整備	139
①公立学校の防音工事実施延べ校数（小中学校）	
②公立学校のトイレ改修実施延べ校数（小中学校）	
(3) 学校図書	140
①蔵書数（市立小中学校）	
(4) 不登校	141
①不登校児童数、児童 1 千人あたり不登校児童数（市立小学校）	
②不登校生徒数、生徒 1 千人あたり不登校生徒数（市立中学校）	
(5) 相談、援助	142
①教育相談件数	
②就学援助費認定者数（小学校）	
③就学援助費認定者数（中学校）	
2 生涯学習	144
(1) 社会教育等	144
①市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川入場者数	
②文化施設来館者数	
③レクリエーション施設来園（苑）者数	
④市民大学延べ受講者数、講座数	
(2) 図書館	146
①貸出図書数、登録者数	
②市民 1 人あたり貸出図書数【他市比較】	
③蔵書数、蔵書回転数	
④市民 1 人あたり蔵書数【他市比較】	
⑤蔵書回転数【他市比較】	
(3) 図書館相互利用	149
①相模原市民の町田市立図書館利用件数、登録者数	
②町田市民の相模原市立図書館利用件数、登録者数	
(4) スポーツ	150
①市立体育施設利用者数	
②学校開放施設利用者数	
③スポーツ教室延べ参加者数、開催回数	

④公立社会体育施設数【他市比較】	
(5) 青少年健全育成	152
①青少年施設利用者数	
②相模原市民の Nature Factory 東京町田利用者数	
③町田市民の相模原市立青少年施設利用者数	

VII 地域生活

1 コミュニティ	157
(1) 町内会自治会	157
①町内会自治会加入世帯数、加入率	
(2) 集会施設等	158
①コミュニティ施設ホールの利用者数	
②コミュニティ施設会議室の利用者数	
(3) NP0 法人	159
①NP0 法人数	
②市民 1 千人あたり NP0 法人数【他市比較】	
2 くらし相談	160
(1) くらし相談	160
①女性相談件数	
②消費相談件数	
3 市民参画	162
(1) 情報公開	162
①町田市ホームページのアクセス件数	
②議会傍聴者数	
③情報公開、個人情報保護開示等請求件数	
(2) 市政に対する要望等	164
①市政に対する要望等の件数	
4 犯罪	165
(1) 刑法犯罪	165
①刑法犯認知件数、指数	
②人口 1 万人あたり刑法犯認知件数【他市比較】	

VIII 行政

1 組織	169
(1) 職員	169
①職員数、職員1人あたり市民数	
②職員1人あたり市民数【他市比較】	
③ラスパイレス指数【他市比較】	
2 財政	171
(1) 財政規模	171
①財政規模	
②市民1人あたり財政規模【他市比較】	
(2) 歳入	172
①歳入	
②市民1人あたり自主財源、依存財源【他市比較】	
(3) 市税	173
①市税	
②税目別構成比【他市比較】	
(4) 市民税	174
①市民税（個人）、納税義務者数（個人均等割）	
②納税義務者1人あたり市民税（所得割）【他市比較】	
(5) 固定資産税、都市計画税	175
①固定資産税、都市計画税	
②市域面積1km ² あたり固定資産税、都市計画税【他市比較】	
(6) 分担金及び負担金、使用料、手数料（分担金等）	176
①分担金等	
②市民1人あたり分担金等【他市比較】	
(7) 国からの支出金、東京都からの支出金	177
①市民1人あたり国からの支出金【他市比較】	
②市民1人あたり東京都からの支出金【他市比較】	
(8) 市債	178
①市債発行額	
②市債現在高、市民1人あたり市債現在高	
③市民1人あたり市債現在高【他市比較】	
(9) 積立金	180
①積立金現在高	
②市民1人あたり積立金現在高【他市比較】	
(10) 将来にわたる実質的な財政負担	181

①将来にわたる実質的な財政負担	
(11) 目的別歳出	181
①目的別歳出	
②市民1人あたり目的別歳出【他市比較】	
(12) 性質別歳出	182
①性質別歳出	
②市民1人あたり性質別歳出【他市比較】	
(13) 義務的経費	183
①義務的経費、義務的経費比率	
②市民1人あたり義務的経費、義務的経費比率【他市比較】	
③人件費のうち職員給	
(14) 財政力指数	185
①基準財政収入額、基準財政需要額、財政力指数	
②財政力指数【他市比較】	
(15) 経常収支比率	186
①経常収支比率	
②経常収支比率【他市比較】	
(16) 実質収支比率	187
①実質収支比率	
②実質収支比率【他市比較】	
(17) 実質公債費比率	188
①実質公債費比率	
②実質公債費比率【他市比較】	
(参考) 財政用語	189

引用データ一覧

I 基礎指標

1 人口・世帯	193
2 土地利用	201

II 福祉

1 子ども	203
2 高齢者	207
3 障がい者	211
4 保健・医療	212
5 生活保護	215
6 国民健康保険・国民年金	216

Ⅲ 環境

1	ごみ	218
2	水質	220
3	公害	221

Ⅳ 経済

1	労働	222
2	中小企業融資	225
3	商業	225
4	工業	229
5	農業	230

Ⅴ 都市基盤

1	交通	236
2	交通安全	239
3	公園・緑地等	240
4	住宅	241
5	下水道	246
6	治水・防災	247

Ⅵ 教育

1	学校教育	250
2	生涯学習	252

Ⅶ 地域生活

1	コミュニティ	258
2	くらし相談	259
3	市民参画	260
4	犯罪	260

Ⅷ 行政

1	組織	262
2	財政	263

ねらい

- ・ 行政分野に関する代表的なデータを掲載し、町田市の現状を示す。
- ・ 多摩 26 市及び相模原市、藤沢市との比較から、町田市の位置づけを把握する。
- ・ 行政課題を抽出する基礎資料とする。

利用にあたっての留意事項

- ・ 本書のグラフは、行政の基礎的なデータについて掲載した。また、代表的なものについては、他市との比較を行った。
- ・ 本書のグラフは、当市各部課の資料と関係官公庁等の資料、相模原市、藤沢市からの情報提供を参考に作成した。
- ・ グラフ中、「年」とある場合は暦年（1 月 1 日から 12 月 31 日まで）、「年度」とある場合は会計年度（4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで）とした。
- ・ 数値の端数処理は、原則として四捨五入とした。したがって総数（合計数字）が内訳の合計と一致しない場合がある。
- ・ 増減率は、元データ（引用データ）に表示されている数値を用いて算出しているため、数値にずれがある場合もある。
- ・ 26 市ランキングは、元データ（引用データ）でランキングしているため、同値でも違う順位となる場合がある。
- ・ 人口データは、特に記載のない場合、各年（度）1 月 1 日現在の住民基本台帳人口に外国人登録を含むデータを用いた。（出典：「東京都の統計」東京都総務局統計部）
- ・ グラフの詳細データは、「引用データ一覧」に掲載した。
- ・ グラフ中の多摩 26 市平均は、引用データ一覧に計算方法を記載した。
- ・ 「引用データ一覧」表内の「0」は単位未満のもの、「－」は皆無、該当する数値がないもの、資料がないものとした。
- ・ 多摩 26 市及び相模原市、藤沢市との比較に際して、隣接市、類似団体等を考慮して、八王子市、多摩市、立川市を「比較市」とし、相模原市、藤沢市を「参考市」とした。
- ・ 町田市と他市とで項目の名称等が異なる場合は、町田市で使用している名称等を用いた。
- ・ 時点は、出典資料の表記のとおりに記載した。
- ・ 本書発行時点において「町田市統計書」に掲載されていない直近のデータは、庁内資料を参考とした。
- ・ 相模原市、藤沢市データについては、多摩 26 市とは時点の異なるデータが含まれている（異なるデータは注釈にて明示する）。
- ・ 出典において誤りが発見された数値については、修正した数値を用いた。

グラフの見方

〈ポイント〉

特徴のある項目についてその内容と参照するグラフ番号を記載している。

中見出し

1 人口・世帯

〈ポイント〉

(1) 人口

- 人口は、男女とも2021年～2023年まではわずかに増加していたが、2024年以降は減少傾向にある。【(1)①参照】

(2) 世帯

- 世帯数は年々増加、1世帯あたり人員は減少傾向にある。
- 世帯構成比は、多摩26市平均と比較して高い。

(3) 年齢別人口

- 年少人口の割合は年々減少、生産年齢人口の割合は年々増加している。

参照するグラフ番号

〈ポイント〉に記載されている内容を表しているグラフの番号を記載している。

グラフコード

「引用データ一覧」のグラフ詳細データを参照する場合に使用する。

〈例〉 No.1-1-2-1

- No.「大見出し」 (I 基礎指標)
- 「中見出し」 (1 人口・世帯)
 - 「小見出し」 (2) 世帯
 - 「グラフ番号」 (①世帯数、1 世帯あたり人員)

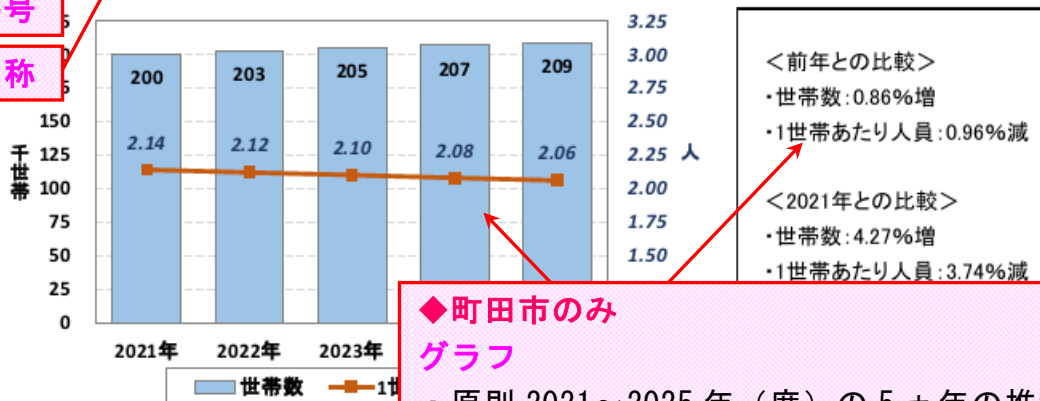
小見出し

(2) 世帯

①1世帯数、1世帯あたり人員 (No.1-1-2-1)

グラフ番号

グラフ名称



◆町田市のみ

グラフ

- ・原則 2021～2025 年（度）の 5 カ年の推移を記載している。

コメント

- ・原則として、前年（度）からの増減率、4 年（度）前からの増減率を記載している。
- ・増減率は、元データ（引用データ）に表示されている数値を用いて算出しているため、数値にずれがある場合もある。
- ・データの内訳の項目は、「」で記載している。

時点

グラフデータの時点に記載している。

【時点】 各年1月1日現在
【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

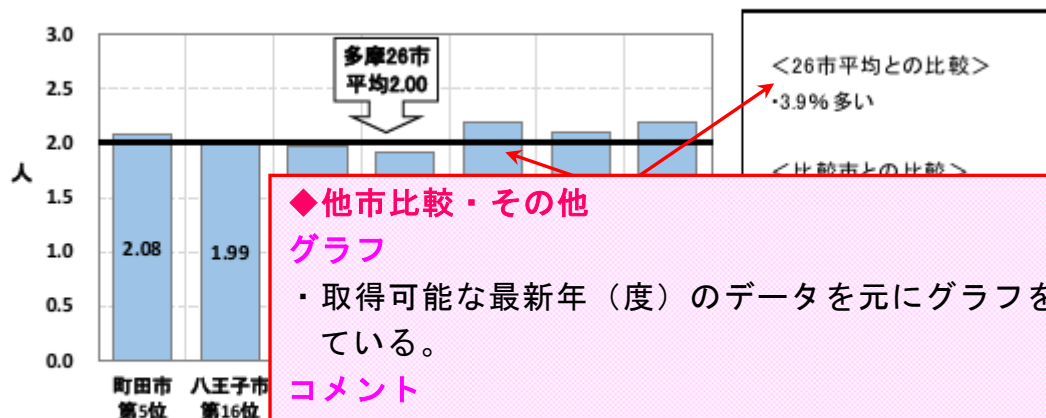
出典

グラフデータの出典を記載している。

他市比較

- ・他市と比較するグラフを記載している。
- ・構成比を示すグラフは、町田市、比較市（八王子市、多摩市、立川市）、多摩 26 市の平均値、参考市（相模原市、藤沢市）を表示している。
- ・その他のグラフは、町田市、比較市、多摩 26 市第 1 位の市、参考市、多摩 26 市平均値を表示している。

②1世帯あたり人員(No.1-1-2-2)【他市比較】



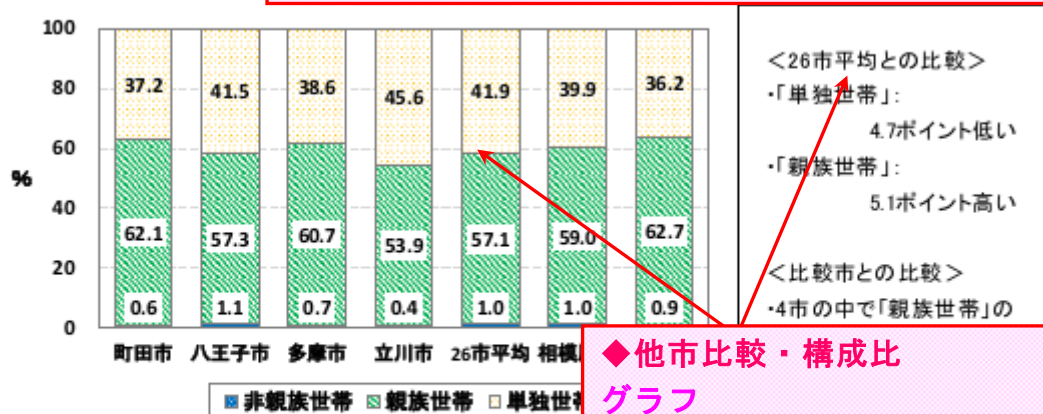
◆他市比較・その他 グラフ

- ・取得可能な最新年（度）のデータを元にグラフを記載している。

コメント

- ・多摩 26 市平均との比較、比較市との比較、多摩 26 市のランキングを記載している。
- ・〈26 市ランキング〉は、グラフや引用データで表示されている数値より詳細な値で算出している場合がある。
- ・〈26 市ランキング〉は、特に記載のない場合、数値の大きい市から並べている。

③世帯構成比(No.1-1-2-2)



◆他市比較・構成比 グラフ

- ・原則 2024 年（度）のグラフを記載している。

コメント

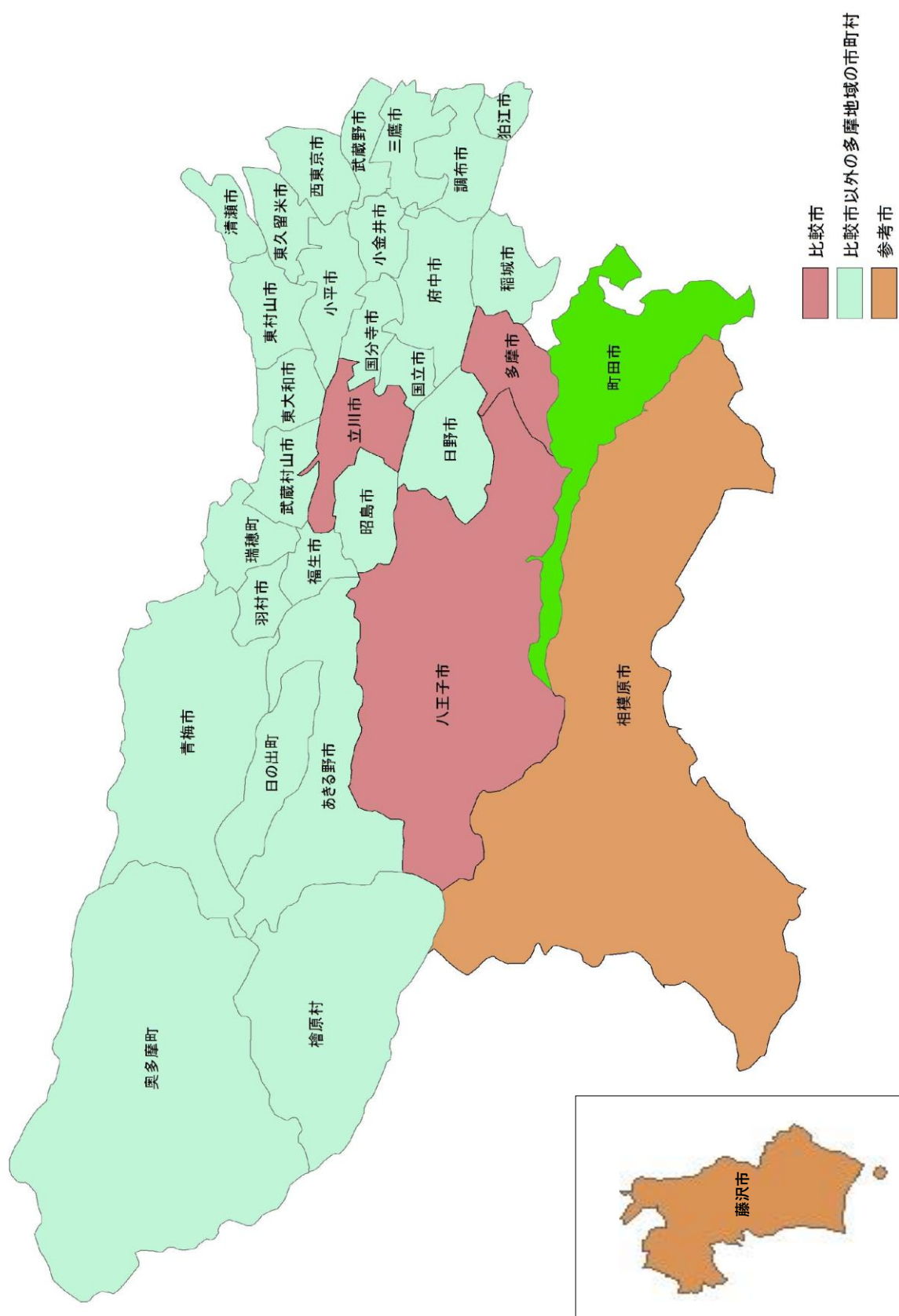
- ・多摩 26 市平均との比較、比較市との比較を記載している。
- ・〈比較市との比較〉は、主に、町田市と比較市（八王子市、多摩市、立川市）との比較から記載している。

【注 1】 総数は「不詳」を含むため、構成比の合計が100%にならない場合があります。
【時点】 2020年10月1日現在
【出典】 「町田市統計年報」

注釈

データの計算式、語句説明、制度変更等を記載している。

町田市・比較市・参考市 区域図



町田市・比較市・参考市 基礎データ

町田市

1	人口	430,380
2	世帯数	206,953
3	面積	71.55
4	事業所数	9,331
5	従業員数	129,302
6	年間販売額	653,206
7	製造品出荷額等	108,599
8	小学校児童数	21,436
9	中学校生徒数	12,192
10	市職員数	2,048
11	歳入決算	185,447,843
12	市内鉄道駅 【JR】町田、成瀬【小田急線】町田、鶴川、玉川学園前【東急線】南町田グランベリーパーク	

八王子市

1	人口	560,692
2	世帯数	282,252
3	面積	186.38
4	事業所数	13,146
5	従業員数	209,507
6	年間販売額	1,252,561
7	製造品出荷額等	492,087
8	小学校児童数	23,654
9	中学校生徒数	14,624
10	市職員数	2,712
11	歳入決算	236,422,157
12	市内鉄道駅 【JR】八王子、西八王子、高尾、八王子みなみ野【京王線】南大沢、京王八王子、京王堀之内	

多摩市

1	人口	147,776
2	世帯数	75,076
3	面積	21.01
4	事業所数	3,071
5	従業員数	59,728
6	年間販売額	486,743
7	製造品出荷額等	26,558
8	小学校児童数	6,800
9	中学校生徒数	3,866
10	市職員数	767
11	歳入決算	64,351,934
12	市内鉄道駅 【京王線】京王多摩センター、聖蹟桜ヶ丘、京王永山【小田急線】小田急多摩センター【多摩都市モノレール】多摩センター	

立川市

1	人口	185,825
2	世帯数	96,728
3	面積	24.36
4	事業所数	6,342
5	従業員数	114,582
6	年間販売額	810,035
7	製造品出荷額等	76,528
8	小学校児童数	8,767
9	中学校生徒数	3,780
10	市職員数	985
11	歳入決算	95,140,663
12	市内鉄道駅 【JR】立川【西武線】玉川上水【多摩都市モノレール】立川北、立川南	

相模原市

1	人口	723,586
2	世帯数	348,216
3	面積	328.91
4	事業所数	15,860
5	従業員数	231,221
6	年間販売額	1,159,296
7	製造品出荷額等	1,240,617
8	小学校児童数	33,187
9	中学校生徒数	16,858
10	市職員数	7,917
11	歳入決算	343,572,718
12	市内鉄道駅 【JR】橋本、淵野辺、相模原、古淵【京王線】橋本【小田急線】相模大野、小田急相模原	

藤沢市

1	人口	443,986
2	世帯数	201,943
3	面積	69.56
4	事業所数	10,435
5	従業員数	155,573
6	年間販売額	779,509
7	製造品出荷額等	1,783,072
8	小学校児童数	24,346
9	中学校生徒数	13,384
10	市職員数	2,782
11	歳入決算	175,344,387
12	市内鉄道駅 【JR】藤沢、辻堂【小田急線】藤沢、湘南台、長後、六会日大前【地下鉄】湘南台	

基礎データ 時点・単位等

1	人口	時点: 2024年1月1日現在、2024年10月1日現在(相模原市)、2023年10月1日現在(藤沢市)／単位: 人
2	世帯数	時点: 2024年1月1日現在、2024年10月1日現在(相模原市)、2023年10月1日現在(藤沢市)／単位: 世帯
3	面積	時点: 2022年10月1日現在、2025年1月1日現在(相模原市)、2024年10月1日現在(藤沢市)／単位: km ²
4	事業所数	時点: 2024年6月1日現在／単位: 事業所
5	従業員数	時点: 2024年6月1日現在／単位: 人
6	年間販売額	時点: 2020年／単位: 百万円
7	製造品出荷額等	時点: 2022年／単位: 百万円
8	小学校児童数	時点: 2024年4月1日現在、2024年5月1日現在(相模原市、藤沢市)／単位: 人 ※国立・公立・私立小学校の児童数
9	中学校生徒数	時点: 2024年4月1日現在、2024年5月1日現在(相模原市、藤沢市)／単位: 人 ※国立・公立・私立中学校の生徒数
10	市職員数	時点: 2024年4月1日現在／単位: 人 ※P.169【注1.2】参照
11	歳入決算	時点: 2023年度／単位: 千円
12	市内鉄道駅	2023年度に年間500万人以上が乗車した駅のみを記載(同一社線内の乗り継ぎは除く)、相模原市は乗降人員数が年間1000万人以上の駅を記載。

出典:

4～6「経済センサス」、7「経済構造実態調査」、10「地方公共団体定員管理調査」総務省自治行政局、
12「東京都統計年鑑」東京都総務局統計部、上記以外は「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会、
相模原市は「相模原市統計書」、藤沢市は「藤沢市統計年報」

I 基礎指標

1 人口・世帯

<ポイント>

(1) 人口

- 人口は、男女とも2021年～2023年まではわずかに増加していたが、2024年以降は減少傾向にある。【(1)①参照】

(2) 世帯

- 世帯数は年々増加、1世帯あたり人員は年々減少している。【(2)①参照】
- 世帯構成比は、多摩26市平均と比べて親族世帯が高く、単独世帯が低い。【(2)③参照】

(3) 年齢別人口

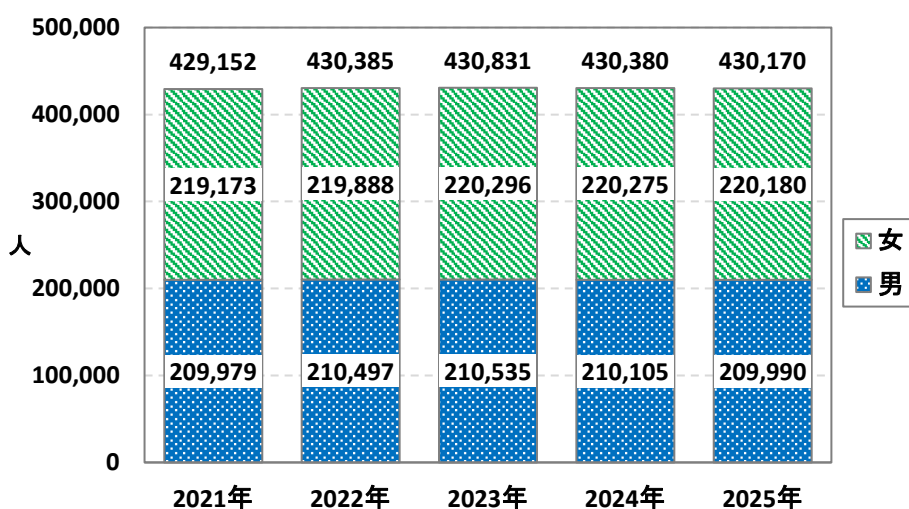
- 年少人口の割合は年々減少、生産年齢人口と老年人口は年々増加している。
【(3)①参照】
- 多摩26市平均と比べて生産年齢人口の割合が低く、老年人口が高い。【(3)②参照】

(6) 外国人登録人口

- 外国人登録人口は、年々増加している。【(6)①参照】

(1)人口

①人口 (No.1-1-1-1)



<前年との比較>

- ・人口: 0.05%減
- ・「女」: 0.04%減
- ・「男」: 0.05%減

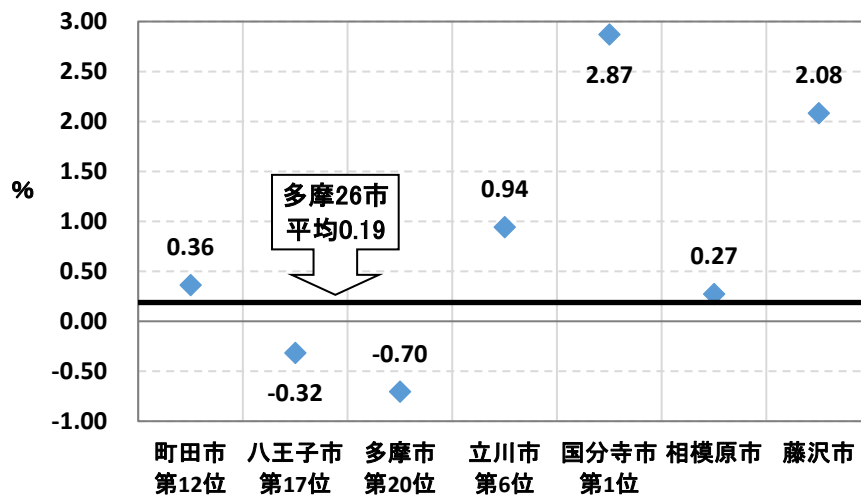
<2021年との比較>

- ・人口: 0.24%増
- ・「女」: 0.46%増
- ・「男」: 0.01%増

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②人口増加率(No.1-1-1-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

・0.18ポイント高い

<比較市との比較>

・4市の中で2番目に高い

<26市ランキング>

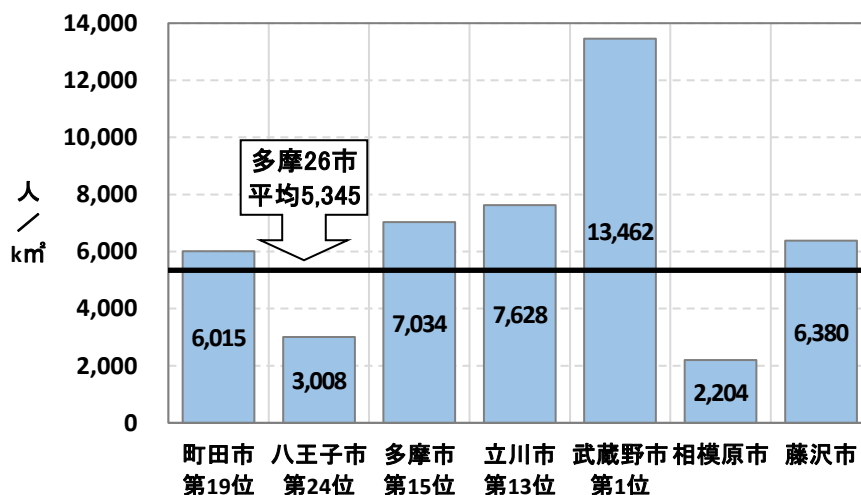
第1位: 国分寺市	2.87
第2位: 稲城市	2.45
第3位: 小金井市	1.89
	(%)

【注1】 人口増加率 = (2024年度人口 - 2020年度人口) / 2020年度人口 × 100

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③人口密度(No.1-1-1-3)【他市比較】



<26市平均との比較>

・12.5%高い

<26市ランキング>

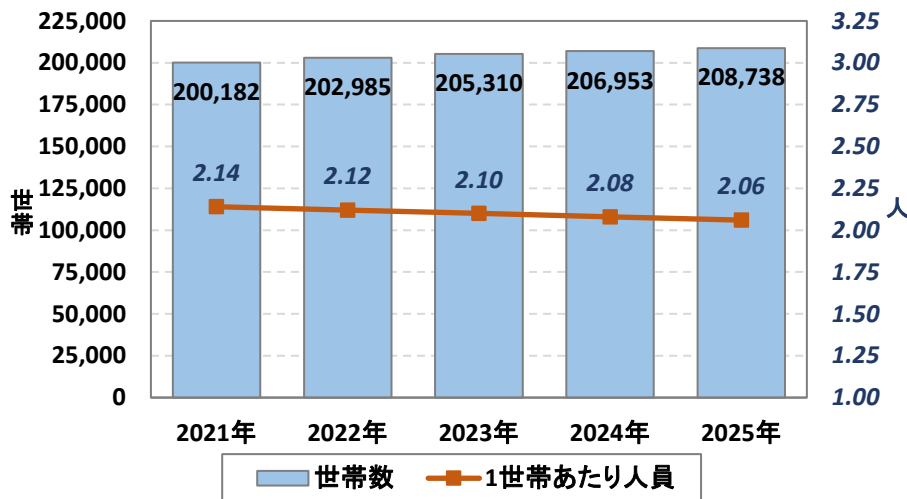
第1位: 武蔵野市	13,462
第2位: 西東京市	13,073
第3位: 狛江市	12,849
	(人/km²)

【時点】 2024年1月1日現在(人口)、2022年10月1日現在(市域面積)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(2) 世帯

① 世帯数、1世帯あたり人員 (No.1-1-2-1)



<前年との比較>

- ・世帯数: 0.86%増
- ・1世帯あたり人員: 0.96%減

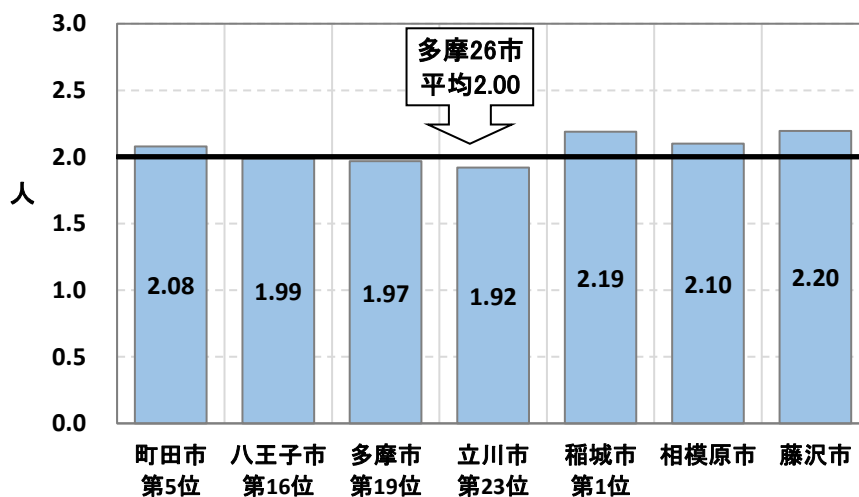
<2021年との比較>

- ・世帯数: 4.27%増
- ・1世帯あたり人員: 3.74%減

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

② 1世帯あたり人員 (No.1-1-2-2) 【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・3.9%多い

<比較市との比較>

- ・4市の中で最も多い

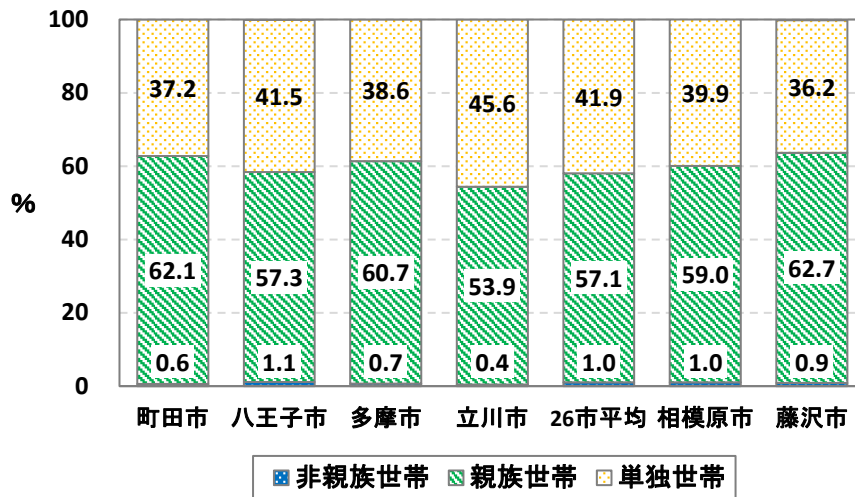
<26市ランキング>

- 第1位: 稲城市 2.19
 - 第2位: 武蔵村山市 2.16
 - 第3位: あきる野市 2.14
- (人)

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③世帯構成比(No.1-1-2-3)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・「単独世帯」:
4.7ポイント低い
- ・「親族世帯」:
5.1ポイント高い

＜比較市との比較＞

- ・4市の中で「親族世帯」の割合が最も高い。

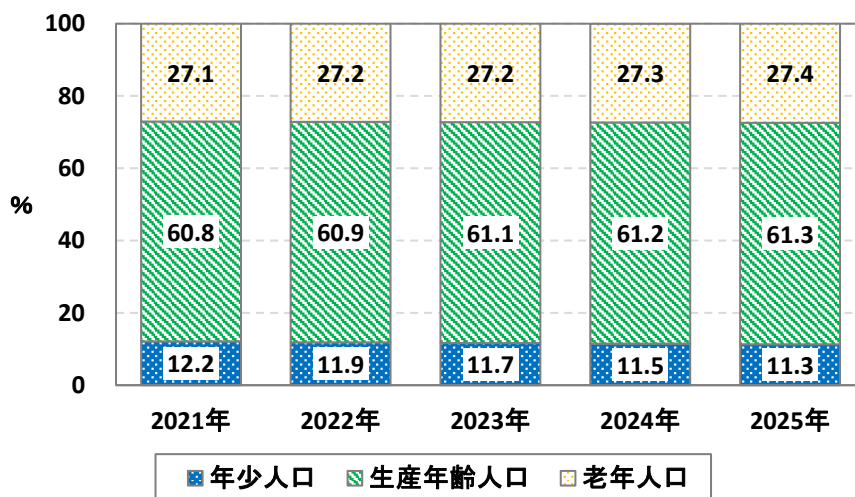
【注 1】 総数は「不詳」を含むため、構成比の合計が100%にならない場合もある。

【時点】 2020年10月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(3) 年齢別人口

①年齢(3区分)別人口構成比(No.1-1-3-1)



＜前年との比較＞

- ・「生産年齢人口」:
0.1ポイント上昇

＜2021年との比較＞

- ・「老年人口」:
0.3ポイント上昇
- ・「生産年齢人口」:
0.6ポイント上昇
- ・「年少人口」:
0.9ポイント低下

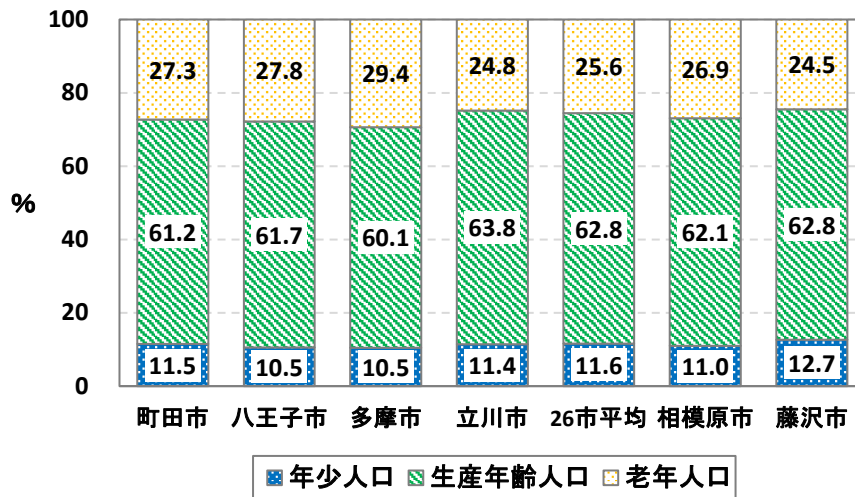
【注 1】 年少人口は、0～14歳の人口。生産年齢人口は、15～64歳の人口。
老年人口は、65歳以上の人口。

【注 2】 年齢不詳者を含まない。

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②年齢(3区分)別人口構成比(No.1-1-3-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・「老年人口」:
1.7ポイント高い
- ・「生産年齢人口」:
1.6ポイント低い
- ・「年少人口」:
0.1ポイント低い

<比較市との比較>

- ・4市の中で「年少人口」が最も高い

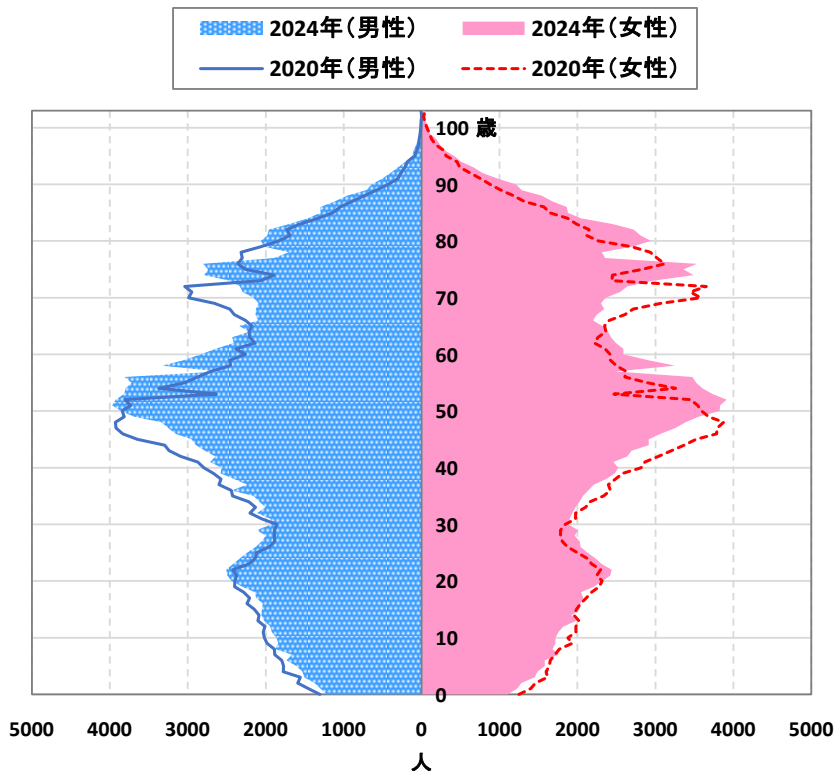
【注 1】 年少人口は、0～14歳の人口。生産年齢人口は、15～64歳の人口。
老年人口は、65歳以上の人口。

【注 2】 年齢不詳者を含まない。

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③人口ピラミッド(No.1-1-3-3)



<2020年との比較>

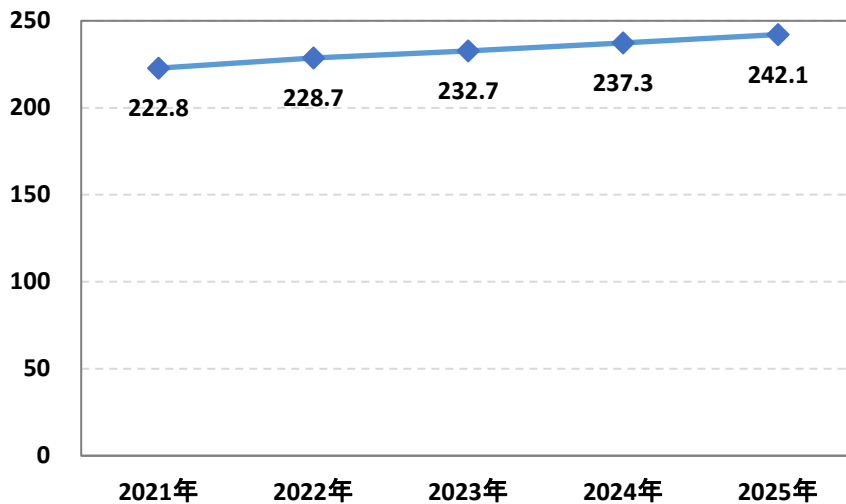
- ・男女とも高齢化が進んでいる
- ・20～30歳が微増している
- ・31～49歳が減少している
- ・50～65歳が微増している

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」

(4) 老年化指数

① 老年化指数 (No.1-1-4-1)



<前年との比較>

・4.8ポイント上昇

<2021年との比較>

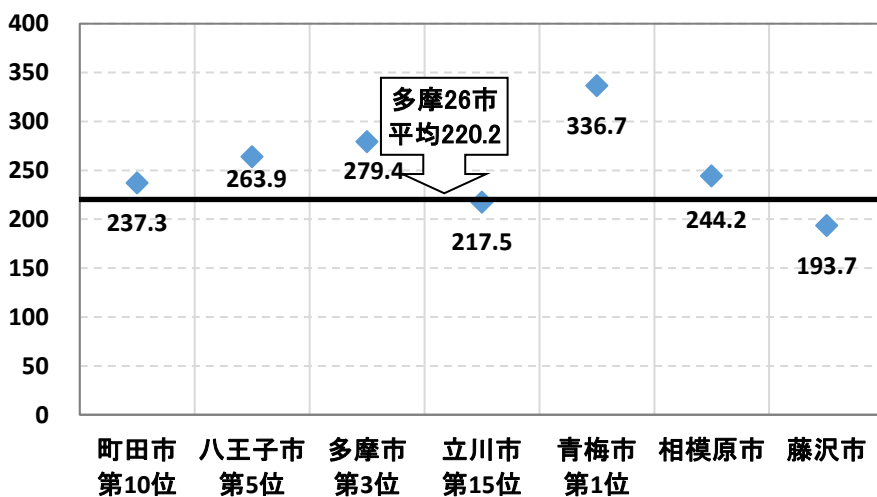
・19.3ポイント上昇

【注 1】 老年化指数＝老年人口／年少人口×100

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

② 老年化指数 (No.1-1-4-2) 【他市比較】



<26市平均との比較>

・17.1ポイント高い

<比較市との比較>

・4市の中で2番目に低い

<26市ランキング>

第1位：青梅市 336.7

第2位：福生市 284.3

第3位：多摩市 279.4

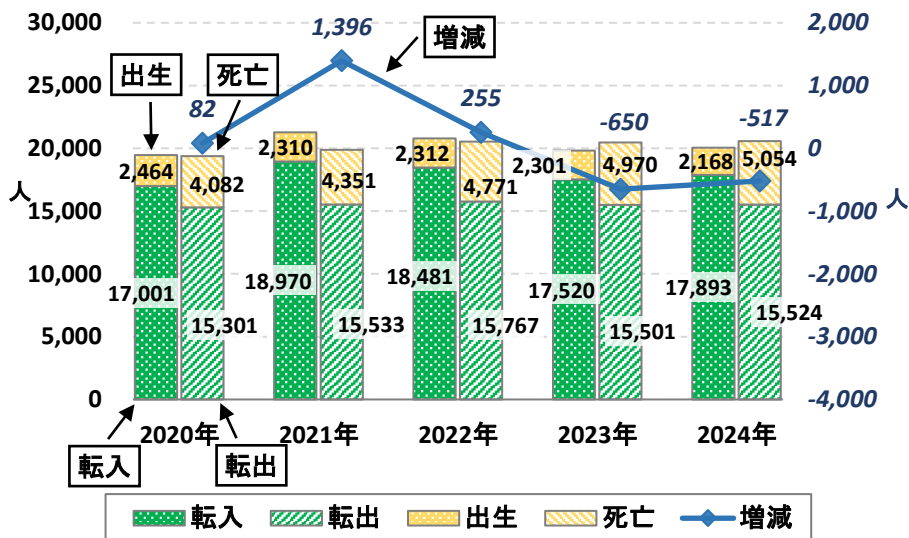
【注 1】 老年化指数＝老年人口／年少人口×100

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(5)人口動態

①人口動態(No.1-1-5-1)



<前年との比較>

- ・「出生」: 5.8%減
- ・「転入」: 2.1%増
- ・「死亡」: 1.7%増
- ・「転出」: 0.1%増

<2020年との比較>

- ・「出生」: 12.0%減
- ・「転入」: 5.2%増
- ・「死亡」: 23.8%増
- ・「転出」: 1.5%増

【注 1】 職権による記載消除、帰化、国外転出入等を除く。

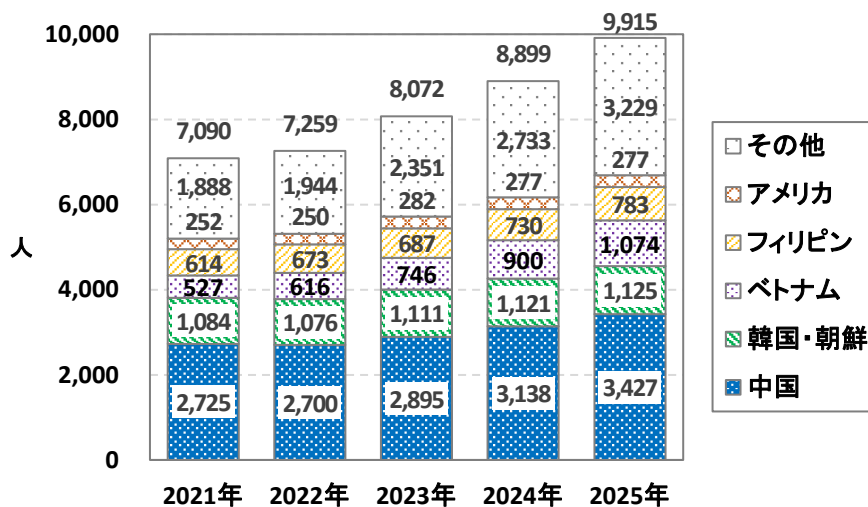
【注 2】 増減は、転入と出生の合計値から、転出と死亡の合計値を差し引いた数値。

【期間】 各年1月1日～12月31日

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

(6)外国人登録人口

①外国人登録人口(No.1-1-6-1)



<前年との比較>

- ・外国人登録人口: 11.4%増
- ・「フィリピン」: 7.3%増
- ・「ベトナム」: 19.3%増
- ・「中国」: 9.2%増

<2021年との比較>

- ・外国人登録人口: 39.8%増
- ・「フィリピン」: 27.5%増
- ・「ベトナム」: 103.8%増
- ・「中国」: 25.8%増

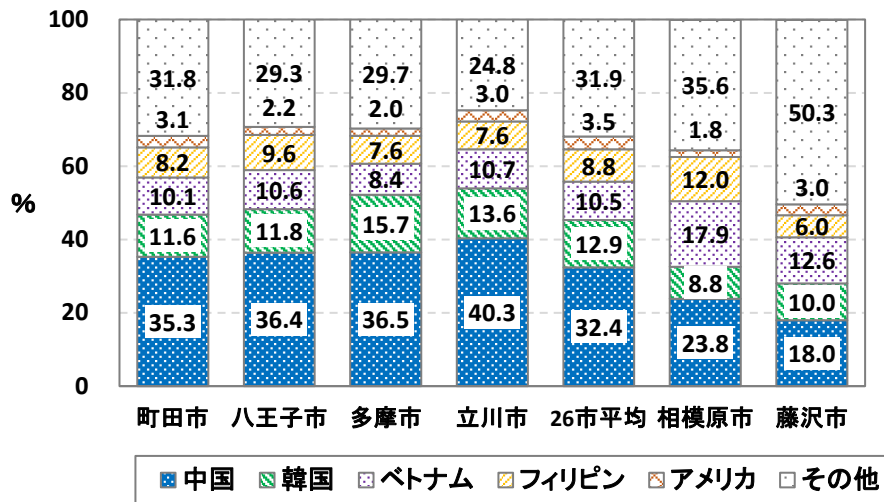
【注 1】 ベトナムは増加傾向であるためデータブック2025年度版から項目に追加。

2025年度版より前のデータブックではベトナムはその他に含まれている。

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会、庁内資料

②外国人登録人口構成比(No.1-1-6-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・「アメリカ」:
0.4ポイント低い
- ・「フィリピン」:
0.6ポイント低い
- ・「ベトナム」:
0.4ポイント低い
- ・「韓国」:
1.3ポイント低い
- ・「中国」:
2.8ポイント高い

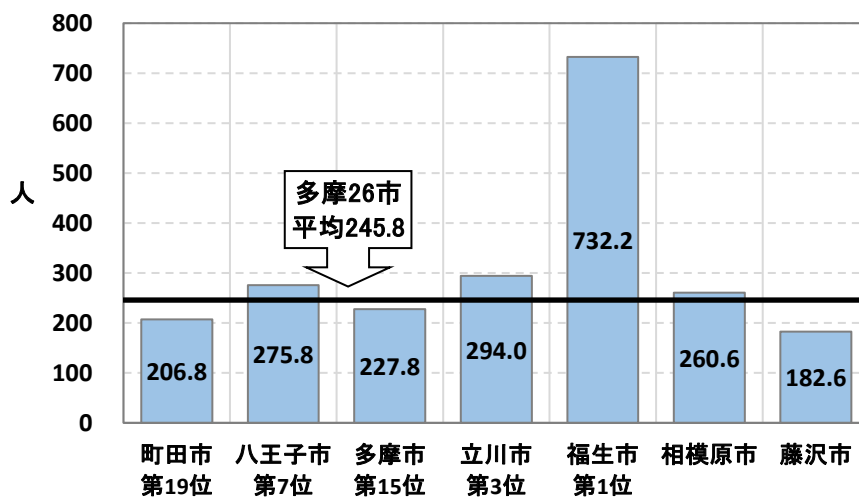
【注 1】 藤沢市の「韓国」は韓国と朝鮮の合計。

【注 2】 ベトナムは増加傾向であるためデータブック2025年度版から項目に追加。
2025年度版より前のデータブックではベトナムはその他に含まれている。

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③市民1万人あたり外国人登録人口(No.1-1-6-3)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・15.9%少ない

<比較市との比較>

- ・4市の中で最も少ない

<26市ランキング>

- | | |
|----------|-------|
| 第1位: 福生市 | 732.2 |
| 第2位: 羽村市 | 333.7 |
| 第3位: 立川市 | 294.0 |
- (人)

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

2 土地利用

＜ポイント＞

(1) 地目別土地面積

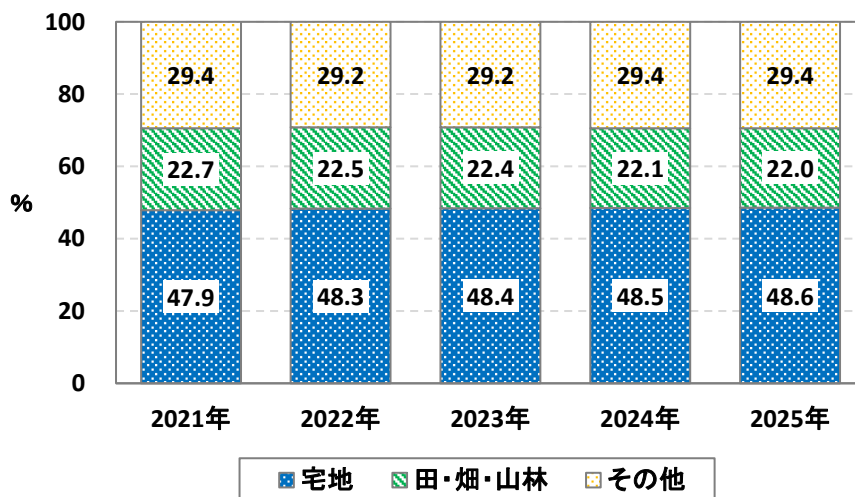
- 宅地の割合は、2021年以降わずかながら上昇傾向にあり、田・畑・山林の割合は、低下傾向にある。【(1)①参照】
- 多摩26市平均と比べて宅地の割合が高く、田・畑・山林が低い。【(1)②参照】

(2) 公示価格

- 公示価格は、2023年以降、住宅地、商業地ともに上昇している。【(2)①参照】
- 多摩26市平均と比べて住宅地が低く、商業地が高い。【(2)②③参照】

(1) 地目別土地面積

①地目別土地面積構成比(No.1-2-1-1)



＜前年との比較＞

- ・「田・畑・山林」:
0.1ポイント低下
- ・「宅地」: 0.1ポイント上昇

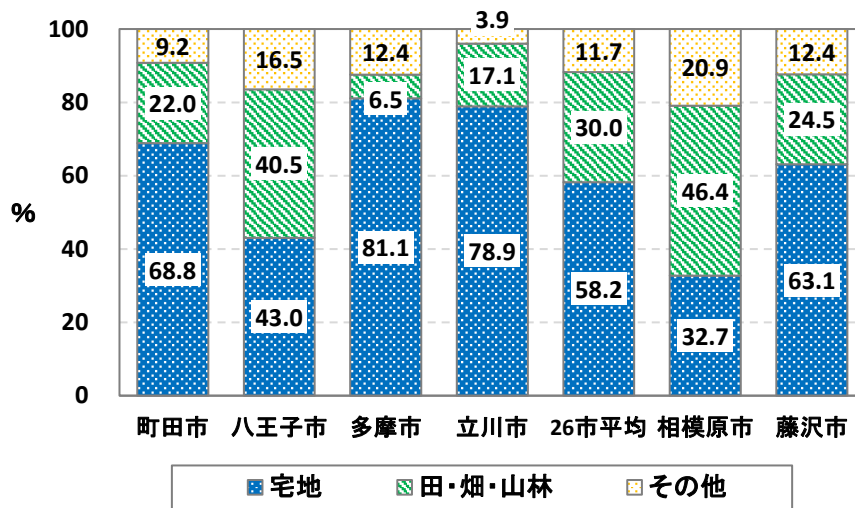
＜2021年との比較＞

- ・「田・畑・山林」:
0.7ポイント低下
- ・「宅地」: 0.7ポイント上昇

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②地目別土地面積構成比(No.1-2-1-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・「田・畑・山林」:
8.1ポイント低い
- ・「宅地」: 10.6ポイント高い

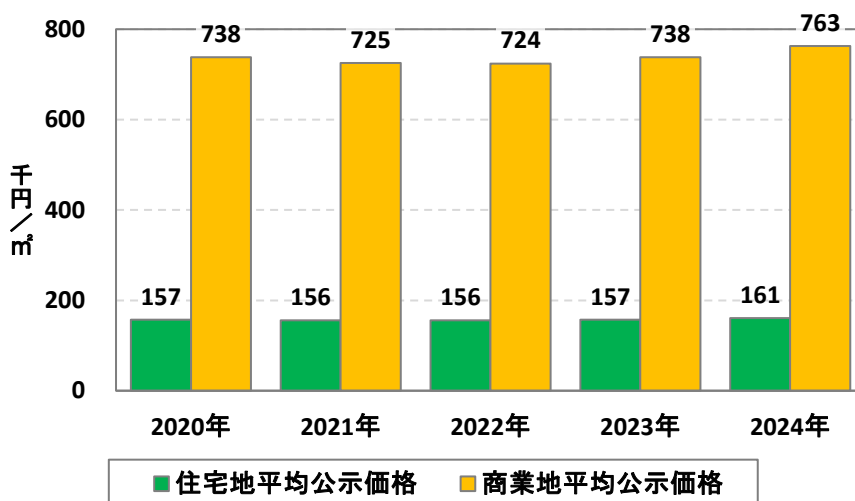
【注 1】 固定資産税が非課税とされている土地(国・公有地、公共用地、墓地、道路、用水路、溜池、保安林、私立学校用地、宗教法人の境内など)は除かれている。

【時点】 2023年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(2) 公示価格

①住宅地・商業地の平均公示価格(No.1-2-2-1)



<前年との比較>

- ・住宅地平均公示価格:
2.5%増
- ・商業地平均公示価格:
3.4%増

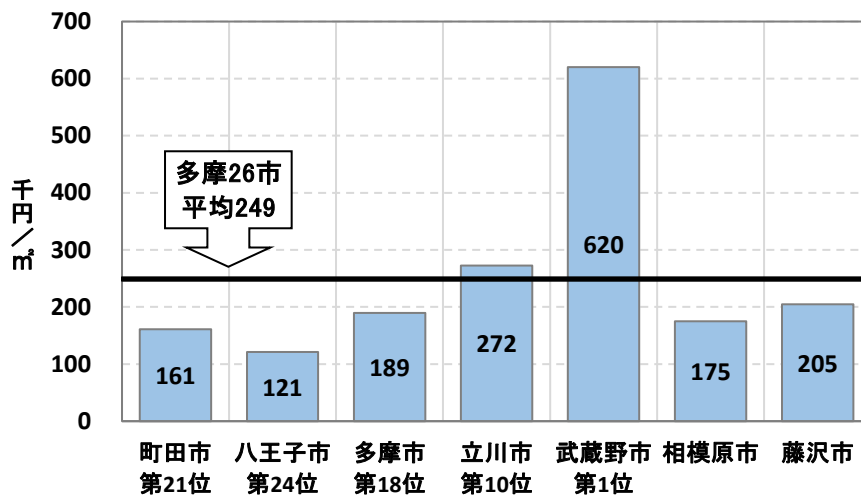
<2020年との比較>

- ・住宅地平均公示価格:
2.5%増
- ・商業地平均公示価格:
3.4%増

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

②住宅地の平均公示価格(No.1-2-2-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

・35.3%低い

<比較市との比較>

・4市の中で2番目に低い

<26市ランキング>

第1位: 武蔵野市 620

第2位: 三鷹市 445

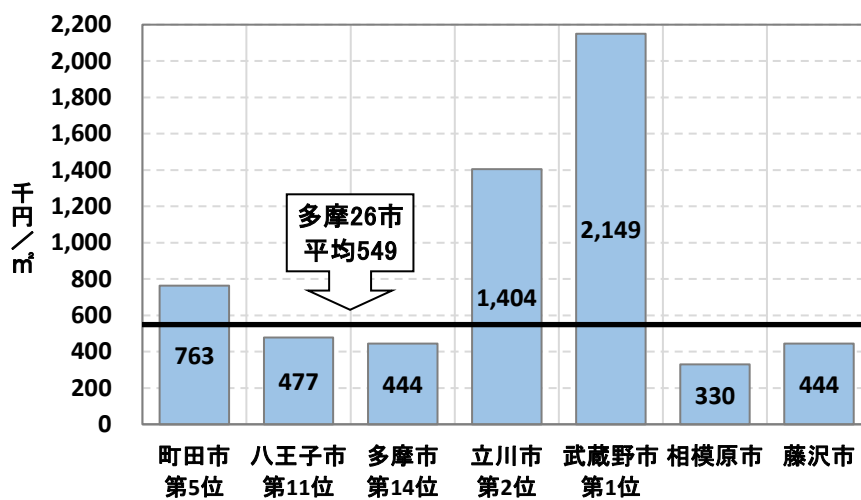
第3位: 調布市 372

(千円/㎡)

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③商業地の平均公示価格(No.1-2-2-3)【他市比較】



<26市平均との比較>

・39.1%高い

<比較市との比較>

・4市の中で2番目に高い

<26市ランキング>

第1位: 武蔵野市 2,149

第2位: 立川市 1,404

第3位: 三鷹市 911

(千円/㎡)

【時点】 2024年1月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

Ⅱ 福祉

1 子ども

<ポイント>

(1) 保育サービス

- 保育サービス提供率(保育所等の定員数／未就学児童数)は、年々上昇している。
【(1)②参照】

(2) 待機児童

- 待機児童数は、2023年度と2024年度は2022年度以前に比べ半数以上減少しているものの、2025年度は前年度より増加している。【(2)①参照】
- 2025年度の待機率(待機児童数／認可保育所の入所児童数)は、0歳児～2歳児で前年度より上昇している。【(2)③参照】

(4) 各種手当

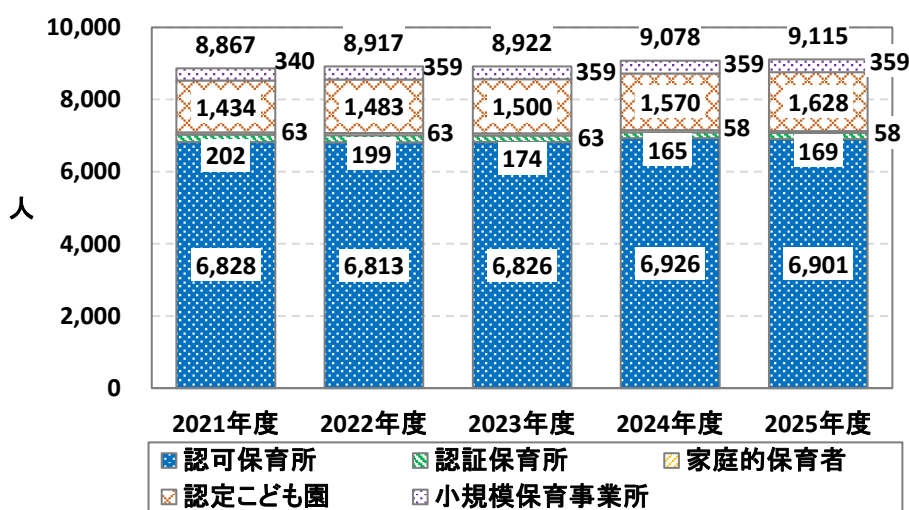
- 2024年度の児童手当の受給者数と支給額は、2020年度以降で最も高い。【(4)①参照】
- 児童育成手当の受給者数と支給額は、年々減少している。【(4)②参照】

(6) ひとり親家庭医療の助成

- 2024年度のひとり親家庭医療費助成金額と助成件数は、前年度より減少している。
【(6)②参照】

(1) 保育サービス

① 保育サービス定員 (No.2-1-1-1)



<前年度との比較>

- ・保育サービス定員：0.4%増
- ・「認定こども園」：3.7%増
- ・「認証保育所」：2.4%増

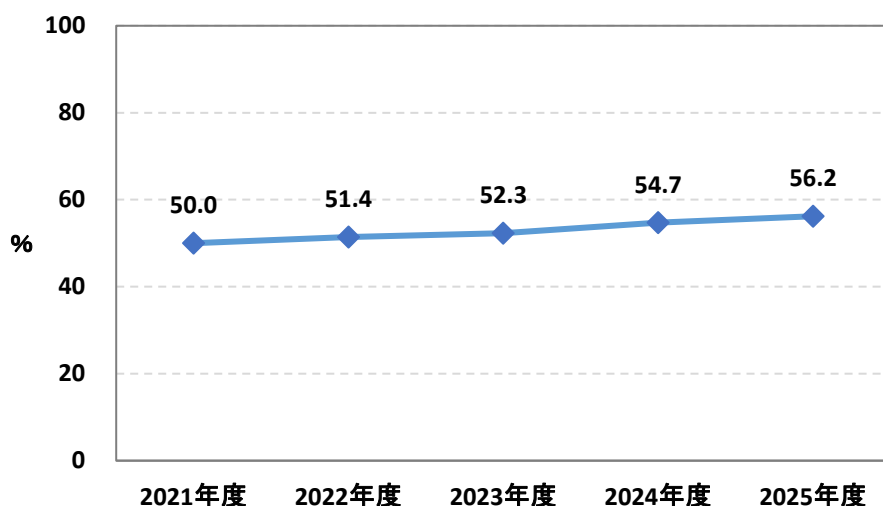
<2021年度との比較>

- ・保育サービス定員：2.8%増
- ・「認定こども園」：13.5%増
- ・「認証保育所」：16.3%減

【時点】 各年度4月1日現在

【出典】 庁内資料

②保育サービス提供率(No.2-1-1-2)



＜前年度との比較＞

・1.5ポイント上昇

＜2021年度との比較＞

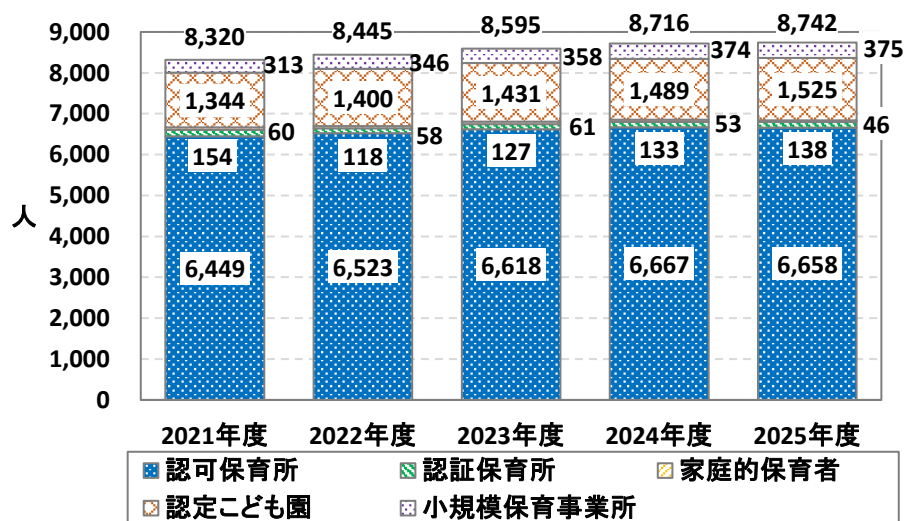
・6.2ポイント上昇

【注 1】 保育サービス提供率＝(認可保育所+認証保育所+家庭的保育者+認定こども園
+小規模保育事業所の定員数)÷未就学児童数×100

【時点】 各年度4月1日現在

【出典】 庁内資料

③保育所等の入所児童数(No.2-1-1-3)



＜前年度との比較＞

・入所児童数:0.3%増

・「認定こども園」:2.4%増

・「認証保育所」:3.8%増

＜2021年度との比較＞

・入所児童数:5.1%増

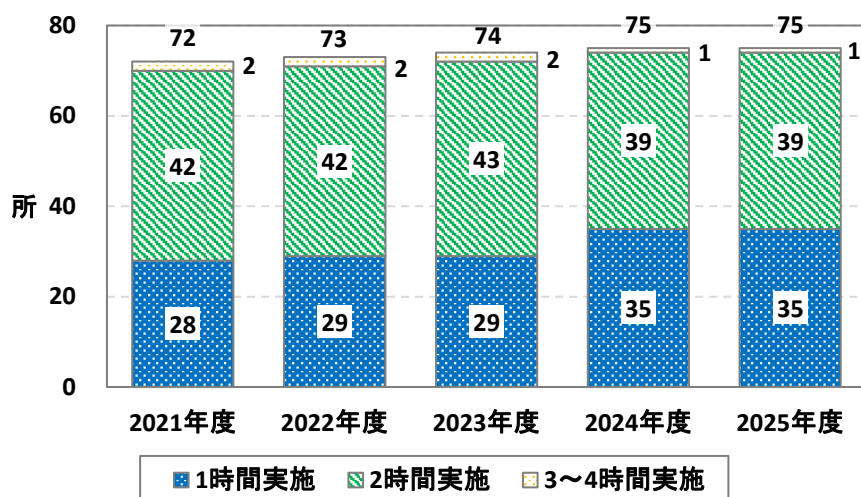
・「小規模保育事業所」:
19.8%増

・「認定こども園」:13.5%増

【時点】 各年度5月1日現在(認可保育所)、各年度4月1日現在(認可保育所以外)

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

④延長保育実施保育所数(No.2-1-1-4)



＜前年度との比較＞

- ・延長保育計：変化なし
- ・延長時間別内訳：変化なし

＜2021年度との比較＞

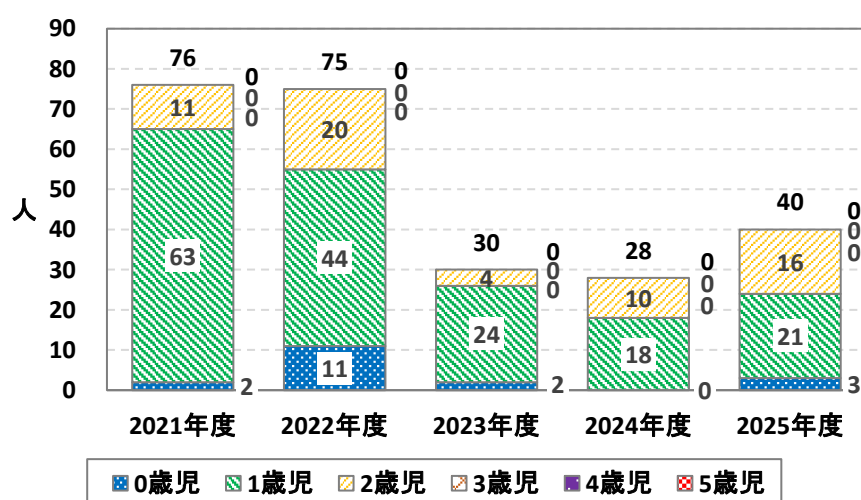
- ・延長保育計：4.2%増
- ・2時間実施：7.1%減
- ・1時間実施：25.0%増

【時点】 各年度4月1日現在

【出典】 庁内資料

(2)待機児童

①待機児童数(No.2-1-2-1)



＜前年度との比較＞

- ・待機児童数：42.9%増
- ・「2歳児」：60.0%増
- ・「1歳児」：16.7%増

＜2021年度との比較＞

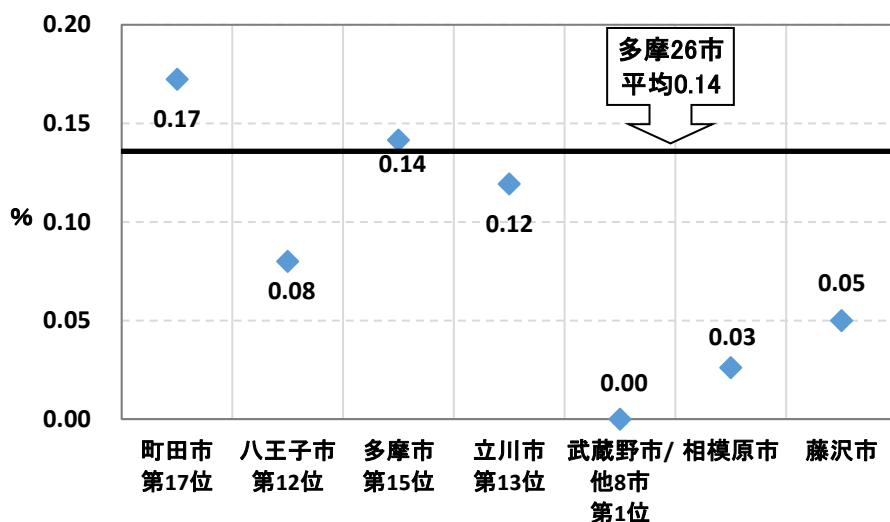
- ・待機児童数：47.4%減
- ・「2歳児」：45.5%増
- ・「1歳児」：66.7%減
- ・「0歳児」：50.0%増

【注 1】 待機児童数＝（認可保育所に申し込んだが入所できなかった児童数）－（第1希望しか希望しなかった人＋第2・3希望なら入所できたが断った人＋何らかの保育施設に入所した人）

【時点】 各年度4月1日現在

【出典】 庁内資料

②待機児童数の就学前児童人口比率(No.2-1-2-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

・0.04ポイント高い

<比較市との比較>

・4市の中で最も高い

<26市ランキング>

第1位: 武蔵野市、三鷹市、
府中市、小金井市、小平市、
福生市、東大和市、
東久留米市、羽村市 0.00

(%)

【注 1】 就学前児童人口は、外国人人口を含まない。

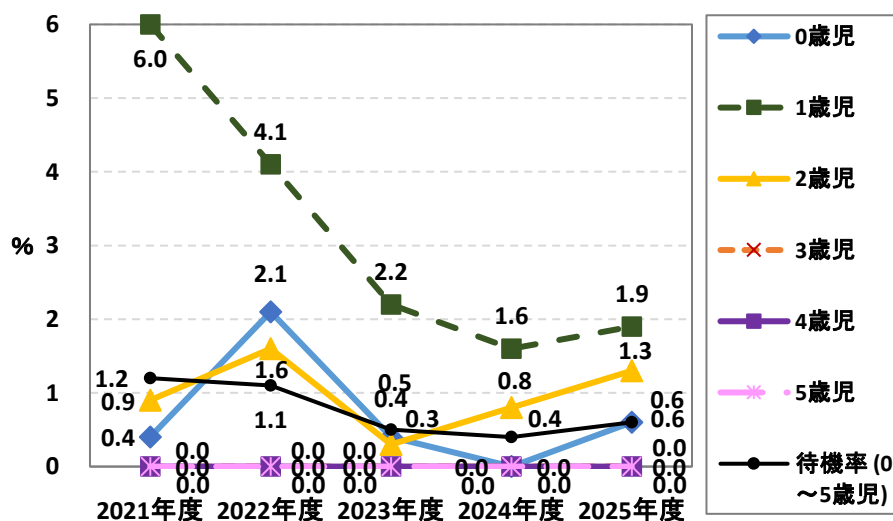
【注 2】 このグラフの26市ランキングについては、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2024年4月1日現在(待機児童数)、

2024年1月1日現在(就学前児童人口)／藤沢市は2024年4月1日現在(就学前児童人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③待機率(No.2-1-2-3)



<前年度との比較>

・待機率(0~5歳児):

0.2ポイント上昇

・「0歳児」:0.6ポイント上昇

・「1歳児」:0.3ポイント上昇

・「2歳児」:0.5ポイント上昇

<2021年度との比較>

・待機率(0~5歳児):

0.6ポイント低下

・「0歳児」:0.2ポイント上昇

・「1歳児」:4.1ポイント低下

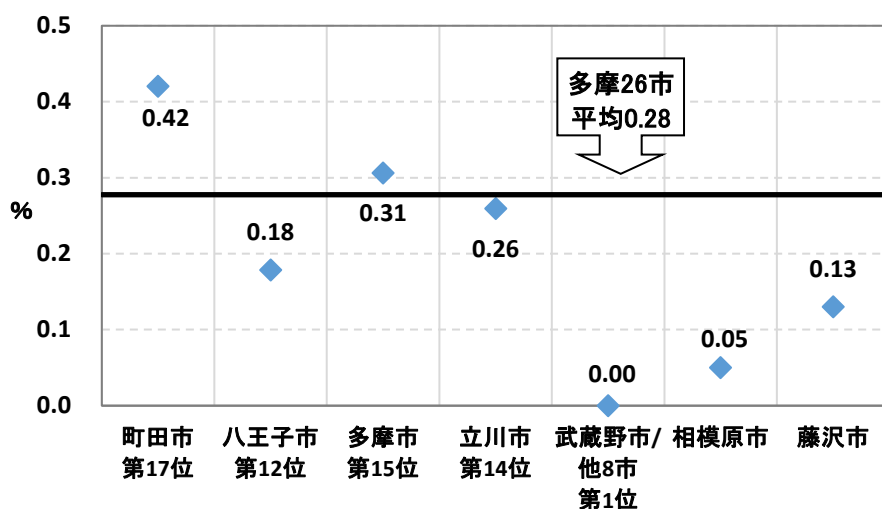
・「2歳児」:0.4ポイント上昇

【注 1】 待機率＝待機児童数／認可保育所の入所児童数×100

【時点】 各年度4月1日現在(待機児童数)、各年度5月1日現在(入所児童数)

【出典】 庁内資料

④待機率(No.2-1-2-4)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

・0.14ポイント高い

＜比較市との比較＞

・4市の中で最も高い

＜26市ランキング＞

第1位：武蔵野市、三鷹市、
府中市、小金井市、小平市、
福生市、東大和市、
東久留米市、羽村市 0.00
(%)

【注 1】 待機率＝待機児童数／認可保育所の入所児童数×100

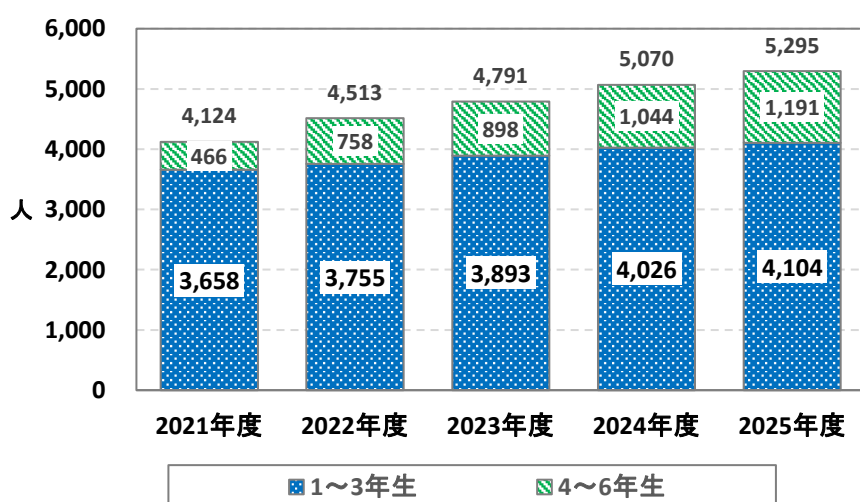
【注 2】 このグラフの26市ランキングについては、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2024年4月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(3)学童保育

①学童保育クラブ入会児童数(No.2-1-3-1)



＜前年度との比較＞

・入会児童数：4.4%増
・「4～6年生」：14.1%増
・「1～3年生」：1.9%増

＜2021年度との比較＞

・入会児童数：28.4%増
・「4～6年生」：155.6%増
・「1～3年生」：12.2%増

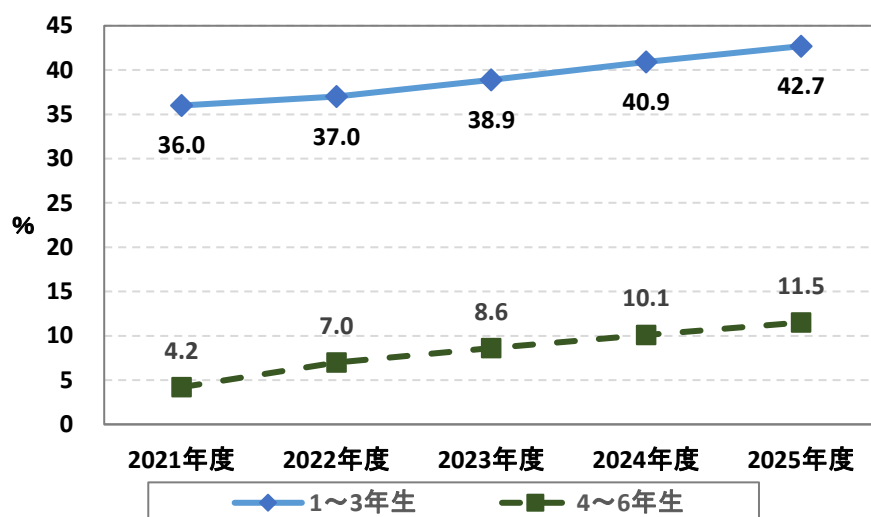
【注 1】 町田市では、年度当初において学童保育の利用希望があった者全員の受け入れを行っている。

【注 2】 2021年度からは高学年(4年～6年)の受け入れを開始。

【時点】 各年度4月1日現在

【出典】 庁内資料

②学童保育クラブ入会児童の割合(No.2-1-3-2)



＜前年度との比較＞

- ・「1～3年生」: 1.8ポイント上昇
- ・「4～6年生」: 1.4ポイント上昇

＜2021年度との比較＞

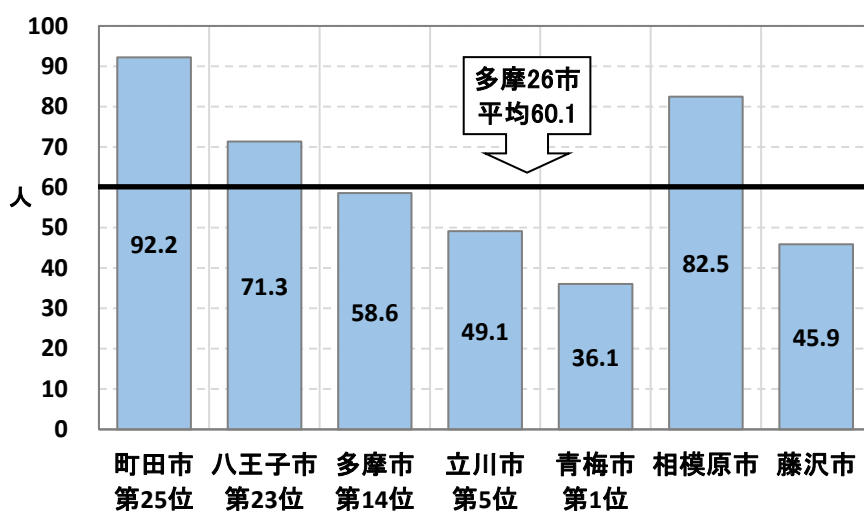
- ・「1～3年生」: 6.7ポイント上昇
- ・「4～6年生」: 7.3ポイント上昇

【注 1】 2021年度からは高学年(4年～6年)の受け入れを開始。

【時点】 各年度4月1日現在(入会児童数)、各年度5月1日現在(1～6年生児童数)

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

③1クラブあたり入会児童数(No.2-1-3-3)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・53.4%多い

＜比較市との比較＞

- ・4市の中で最も多い

＜26市ランキング＞

第1位:	青梅市	36.1
第2位:	国立市	42.2
第3位:	清瀬市	42.9
(人)		

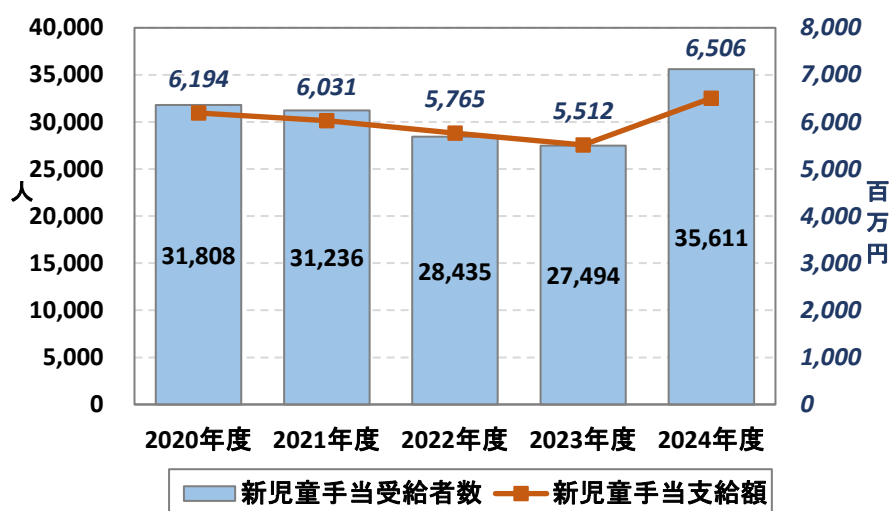
【注 1】 このグラフの26市ランキングについては、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2022年3月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(4) 各種手当

① 児童手当受給者数、支給額(No.2-1-4-1)



＜前年度との比較＞

- ・受給者数: 29.5%増
- ・支給額: 18.0%増

＜2020年度との比較＞

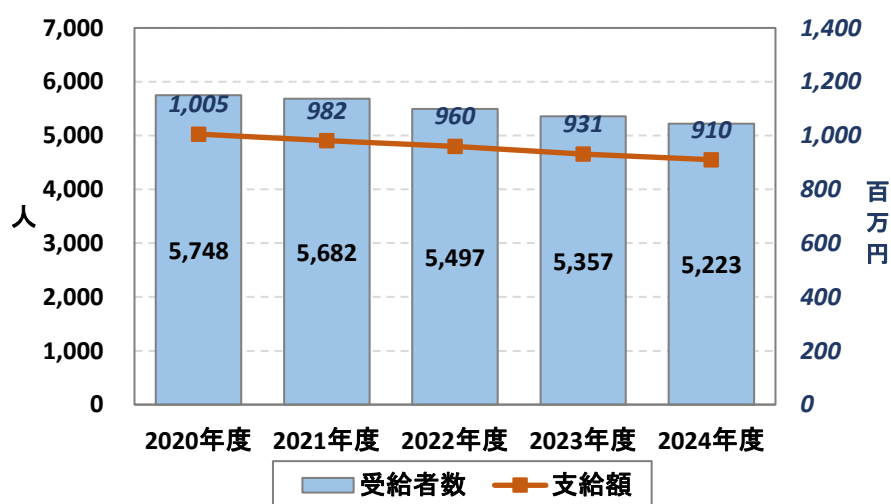
- ・受給者数: 12.0%増
- ・支給額: 5.0%増

【注 1】 2012年4月から制度開始(旧児童手当法の改正による)

【時点】 各年度2月末現在(受給者数) 【期間】 各年度4月1日～3月31日(支給額)

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

② 児童育成手当受給者数、支給額(No.2-1-4-2)



＜前年度との比較＞

- ・受給者数: 2.5%減
- ・支給額: 2.2%減

＜2020年度との比較＞

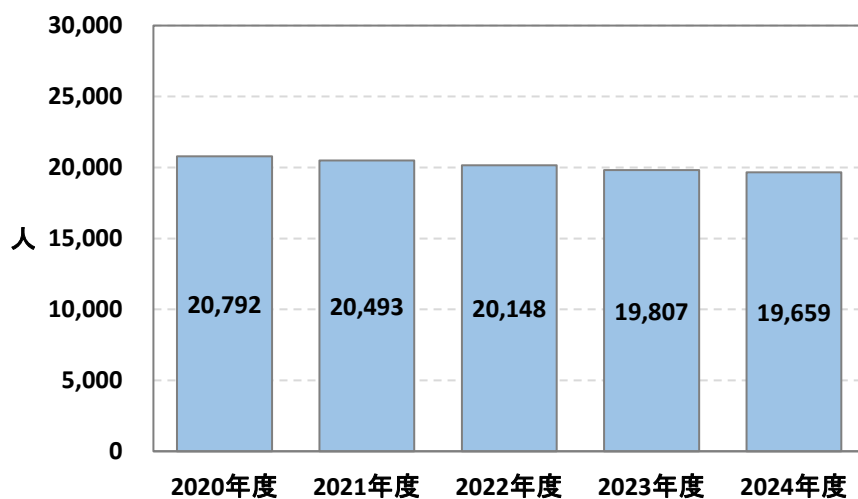
- ・受給者数: 9.1%減
- ・支給額: 9.5%減

【時点】 各年度3月31日現在(受給者数) 【期間】 各年度4月1日～3月31日(支給額)

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

(5) 乳幼児医療の助成

① 乳幼児医療対象者数 (No.2-1-5-1)



<前年度との比較>

・0.7%減

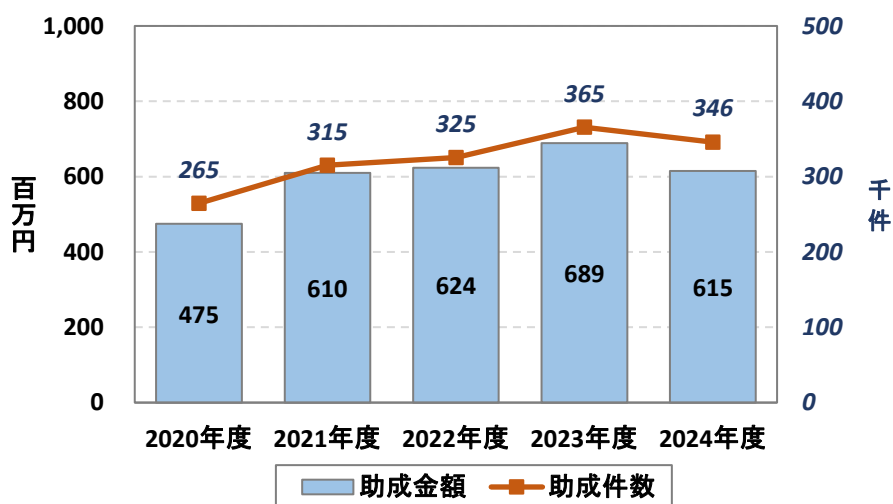
<2020年度との比較>

・5.4%減

【時点】 各年度3月31日現在

【出典】 庁内資料

② 乳幼児医療費助成金額、助成件数 (No.2-1-5-2)



<前年度との比較>

・助成金額: 10.7%増

・助成件数: 5.4%減

<2020年度との比較>

・助成金額: 29.5%増

・助成件数: 30.7%増

【注 1】 現物給付とは、医療証を医療機関の窓口に提示し医療給付を受けることをいう。

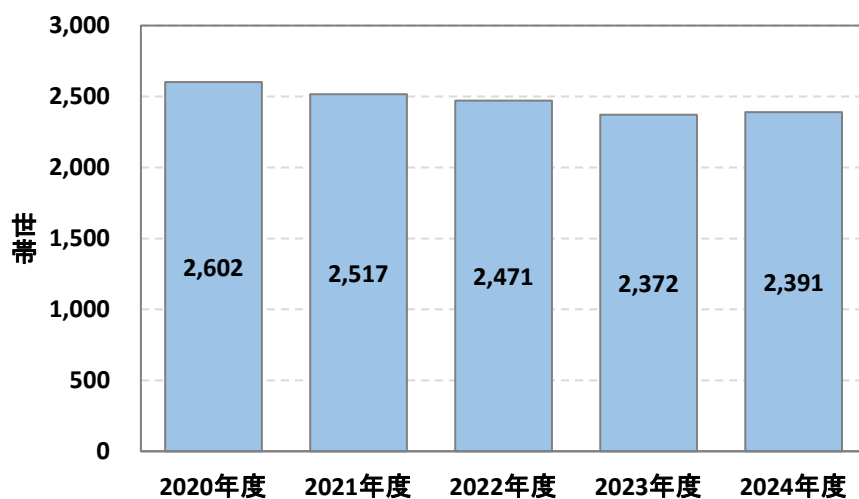
【注 2】 現金給付とは、支払った医療費を市に申請し給付を受けることをいう。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

(6)ひとり親家庭医療の助成

①ひとり親家庭医療費助成医療証交付世帯数(No.2-1-6-1)



<前年度との比較>

・0.8%増

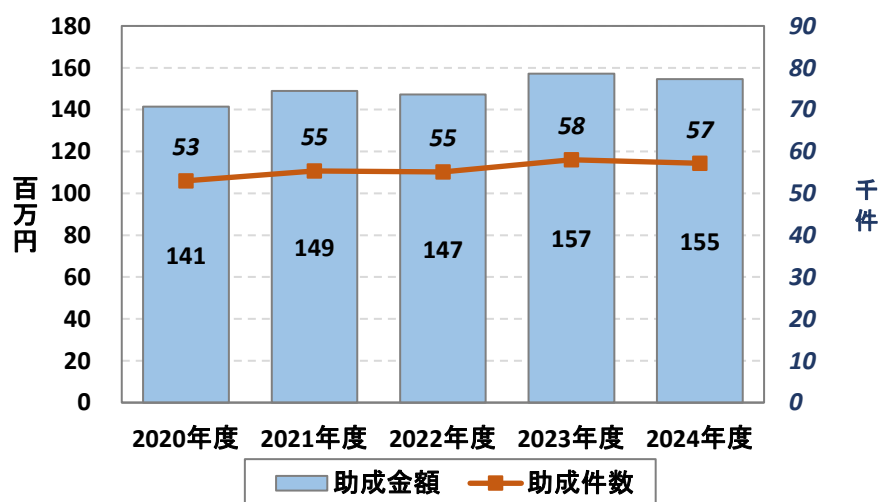
<2020年度との比較>

・8.1%減

【時点】 各年度3月31日現在

【出典】 庁内資料

②ひとり親家庭医療費助成金額、助成件数(No.2-1-6-2)



<前年度との比較>

・助成金額:1.7%減

・助成件数:1.5%減

<2020年度との比較>

・助成金額:9.3%増

・助成件数:7.9%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

2 高齢者

<ポイント>

(1) 高齢者福祉

- 高齢者生活支援事業利用延べ回数は、年々減少しており、特に食事サービスの減少幅が大きい。【(1)①参照】

(2) 高齢者住宅

- 老人ホーム等入所者数は、介護老人保健施設が年々増加している。【(2)②参照】
- 住宅設備改修給付・住宅改修予防給付利用件数は、2022年度以降年々増加している。【(2)③参照】

(3) 介護保険

- 介護保険認定者数は、年々増加している。【(3)④参照】

(6) 仲間づくり、健康づくり、社会参加等

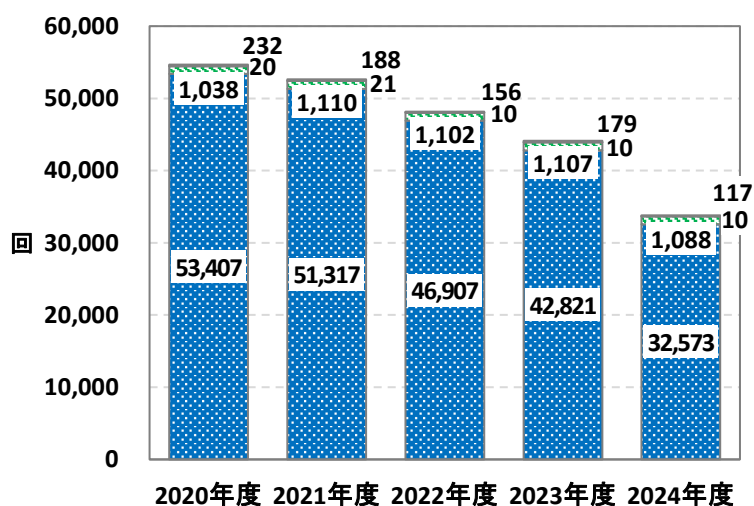
- 老人クラブ数、老人クラブ会員数は、年々減少している。【(6)①参照】

(7) 高齢者福祉センター

- 高齢者福祉センター利用者数は、2022年度以降年々増加している。【(7)①参照】

(1) 高齢者福祉

① 高齢者生活支援事業利用延べ回数 (No.2-2-1-1)



■ 寝具乾燥
 ■ 火災安全単品給付
 ■ 紙おむつ支給
 ■ 食事サービス

<前年度との比較>

- ・「寝具乾燥」: 34.6%減
- ・「紙おむつ支給」: 1.7%減
- ・「食事サービス」: 23.9%減

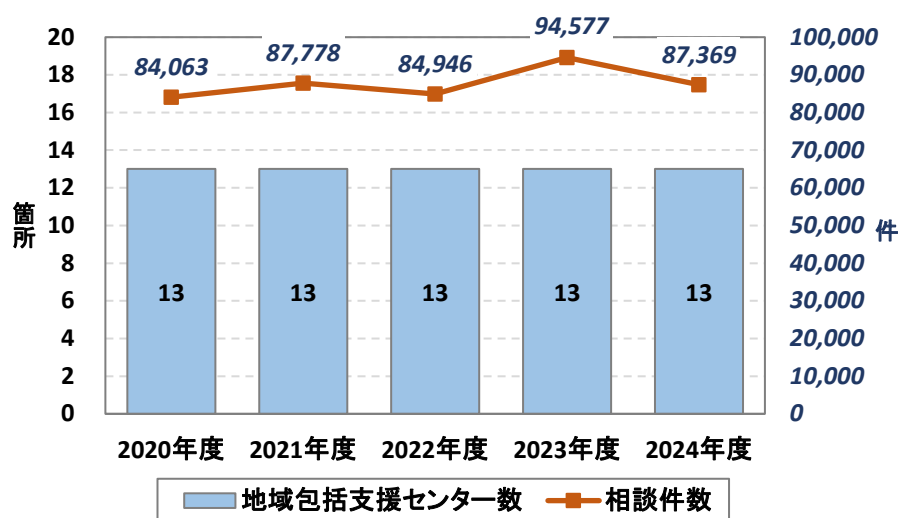
<2020年度との比較>

- ・「寝具乾燥」: 49.6%減
- ・「紙おむつ支給」: 4.8%増
- ・「食事サービス」: 39.0%減

【時点】 各年度末現在

【出典】 庁内資料

②地域包括支援センター数、相談件数(No.2-2-1-2)



＜前年度との比較＞

・相談件数：7.6%減

＜2020年度との比較＞

・相談件数：3.9%増

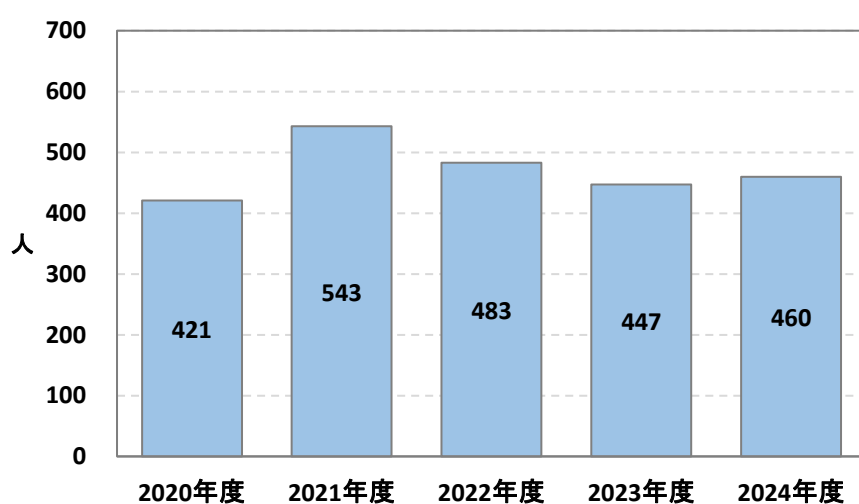
【注 1】 相談対象者は、要支援1、要支援2認定者。

【注 2】 地域包括支援センター数とは、「高齢者支援センター」と「医療と介護の連携支援センター」(2020年4月1日設置)の合計。

【時点】 各年度4月1日現在(地域包括支援センター数)、各年度末現在(相談件数)

【出典】 庁内資料

③成年後見制度相談新規受付者数(高齢者)(No.2-2-1-3)



＜前年度との比較＞

・2.9%増

＜2020年度との比較＞

・9.3%増

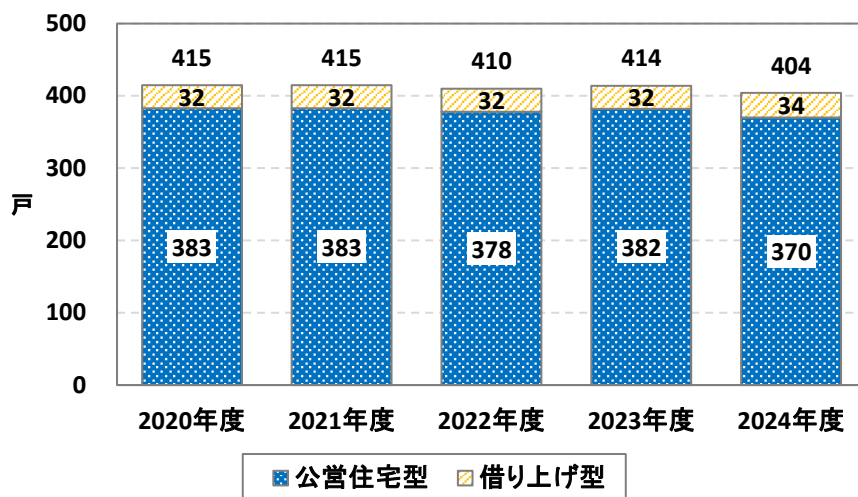
【注 1】 高齢者とは、65歳以上の者のことをいう。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

(2) 高齢者住宅

① 高齢者住宅(シルバーピア)入居戸数(No.2-2-2-1)



<前年度との比較>

- ・入居戸数:2.4%減
- ・「借り上げ型」:6.3%増
- ・「公営住宅型」:3.1%減

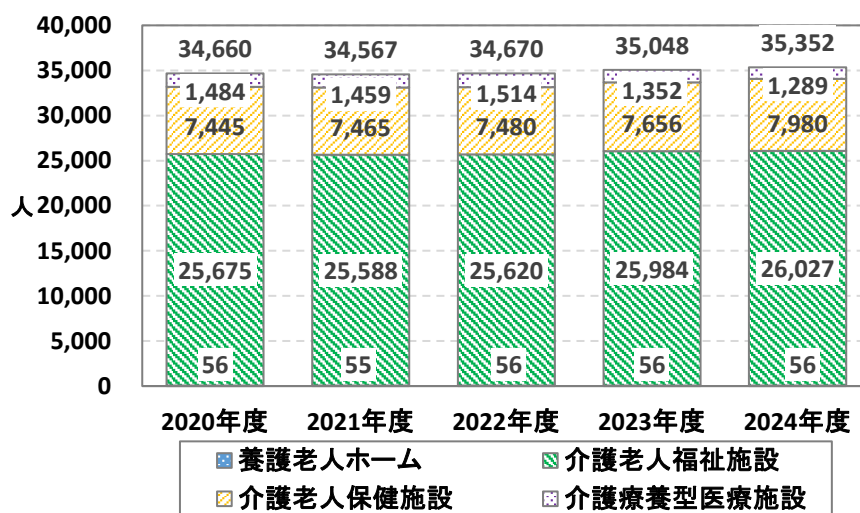
<2020年度との比較>

- ・入居戸数:2.7%減
- ・「借り上げ型」:6.3%増
- ・「公営住宅型」:3.4%減

【時点】 各年度10月1日現在

【出典】 庁内資料

② 老人ホーム等入所者数(No.2-2-2-2)



<前年度との比較>

- ・老人ホーム等入所者数:
0.9%増
- ・「介護老人保健施設」:
4.2%増

<2020年度との比較>

- ・老人ホーム等入所者数:
2.0%増
- ・「介護老人保健施設」:
7.2%増

【注 1】 介護療養型医療施設とは、介護が必要な方で、長期にわたって療養が必要な方や認知症のある方などに対し、療養上の管理、看護、介護及び機能訓練などを行う施設。

【注 2】 介護老人保健施設とは、病状が安定していて入院する必要のない方で、在宅生活に向けてリハビリや介護が必要な方に対し、機能訓練や日常生活への支援を行う施設。

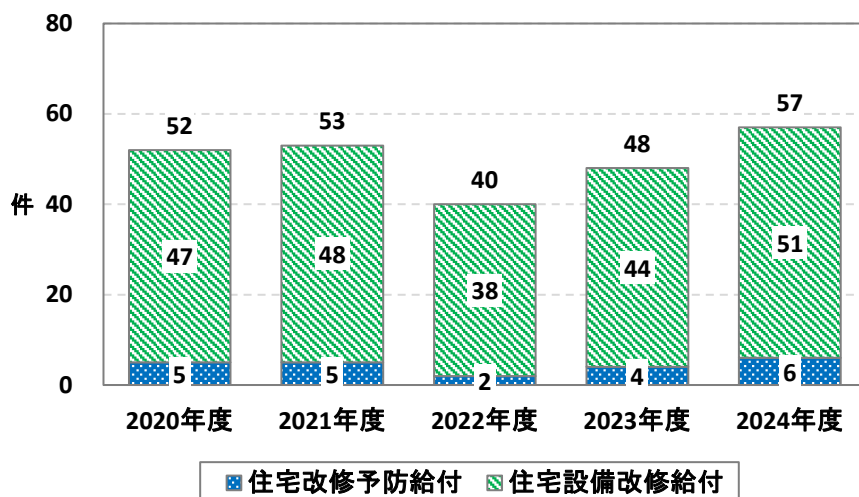
【注 3】 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)とは、介護が必要な方で、寝たきりや認知症等で在宅での生活が困難な方に対し、入浴、排泄、食事などの介護を行う施設。

【注 4】 養護老人ホームとは、身体の衰えや、家族の事情により居宅において生活することが困難で、かつ、経済的にも他の施設に入所することが困難な方が市の措置によって入所する施設。

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

③住宅設備改修給付・住宅改修予防給付利用件数(No.2-2-2-3)



＜前年度との比較＞

・利用件数:18.8%増

・「住宅設備改修給付」:
15.9%増

＜2020年度との比較＞

・利用件数:9.6%増

・「住宅設備改修給付」:
8.5%増

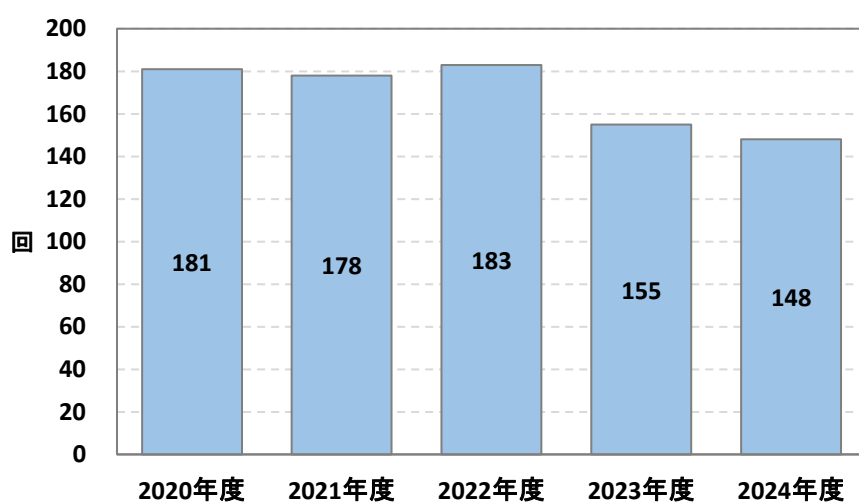
【注 1】 住宅改修予防給付は、介護保険非該当の方のうち、援助が必要な方が対象。

【注 2】 住宅設備改修給付は、介護保険とは異なる制度。

【時点】 各年度末現在

【出典】 庁内資料

④住宅改修支援事業(住宅改修アドバイザー)延べ利用回数(No.2-2-2-4)



＜前年度との比較＞

・4.5%減

＜2020年度との比較＞

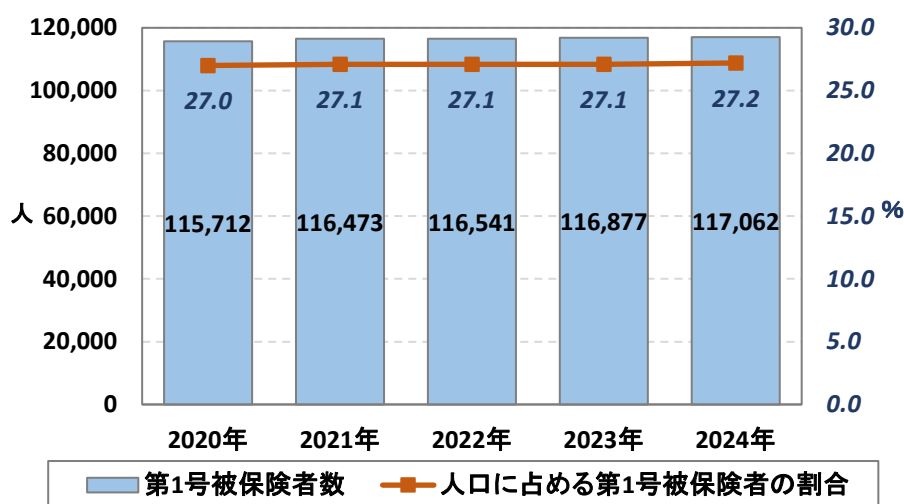
・18.2%減

【時点】 各年度末現在

【出典】 庁内資料

(3)介護保険

①第1号被保険者数、人口に占める第1号被保険者の割合(No.2-2-3-1)



<前年との比較>

- ・第1号被保険者数:
0.2%増
- ・第1号被保険者の割合:
0.1ポイント上昇

<2020年との比較>

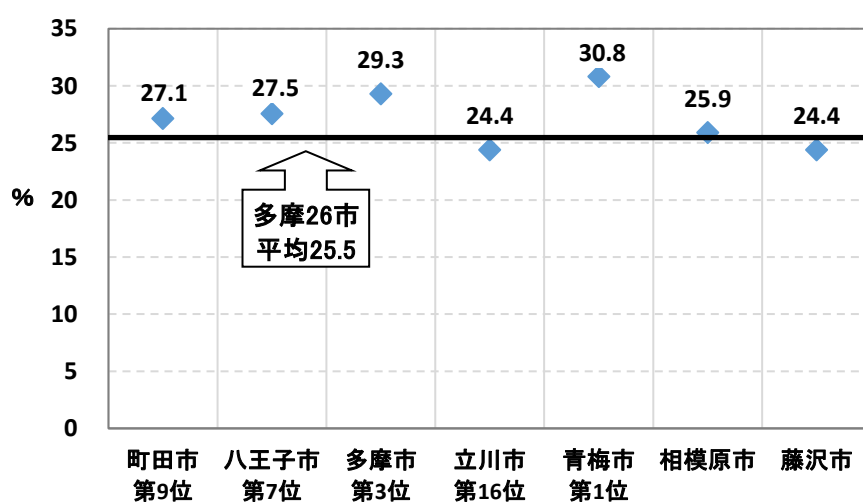
- ・第1号被保険者数:
1.2%増
- ・第1号被保険者の割合:
0.2ポイント上昇

【注 1】 第1号被保険者とは、65歳以上の方をいう。

【時点】 各年1月末現在(第1号被保険者数)、各年2月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

②人口に占める第1号被保険者の割合(No.2-2-3-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・1.7ポイント高い

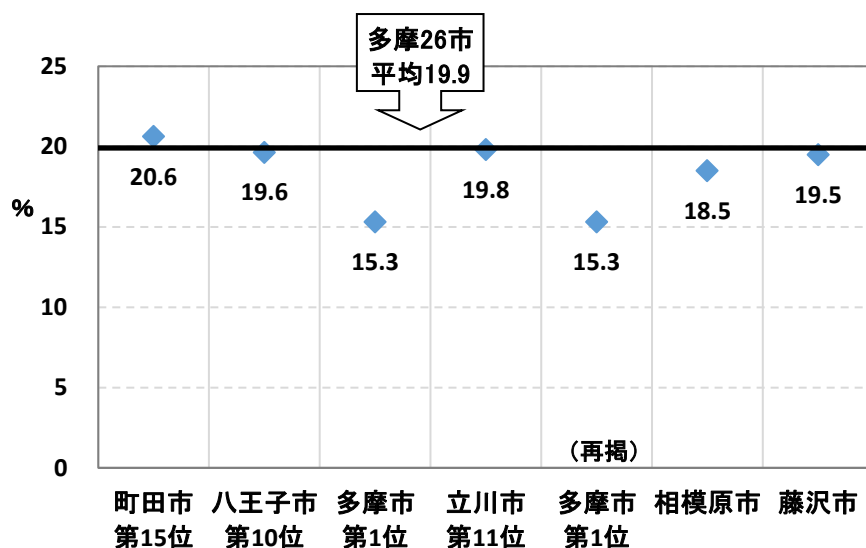
<26市ランキング>

- 第1位: 青梅市 30.8
 - 第2位: あきる野市 29.7
 - 第3位: 多摩市 29.3
- (%)

【時点】 2023年1月末現在(第1号被保険者数)、2023年1月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③第1号被保険者に占める要介護(要支援)認定者(第1号)の割合(No.2-2-3-3)【他市比較】



<26市平均との比較>

・0.7ポイント高い

<26市ランキング>

第1位: 多摩市 15.3

第2位: 青梅市 16.1

第3位: 稲城市 16.1

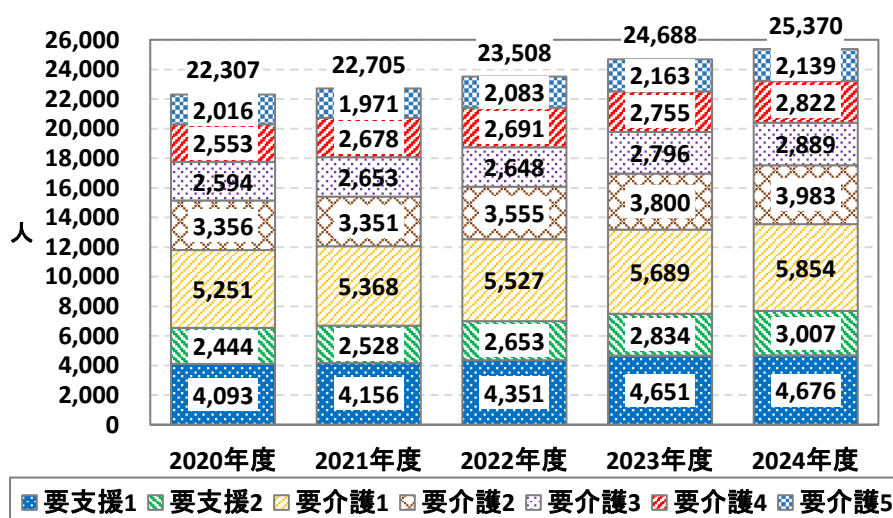
(%)

【注1】 このグラフの26市ランキングについては、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2023年1月末現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

④介護保険認定者数(第1号、第2号)(No.2-2-3-4)



<前年度との比較>

・認定者数:2.8%増

・「要介護3」:3.3%増

・「要介護2」:4.8%増

・「要支援2」:6.1%増

<2020年度との比較>

・認定者数:13.7%増

・「要介護2」:18.7%増

・「要介護1」:11.5%増

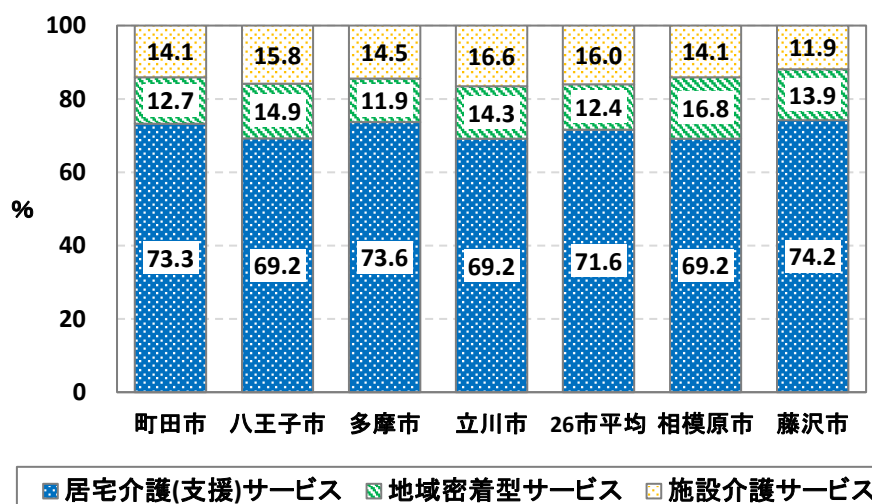
・「要支援2」:23.0%増

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

(4) サービス受給状況

① サービス受給割合(第1号)(No.2-2-4-1)【他市比較】



<26市平均との比較>

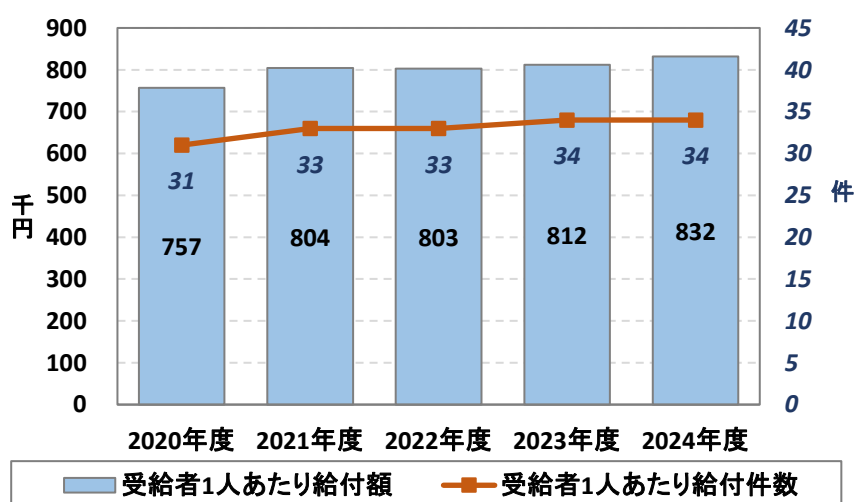
- ・「施設介護サービス」:
1.9ポイント低い
- ・「地域密着型サービス」:
0.2ポイント高い
- ・「居宅介護(支援)サービス」:
1.7ポイント高い

【時点】 2023年1月末現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(5) 後期高齢者医療費等

① 受給者1人あたり後期高齢者医療費給付額、件数(No.2-2-5-1)



<前年度との比較>

- ・受給者1人あたり給付額:
2.5%増
- ・受給者1人あたり給付件数:
変化なし

<2020年度との比較>

- ・受給者1人あたり給付額:
9.9%増
- ・受給者1人あたり給付件数:
9.7%増

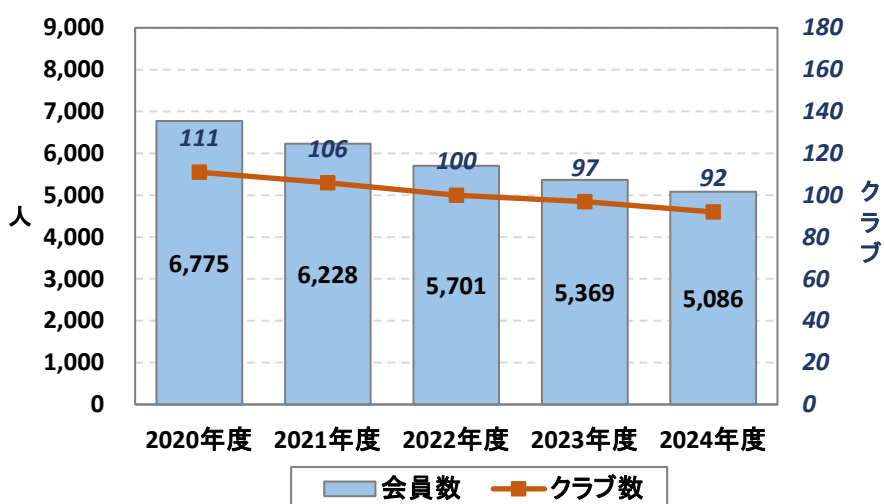
【時点】 各年度平均(受給者数)

【期間】 各年度4月1日～3月31日(給付額、給付件数)

【出典】 東京都後期高齢者医療広域連合資料

(6) 仲間づくり、健康づくり、社会参加等

① 老人クラブ数、会員数(No.2-2-6-1)



<前年度との比較>

- ・会員数: 5.3%減
- ・クラブ数: 5.2%減

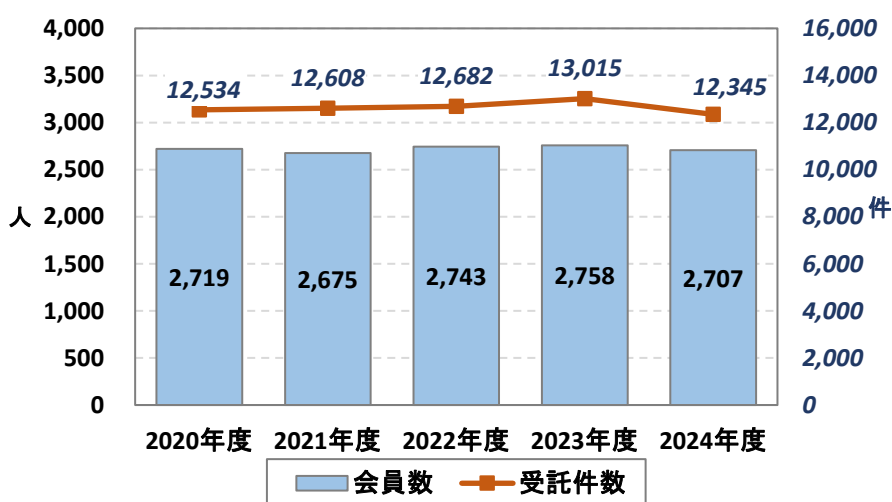
<2020年度との比較>

- ・会員数: 24.9%減
- ・クラブ数: 17.1%減

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

② シルバー人材センター会員数、受託件数(No.2-2-6-2)



<前年度との比較>

- ・会員数: 1.8%減
- ・受託件数: 5.1%減

<2020年度との比較>

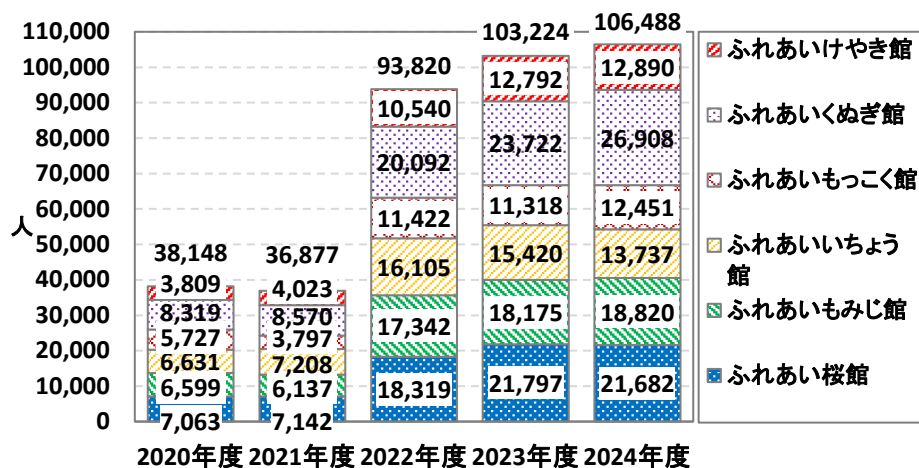
- ・会員数: 0.4%減
- ・受託件数: 1.5%減

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市シルバー人材センター事業実施状況報告書」、庁内資料

(7) 高齢者福祉センター

① 高齢者福祉センター利用者数 (No.2-2-7-1)



<前年度との比較>

- ・利用者数: 3.2%増
- ・「くぬぎ館」: 13.4%増
- ・「いちよう館」: 10.9%減

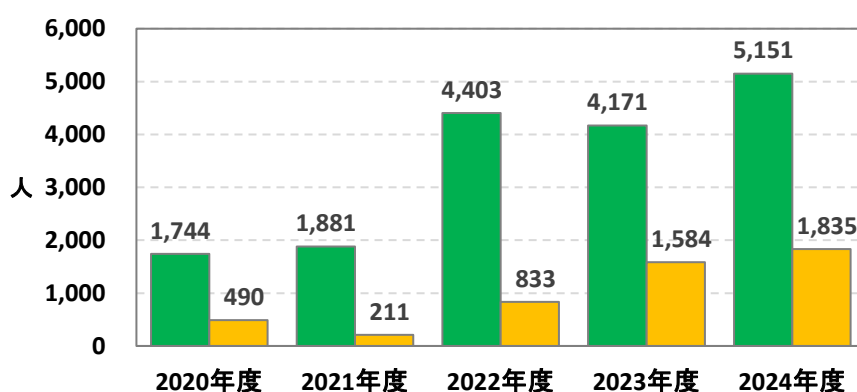
<2020年度との比較>

- ・利用者数: 179.1%増
- ・「けやき館」: 238.4%増
- ・「くぬぎ館」: 223.5%増

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

② 町田市、相模原市の高齢者福祉センター相互利用数 (No.2-2-7-2)



<前年度との比較>

- ・相模原市民数: 23.5%増
- ・町田市民数: 15.8%増

<2020年度との比較>

- ・相模原市民数: 195.4%増
- ・町田市民数: 274.5%増

【時点】 各年度3月末現在

【出典】 庁内資料

3 障がい者

<ポイント>

(1) 障がい者福祉

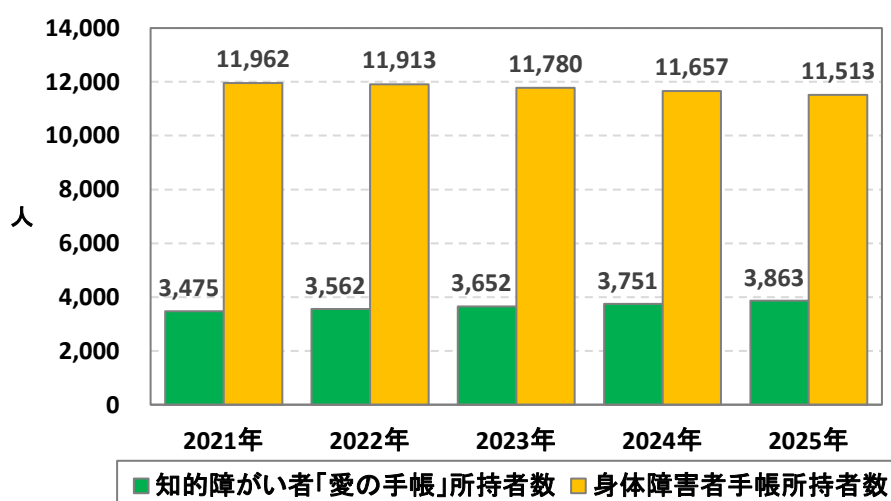
- 知的障がい者「愛の手帳」所持者数は年々増加、身体障害者手帳所持者数は年々減少している。【(1)①参照】

(2) 障がい者雇用

- 障がい者雇用率は、2020年～2023年は年々上昇しているが、2024年はわずかに低下している。【(2)①参照】

(1) 障がい者福祉

① 知的障がい者「愛の手帳」、身体障害者手帳所持者数 (No.2-3-1-1)



<前年との比較>

- ・愛の手帳: 3.0%増
- ・身体障害者手帳: 1.2%減

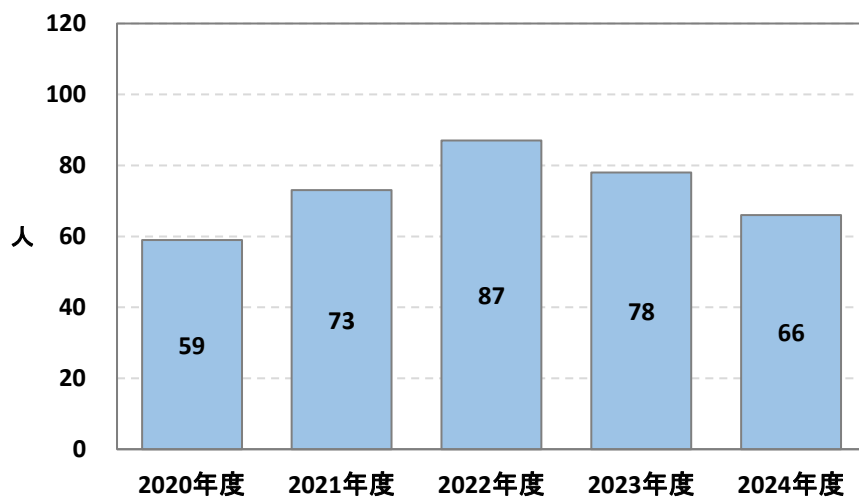
<2021年との比較>

- ・愛の手帳: 11.2%増
- ・身体障害者手帳: 3.8%減

【時点】 各年1月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②成年後見制度相談新規受付者数(障がい者)(No.2-3-1-2)



<前年度との比較>

・15.4%減

<2020年度との比較>

・11.9%増

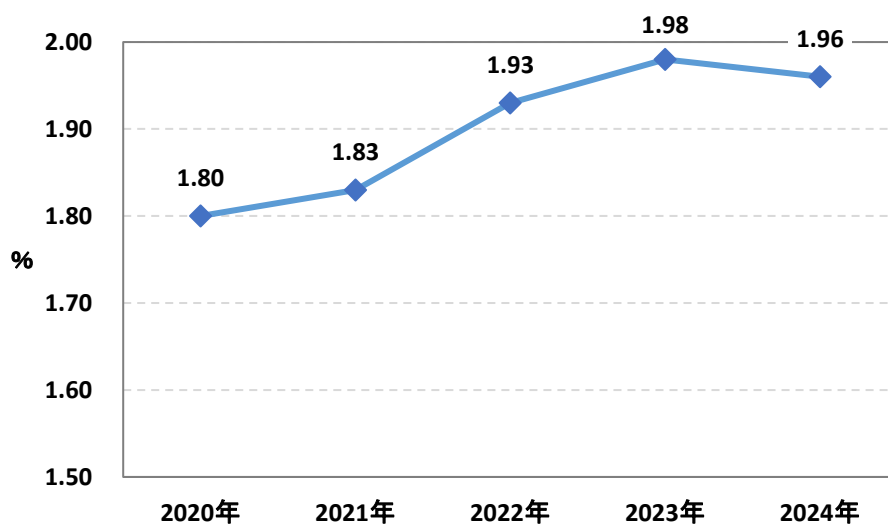
【注 1】 障がい者とは、知的障がいまたは精神障がい者の内、64歳以下の者のことをいう。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

(2)障がい者雇用

①障がい者雇用率(No.2-3-2-1)



<前年との比較>

・0.02ポイント低下

<2020年との比較>

・0.16ポイント上昇

【時点】 各年6月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

4 保健・医療

<ポイント>

(1) 医療施設

- 医療施設数は、2020年度～2023年度までは年々増加、2024年度はわずかに減少している。【(1)①参照】
- 市民1千人あたり病院病床数は、総病床と一般病床のいずれも、多摩26市平均より少ない。【(1)④参照】

(2) 医療従事者

- 医療従事者数は2014年以降で最も多く、看護師・准看護師の増加幅が大きい。【(2)①参照】
- 市民1千人あたり医師数は、2014年～2020年は年々増加、2022年は横ばいであり、多摩26市平均より少ない。【(2)②③参照】

(4) 救急診療

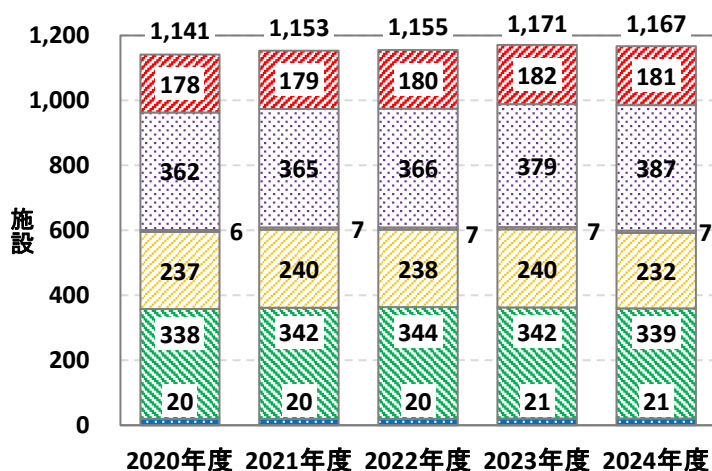
- 救急診療受診患者数は、年々増加している。【(4)①参照】

(5) 健康診査等

- がん検診受診者数は、2020年度以降で最も多い。【(5)②参照】

(1) 医療施設

①医療施設数(No.2-4-1-1)



<前年度との比較>

- ・医療施設数:0.3%減
- ・「施術所」:2.1%増
- ・「歯科診療所」:3.3%減

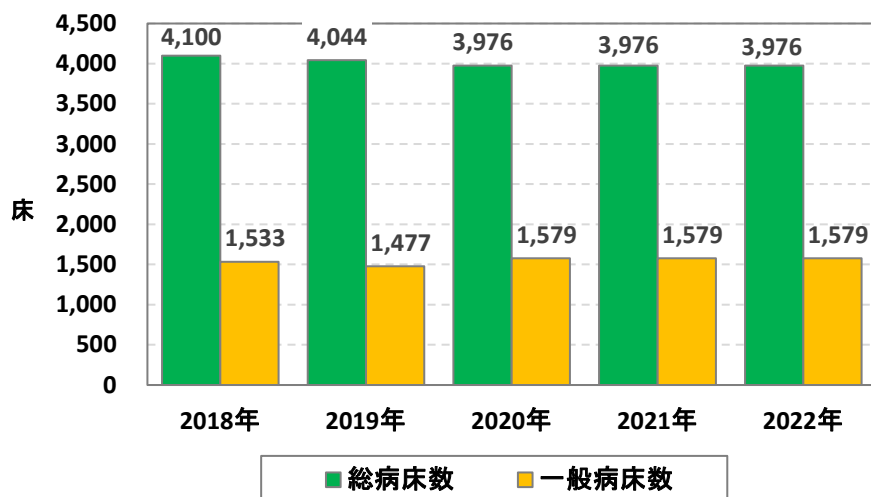
<2020年度との比較>

- ・医療施設数:2.3%増
- ・「薬局」:1.7%増
- ・「施術所」:6.9%増
- ・「歯科診療所」:2.1%減

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②病院病床数(総病床、一般病床)(No.2-4-1-2)



＜前年との比較＞

- ・総病床数:変化なし
- ・一般病床数:変化なし

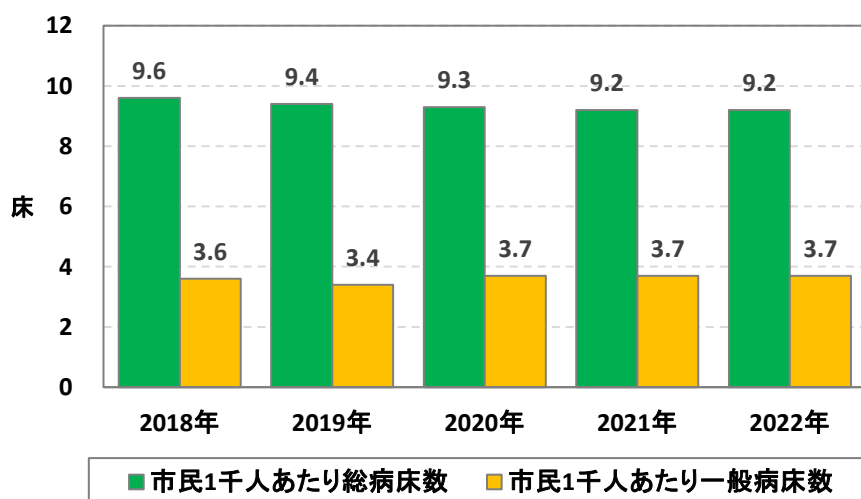
＜2018年との比較＞

- ・総病床数:3.0%減
- ・一般病床数:3.0%増

【時点】 各年10月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③市民1千人あたり病院病床数(総病床、一般病床)(No.2-4-1-3)



＜前年との比較＞

- ・総病床数:変化なし
- ・一般病床数:変化なし

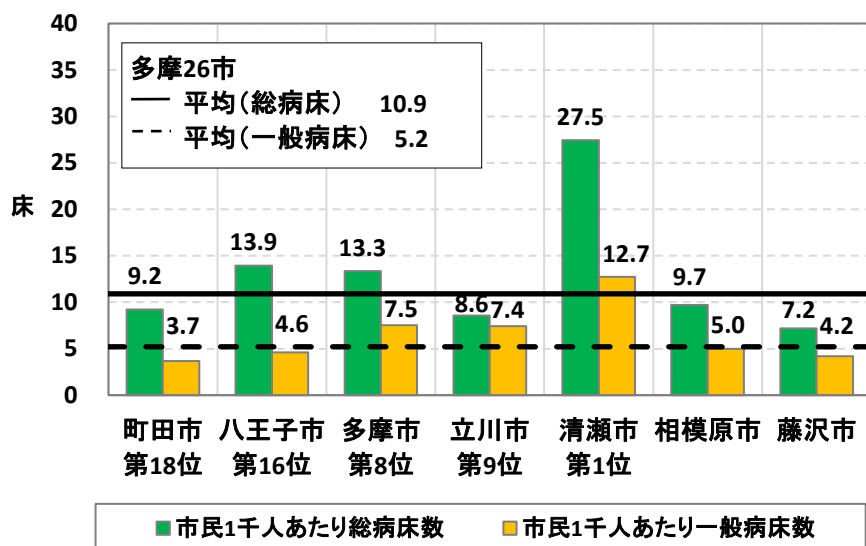
＜2018年との比較＞

- ・総病床数:4.2%減
- ・一般病床数:2.8%増

【時点】 各年10月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

④市民1千人あたり病院病床数(総病床、一般病床)(No.2-4-1-4)【他市比較】



【市民1千人あたり一般病床数】

<26市平均との比較>

・29.6%少ない

<比較市との比較>

・4市の中で最も少ない

<26市ランキング>

第1位: 清瀬市 12.7
 第2位: 福生市 10.5
 第3位: 府中市 9.5
 (床)

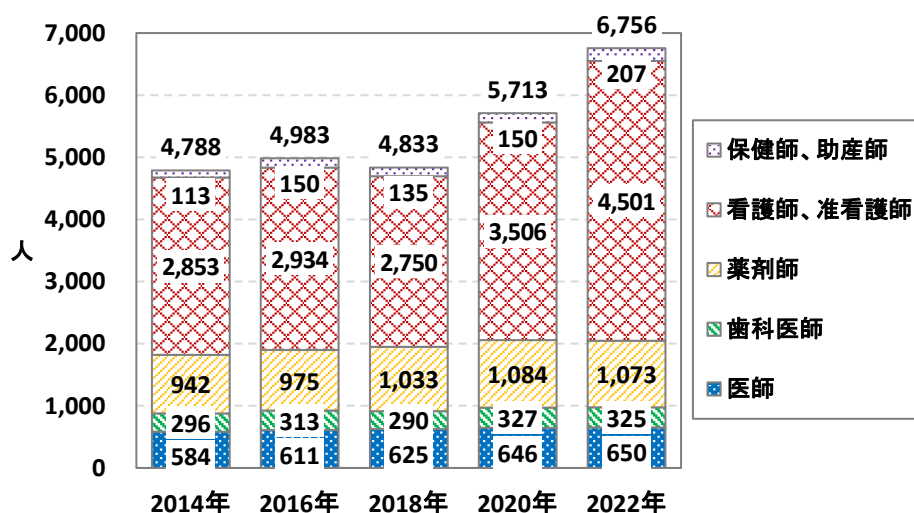
【注1】 このグラフの26市ランキングは、市民1千人あたり一般病床数を示している。

【時点】 2022年10月1日現在(病床数)、2023年1月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(2) 医療従事者

①医療従事者数(No.2-4-2-1)



<2020年との比較>

・医療従事者:18.3%増

・「保健師、助産師」:

38.0%増

・「看護師、准看護師」:

28.4%増

<2014年との比較>

・医療従事者:41.1%増

・「保健師、助産師」:

83.2%増

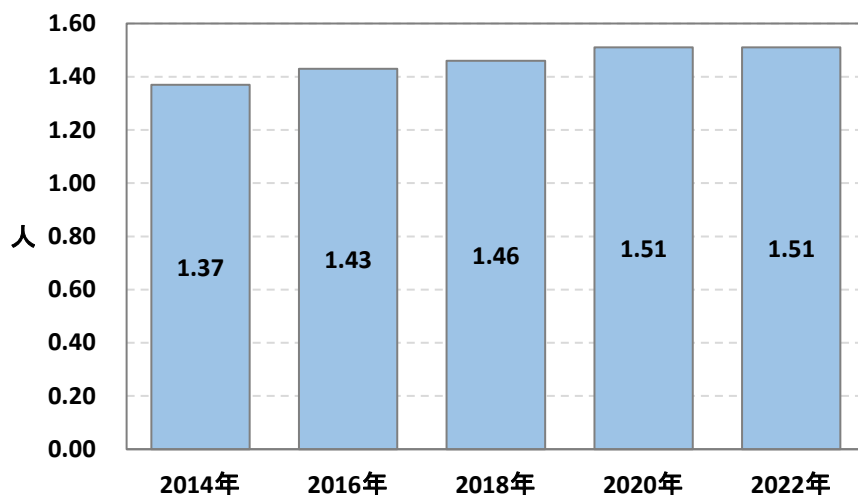
・「看護師、准看護師」:

57.8%増

【時点】 各年12月末現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

②市民1千人あたり医師数(No.2-4-2-2)



＜2020年との比較＞

・変化なし

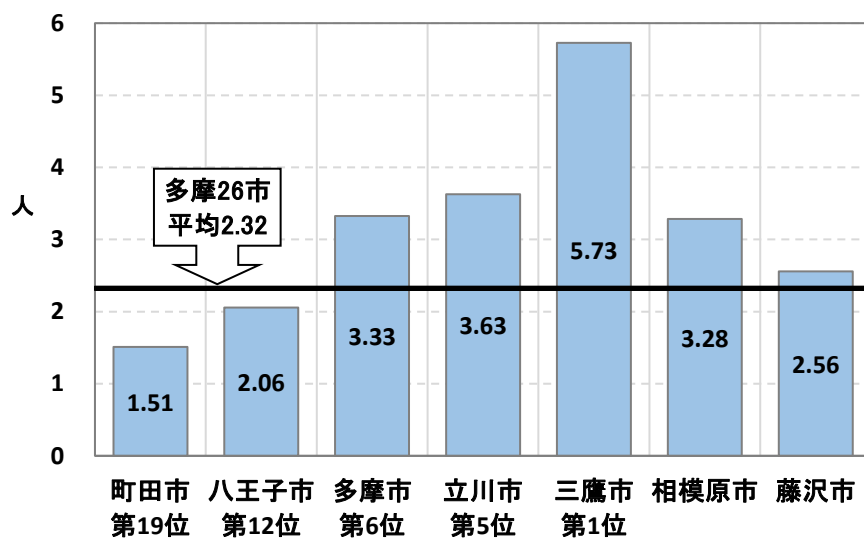
＜2014年との比較＞

・10.2%増

【時点】 各年12月31日現在(医師数)、翌年1月1日現在(人口)

【出典】 庁内資料

③市民1千人あたり医師数(No.2-4-2-3)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

・35.1%少ない

＜比較市との比較＞

・4市の中で最も少ない

＜26市ランキング＞

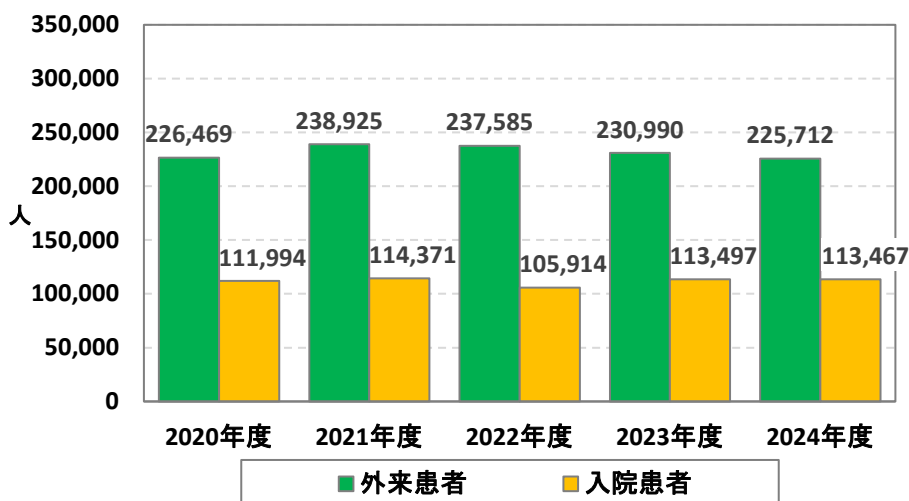
第1位: 三鷹市 5.73
第2位: 狛江市 3.78
第3位: 府中市 3.67
(人)

【時点】 2022年12月31日現在(医師数)、2023年1月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(3) 市民病院

① 市民病院の外来患者数、入院患者数(No.2-4-3-1)



＜前年度との比較＞

- ・外来患者: 2.3%減
- ・入院患者: 0.03%減

＜2020年度との比較＞

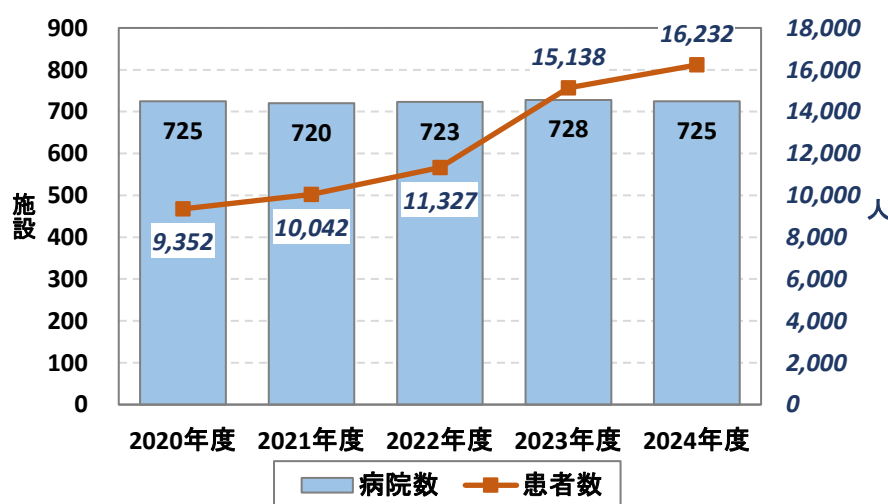
- ・外来患者: 0.3%減
- ・入院患者: 1.3%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 「町田市統計書」、病院年報、庁内資料

(4) 救急診療

① 救急診療延べ病院数、受診患者数(No.2-4-4-1)



＜前年度との比較＞

- ・病院数: 0.4%減
- ・患者数: 7.2%増

＜2020年度との比較＞

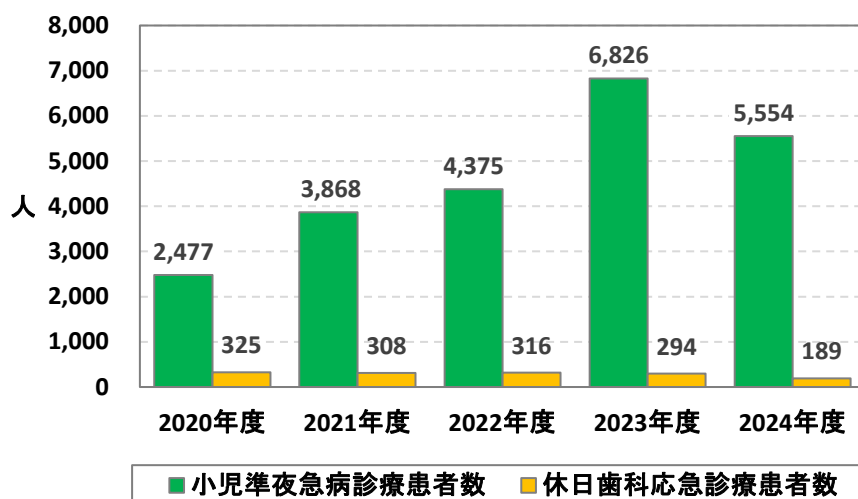
- ・病院数: 変化なし
- ・患者数: 73.6%増

【注 1】 救急診療延べ病院数とは、平日・土曜日の時間外及び夜間における救急患者診療、休祝日における救急患者診療、休祝日における急病患者診療(初診)の1年度の実施病院数の合計をいう。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②小児準夜急病診療患者数、休日歯科応急診療患者数(No.2-4-4-2)



＜前年度との比較＞

- ・小児準夜急病診療患者数:18.6%減
- ・休日歯科応急診療患者数:35.7%減

＜2020年度との比較＞

- ・小児準夜急病診療患者数:124.2%増
- ・休日歯科応急診療患者数:41.8%減

【注 1】 小児準夜急病診療と休日歯科応急診療は、健康福祉会館内で実施。

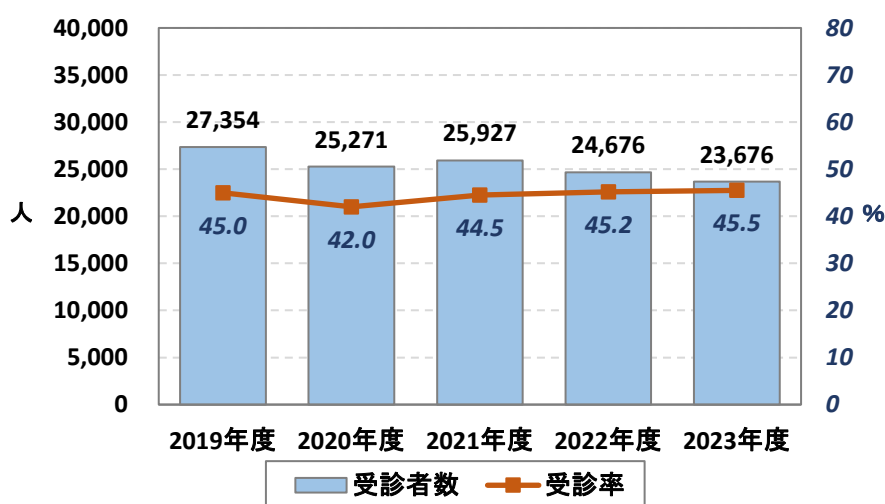
【注 2】 2016年4月24日から日中常診療が開始。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

(5)健康診査等

①特定健診受診者数、受診率(No.2-4-5-1)



＜前年度との比較＞

- ・受診者数:4.1%減
- ・受診率:0.3ポイント上昇

＜2019年度との比較＞

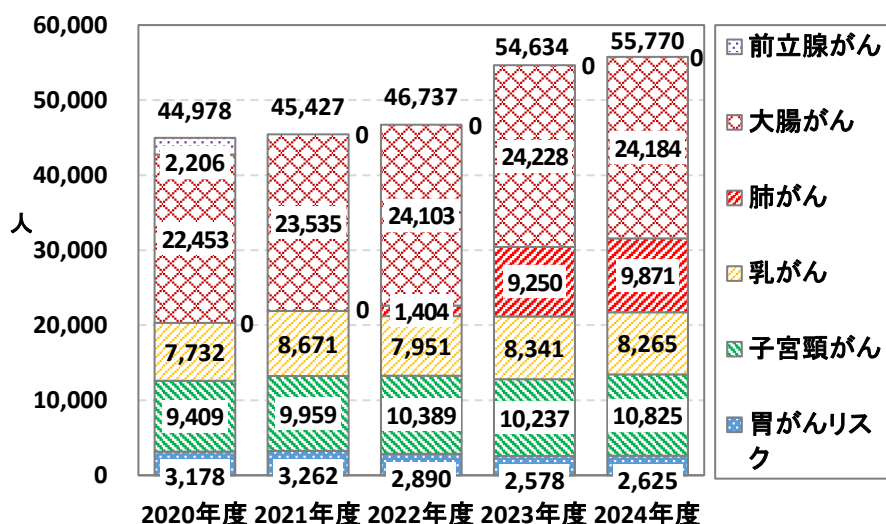
- ・受診者数:13.4%減
- ・受診率:0.5ポイント上昇

【注 1】 40歳から74歳以下の町田市国民健康保険被保険者が対象。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 特定健診・特定保健指導実施結果報告

②がん検診受診者数(No.2-4-5-2)



＜前年度との比較＞

- ・受診者数:2.1%増
- ・「大腸がん」:0.2%減
- ・「肺がん」:6.7%増
- ・「子宮頸がん」:5.7%増
- ・「胃がんリスク」:1.8%増

＜2020年度との比較＞

- ・受診者数:24.0%増
- ・「大腸がん」:7.7%増
- ・「子宮頸がん」:15.0%増
- ・「胃がんリスク」:17.4%減

【注 1】 胃がんリスク健診は、5月～2月の期間で、30歳以上の方を対象に実施。

【注 2】 子宮頸がん検診は、20歳以上の偶数年齢の女性の方を対象に実施。

【注 3】 乳がん検診は、40歳以上の女性の方を対象に実施。

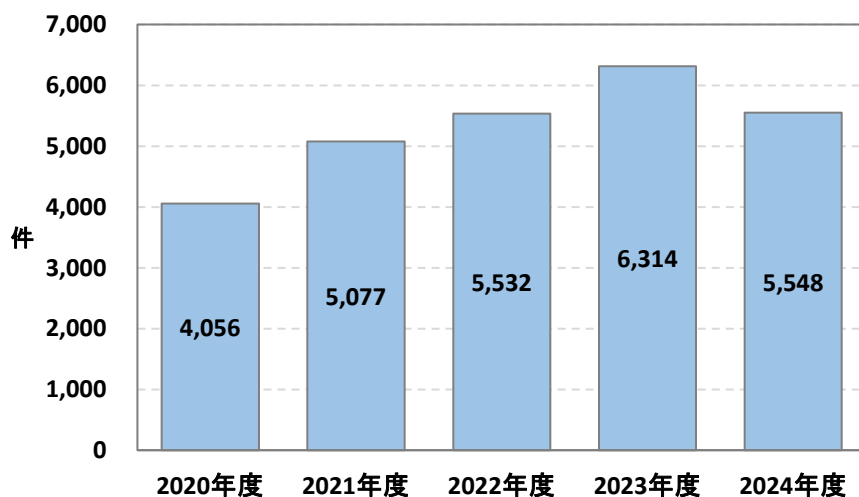
【注 4】 肺がん検診は、40歳以上の方を対象に実施。2014年度から特定健診の胸部エックス線検査に統合したため肺がん検診としては廃止していたが、2022年10月から試行、2023年5月から本格的に国の指針に基づき再開。

【注 5】 大腸がん検診は、40歳以上の方を対象に実施。

【注 6】 前立腺がん検診は、2020年度をもって検診を終了。

【出典】 「町田市統計書」、「保健所事業概要」、庁内資料

③妊産婦、新生児、乳幼児訪問指導実施件数(No.2-4-5-3)



＜前年度との比較＞

- ・12.1%減

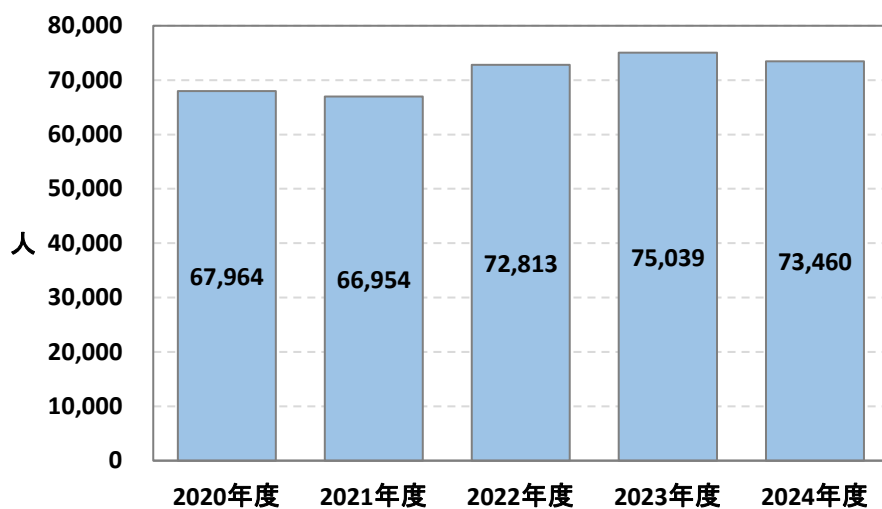
＜2020年度との比較＞

- ・36.8%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

④予防接種の接種者数(No.2-4-5-4)



<前年度との比較>

・2.1%減

<2020年度との比較>

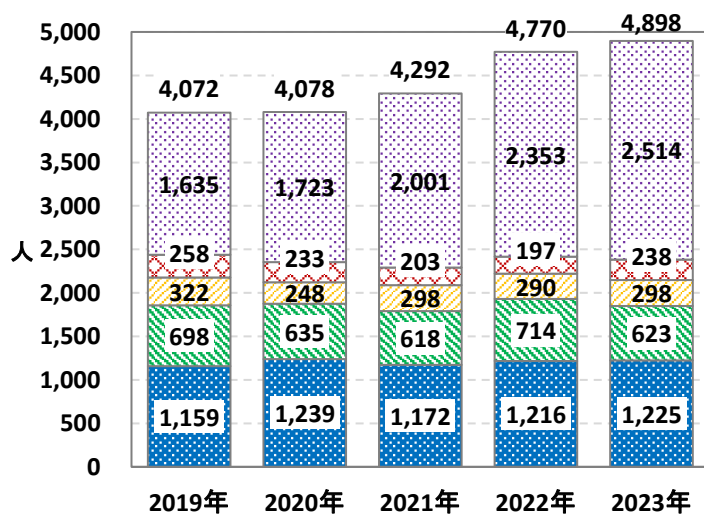
・8.1%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

(6)主要死因

①主要死因別死亡数(No.2-4-6-1)



<前年との比較>

・死亡数:2.7%増

・「その他」:6.8%増

・「肺炎」:20.8%増

・「心疾患」:12.7%減

<2019年との比較>

・死亡数:20.3%増

・「その他」:53.8%増

・「肺炎」:7.8%減

・「心疾患」:10.7%減

【期間】 各年1月1日～12月31日

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

5 生活保護

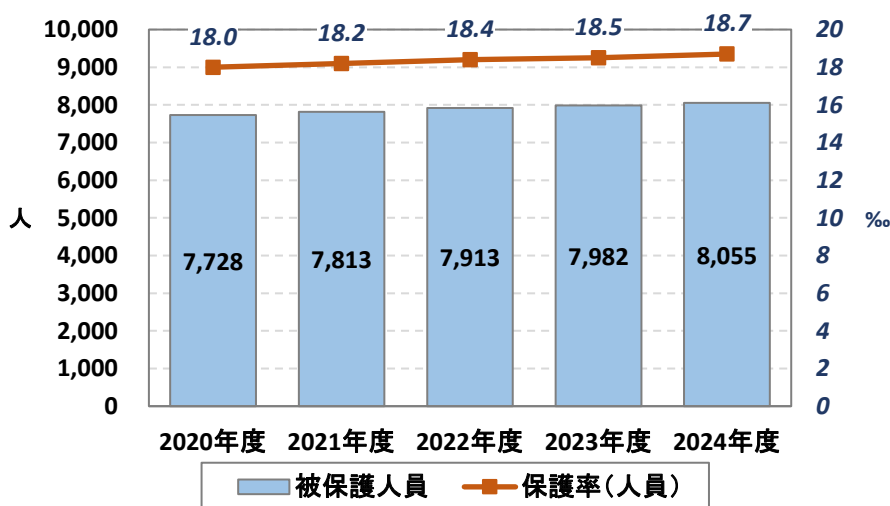
<ポイント>

(1) 生活保護

- 被保護人員と被保護世帯数は、年々増加している。【(1)①②参照】
- 被保護人員保護率と被保護世帯保護率は、年々上昇していて、多摩26市平均より高い。
【(1)①②④参照】
- 被保護人員の年齢構成比は、60歳以上が約50%を占めている。【(1)③参照】

(1)生活保護

①被保護人員、保護率(人員)(No.2-5-1-1)



<前年度との比較>

- ・被保護人員:0.9%増
- ・保護率:0.2ポイント上昇

<2020年度との比較>

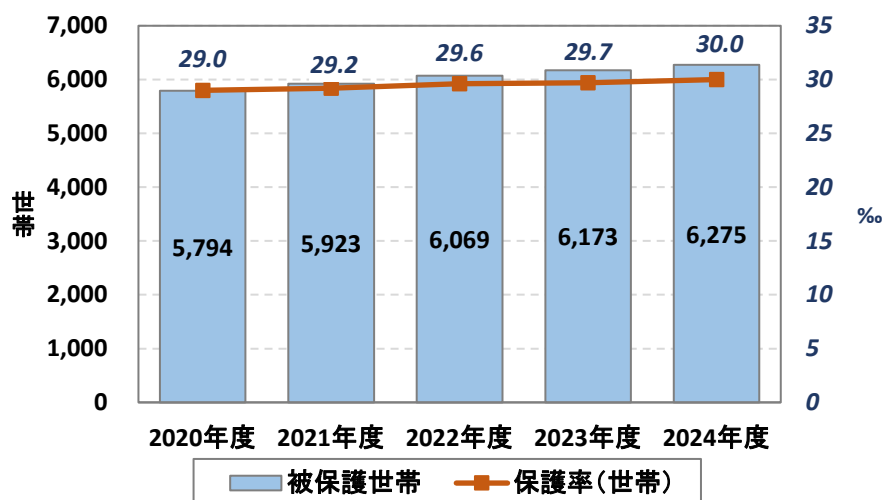
- ・被保護人員:4.2%増
- ・保護率:0.7ポイント上昇

【注 1】 保護率(人員)＝被保護人員(月平均)／町田市人口(月平均)×1,000

【時点】 各年度月平均

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

②被保護世帯数、保護率(世帯)(No.2-5-1-2)



<前年度との比較>

- ・被保護世帯数:1.7%増
- ・保護率:0.3ポイント上昇

<2020年度との比較>

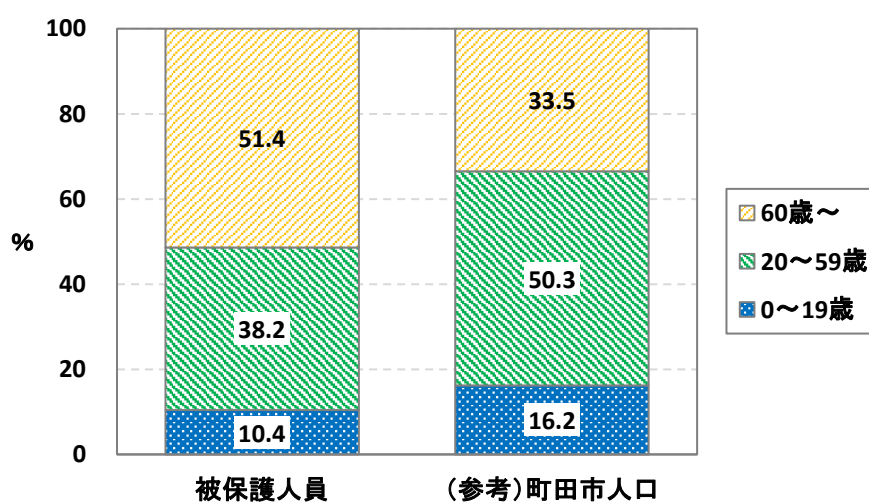
- ・被保護世帯数:8.3%増
- ・保護率:1.0ポイント上昇

【注1】 保護率(世帯)＝被保護世帯数(月平均)／町田市世帯数(月平均)×1,000

【時点】 各年度月平均

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

③年齢区分別被保護人員構成比(No.2-5-1-3)



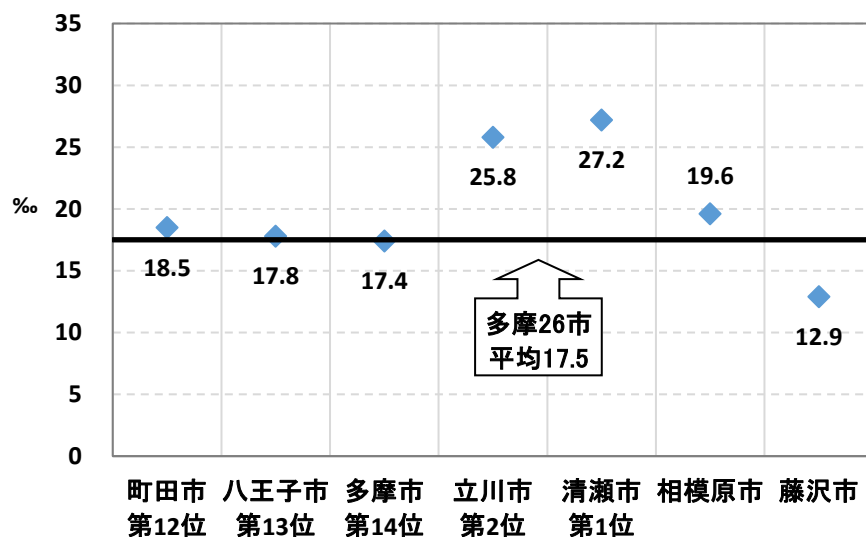
<町田市人口との比較>

- ・「60歳～」:
17.9ポイント高い
- ・「20～59歳」:
12.1ポイント低い
- ・「0～19歳」:
5.8ポイント低い

【時点】 2025年3月末現在(被保護人員)、2025年4月1日現在(人口)

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

④保護率(人員)(No.2-5-1-4)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

・1.0ポイント高い

＜比較市との比較＞

・4市の中で2番目に高い

＜26市ランキング＞

第1位: 清瀬市	27.2
第2位: 立川市	25.8
第3位: 武蔵村山市	24.2

(%)

【注 1】 保護率算定の基礎人口は、東京都総務局「東京都の人口(推計)」(2023年10月1日)による。

【時点】 2023年度平均

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

6 国民健康保険・国民年金

<ポイント>

(1) 国民健康保険

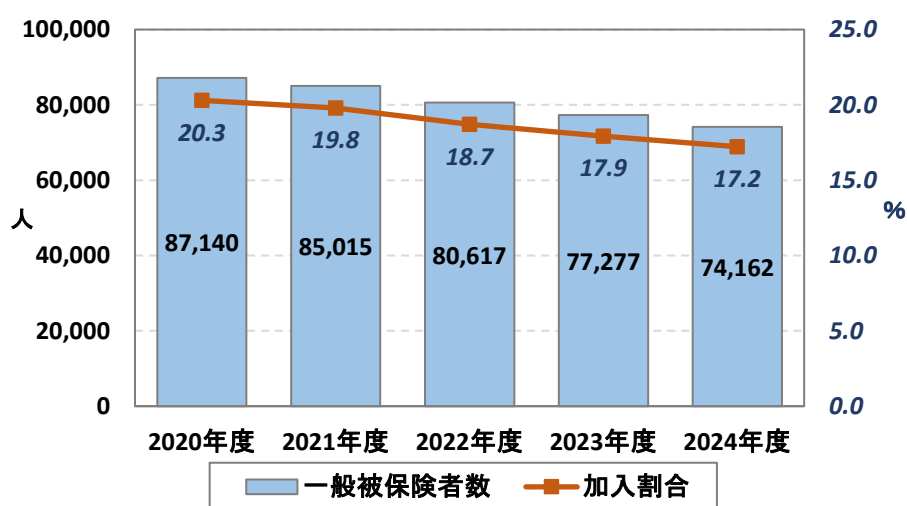
- 国民健康保険被保険者数及び加入割合は、年々減少している。【(1)①参照】
- 被保険者1人あたり医療費は、年々増加している。【(1)③参照】

(2) 国民年金

- 国民年金被保険者数は年々減少しているが、受給者数はわずかではあるが年々増加している。【(2)①参照】

(1) 国民健康保険

① 国民健康保険被保険者数、加入割合 (No.2-6-1-1)



<前年度との比較>

- ・被保険者数: 4.0%減
- ・加入割合: 0.7ポイント低下

<2020年度との比較>

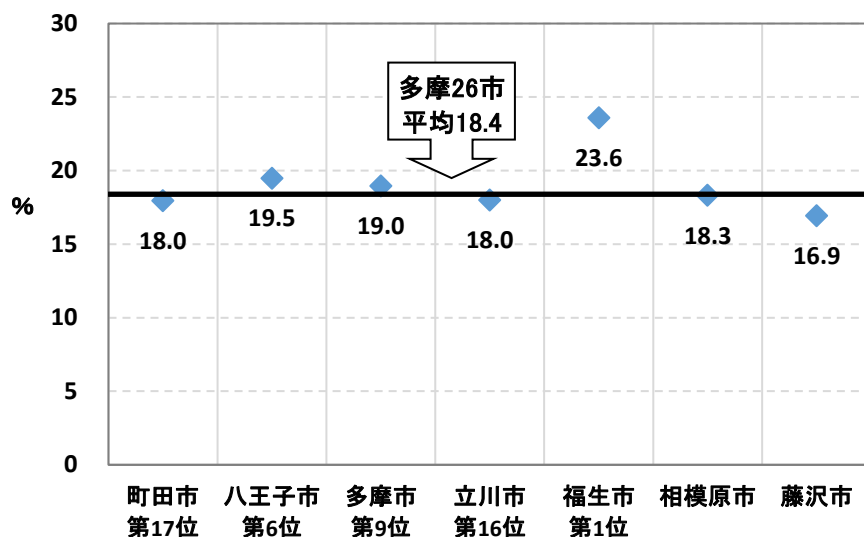
- ・被保険者数: 14.9%減
- ・加入割合: 3.1ポイント低下

【注 1】 退職被保険者等数は、2020年度以降は0人のためデータブック2025年度版から削除。

【時点】 各年度末現在(被保険者数)、翌年度4月1日現在(人口)

【出典】 国民健康保険事業状況報告書(事業年報)

②国民健康保険加入割合(No.2-6-1-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

・0.4ポイント低い

＜比較市との比較＞

・4市の中で最も低い

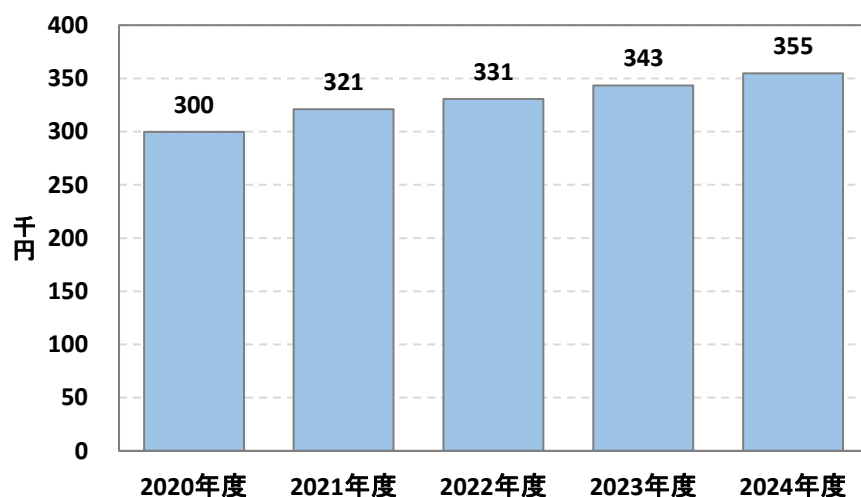
＜26市ランキング＞

第1位: 福生市	23.6
第2位: 青梅市	21.0
第3位: あきる野市	20.9
	(%)

【時点】 2024年3月31日現在(被保険者数)、2024年4月1日現在(人口)

【出典】 「福祉・衛生統計年報」東京都福祉保健局

③被保険者1人あたり医療費(No.2-6-1-3)



＜前年度との比較＞

・3.3%増

＜2020年度との比較＞

・18.3%増

【注 1】 75歳以上の一般被保険者は、後期高齢者医療制度からの受給となるため、一般被保険者1人あたり医療費には含めない。

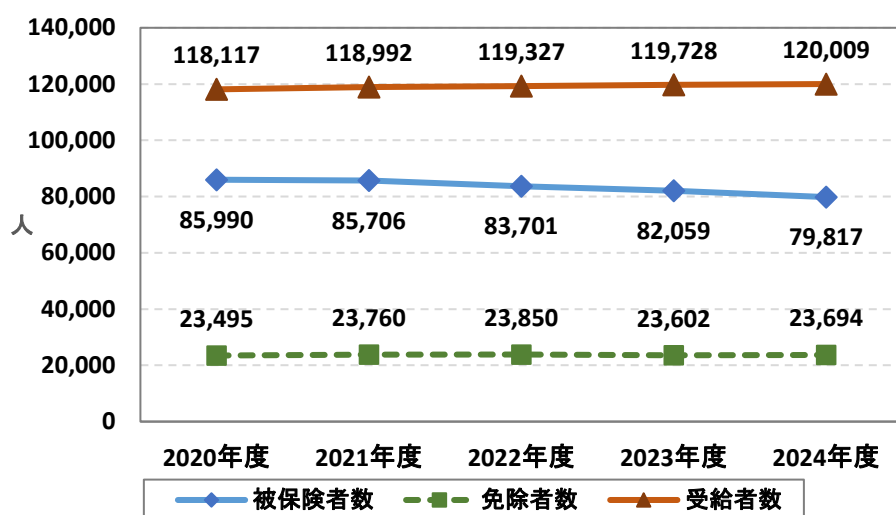
【注 2】 退職被保険者等数は、2020年度以降は0人のためデータブック2025年度版から削除。

【時点】 各年度末現在

【出典】 国民健康保険事業状況報告書(事業年報)

(2) 国民年金

① 国民年金被保険者数、免除者数、受給者数 (No.2-6-2-1)



<前年度との比較>

- ・被保険者数: 2.7%減
- ・免除者数: 0.4%増
- ・受給者数: 0.2%増

<2020年度との比較>

- ・被保険者数: 7.2%減
- ・免除者数: 0.8%増
- ・受給者数: 1.6%増

【時点】 各年度末現在

【出典】 「町田市統計書」、庁内資料

III 環境

1 ごみ

<ポイント>

(1) 総ごみ量

- 総ごみ量は、年々減少している。【(1)①参照】
- 市民1人1日あたり総ごみ量は、多摩26市平均より多い。【(1)②参照】

(2) ごみの資源化

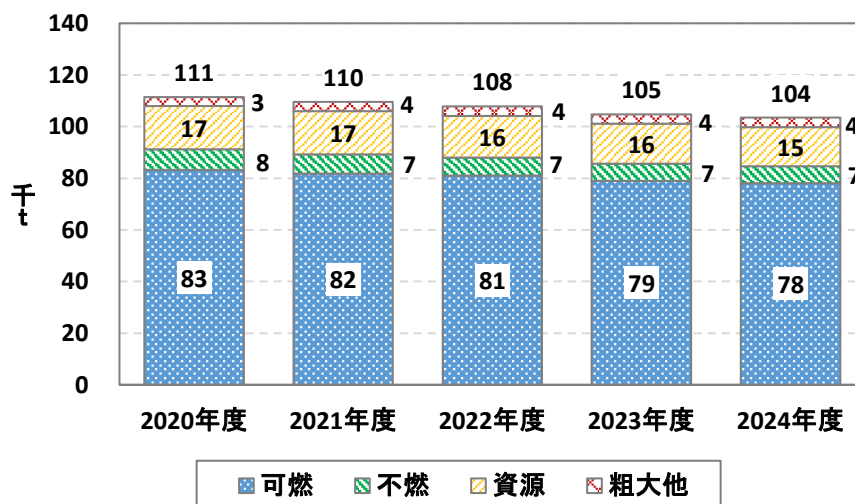
- 多摩26市平均より集団回収量は多く、資源化量は少ない。【(2)②参照】
- リサイクル率は、多摩26市平均より低い。【(2)③参照】

(3) ごみ処理

- ごみ1tあたりのごみ処理経費は、2022年度以降増加している。【(3)①参照】

(1) 総ごみ量

① 総ごみ量 (No.3-1-1-1)



<前年度との比較>

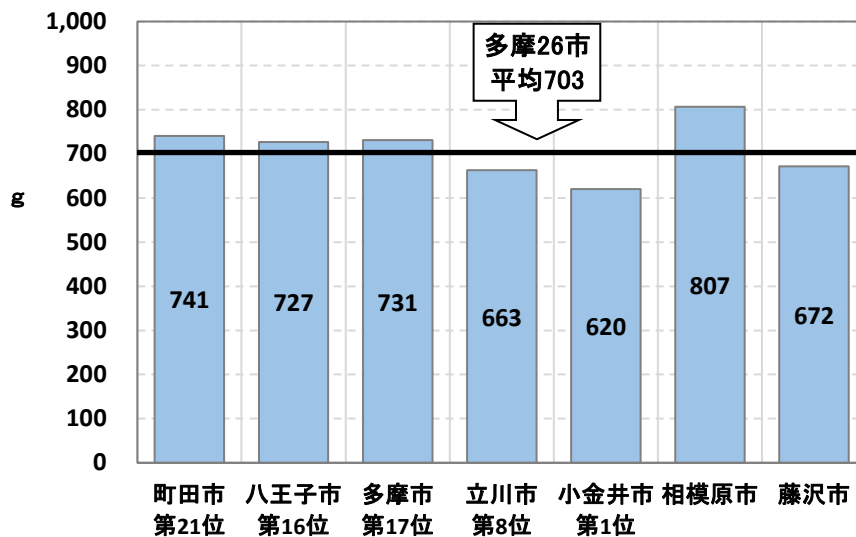
- ・総ごみ量: 1.2%減
- ・「資源」: 2.9%減
- ・「可燃」: 1.1%減

<2020年度との比較>

- ・総ごみ量: 7.0%減
- ・「資源」: 9.3%減
- ・「可燃」: 6.2%減

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

②市民1人1日あたり総ごみ量(No.3-1-1-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

・5.4%多い

＜比較市との比較＞

・4市の中で最も多い

＜26市ランキング＞

第1位: 小金井市 620
第2位: 東大和市 646
第3位: 西東京市 649
(g)

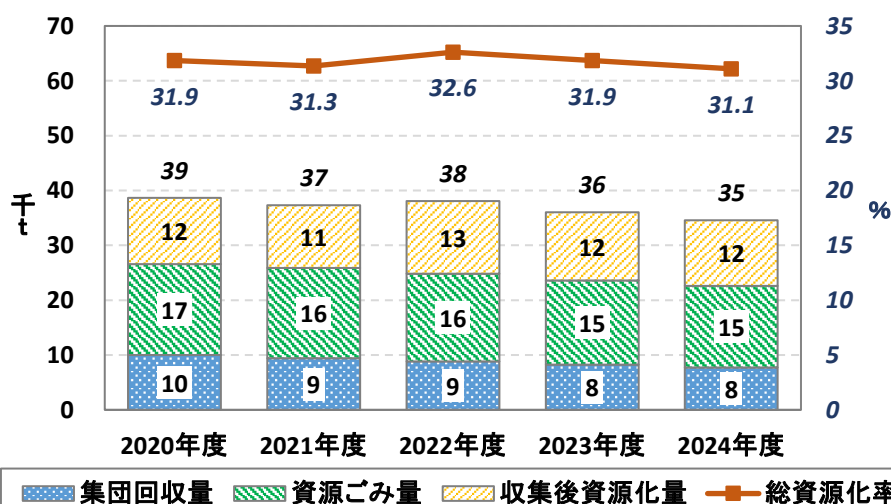
【注 1】 このグラフの中の26市ランキングは、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2022年度(ごみ排出量)、2022年10月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(2)ごみの資源化

①総資源化量、総資源化率(No.3-1-2-1)



＜前年度との比較＞

・総資源化量: 3.9%減

・総資源化率:
0.8ポイント低下

＜2020年度との比較＞

・総資源化量: 10.5%減

・総資源化率:
0.8ポイント低下

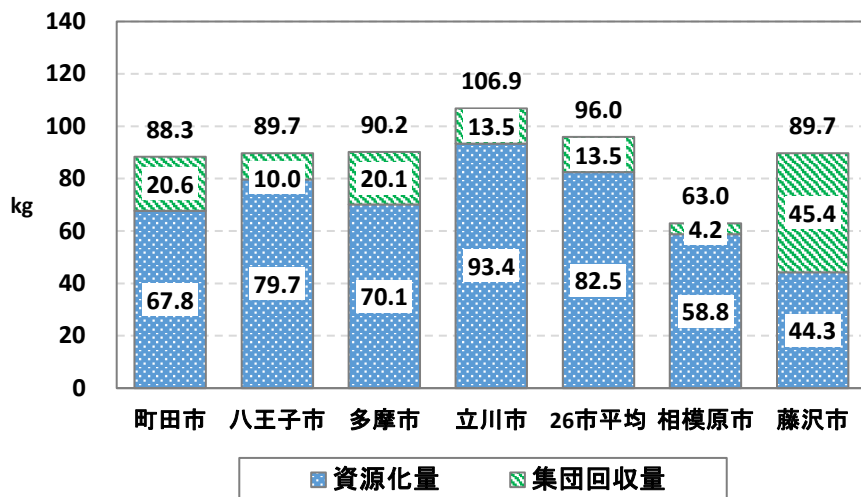
【注 1】 資源ごみ量とは、資源ごみからの資源化量で、拠点回収による資源化量を含む。

【注 2】 収集後資源化量とは、中間処理施設において不燃ごみや粗大ごみ等から人手や機械等によって選別された資源物の量である。

【注 3】 $\text{総資源化率} = (\text{集団回収量} + \text{資源ごみ量} + \text{収集後資源化量}) / (\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}) \times 100$

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

②市民1人あたり総資源化量(No.3-1-2-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

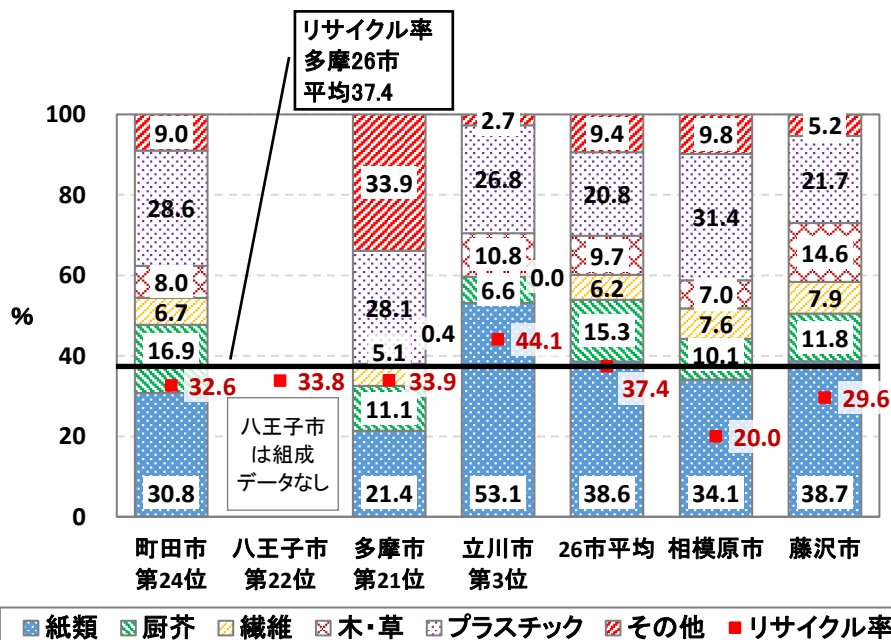
- ・総資源化量: 8.0%少ない
- ・「集団回収量」: 52.2%多い
- ・「資源化量」: 17.8%少ない

【注 1】 集計方法変更のため、データブック2025年度版から資源化量と集団回収量の2区分に変更。

【時点】 2022年度(資源化量)、2023年1月1日現在(人口)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③リサイクル率、可燃ごみの組成(乾ベース)(No.3-1-2-3)【他市比較】



【リサイクル率】

＜26市平均との比較＞

- ・4.8ポイント低い

＜比較市との比較＞

- ・4市の中で最も低い

＜26市ランキング＞

第1位: 国分寺市	48.9
第2位: 小金井市	48.0
第3位: 立川市	44.1
	(%)

【注 1】 $\text{リサイクル率} = (\text{資源化量} + \text{集団回収量}) / (\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}) \times 100$

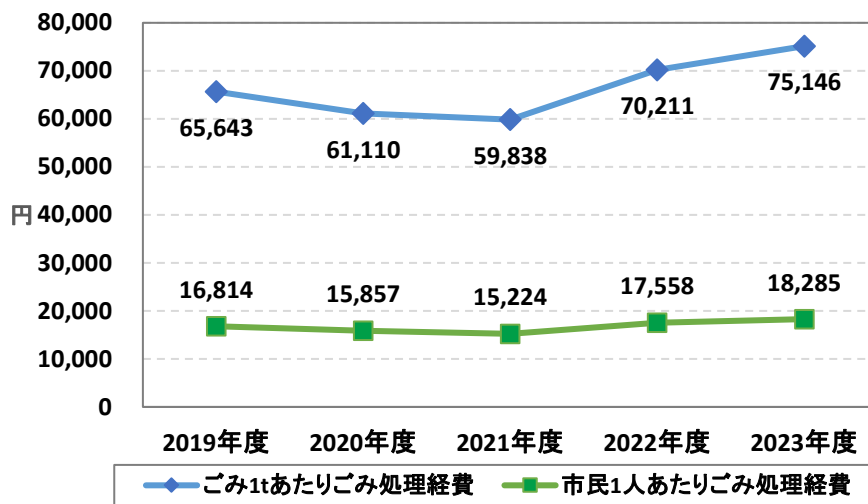
【注 2】 可燃ごみの組成の多摩26市は、各市の数値の平均(データなしの市を除く)。

【時点】 2022年度(リサイクル率)、2023年度(可燃ごみの組成)

【出典】 出典:「多摩・島しょ地域データブック」「多摩地域ごみ実態調査」東京市町村自治調査会

(3)ごみ処理

①ごみ処理経費(No.3-1-3-1)



＜前年度との比較＞

- ・ごみ1tあたり
ごみ処理経費: 7.0%増
- ・市民1人あたり
ごみ処理経費: 4.1%増

＜2019年度との比較＞

- ・ごみ1tあたり
ごみ処理経費: 14.5%増
- ・市民1人あたり
ごみ処理経費: 8.7%増

【注 1】 ごみ処理に関する歳出のみを計算している。(歳入控除前)

【出典】 「清掃事業概要」

2 水質

<ポイント>

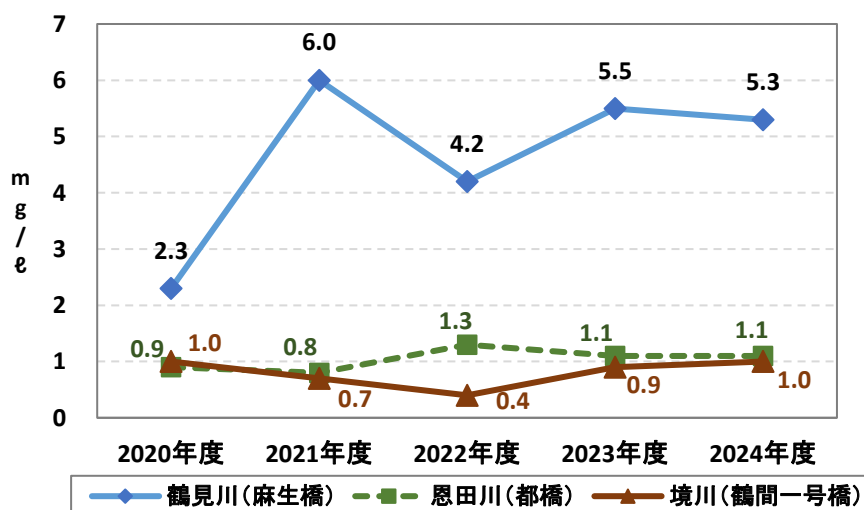
(1) 河川の水質

- 2024年度の水質状況は、鶴見川は2020年度に比べて悪化、恩田川と境川はほぼ横ばい。

【(1)①参照】

(1)河川の水質

①主要河川の環境基準点における水質の状況(BOD年度平均値)(No.3-2-1-1)



<前年度との比較>

- ・鶴見川: 3.6%減
- ・恩田川: 変化なし
- ・境川: 11.1%増

<2020年度との比較>

- ・鶴見川: 130.4%増
- ・恩田川: 22.2%増
- ・境川: 変化なし

【注 1】 BODとは、水中の有機物が微生物のはたらきによって分解されるときに消費される酸素の量で、河川の水質汚濁を測定する指標の一つ。数値が大きいほど有機物の量が多く、汚れていることを示す。

【注 2】 ()内は観測基準点。

【期間】 各年度4月1日～3月31日 年12回平均値

【出典】 庁内資料

3 公害

<ポイント>

(1) 公害

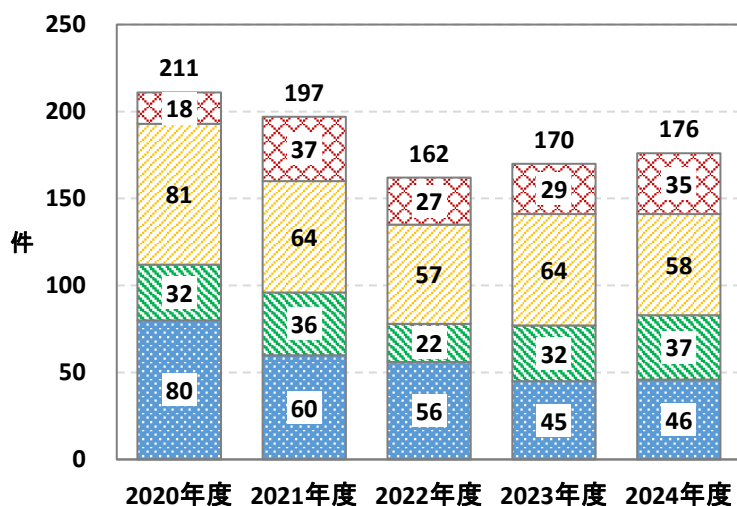
- 公害関係苦情受付件数は、2020年度～2022年度は年々減少していたが、2023年度以降は増加している。【(1)①参照】
- 苦情受付構成比は、大気汚染及び悪臭の割合が多摩26市平均より高い。【(1)②参照】

(2) 航空機騒音

- 2023年度の航空機騒音測定回数は、2019年度以降で最も少ない。【(2)①参照】
- 航空機騒音苦情受付件数は、2021年度以降年々減少している。【(2)②参照】

(1) 公害

①公害関係苦情受付件数(No.3-3-1-1)



<前年度との比較>

- ・苦情受付件数: 3.5%増
- ・「騒音」: 9.4%減
- ・「悪臭」: 15.6%増
- ・「大気汚染」: 2.2%増

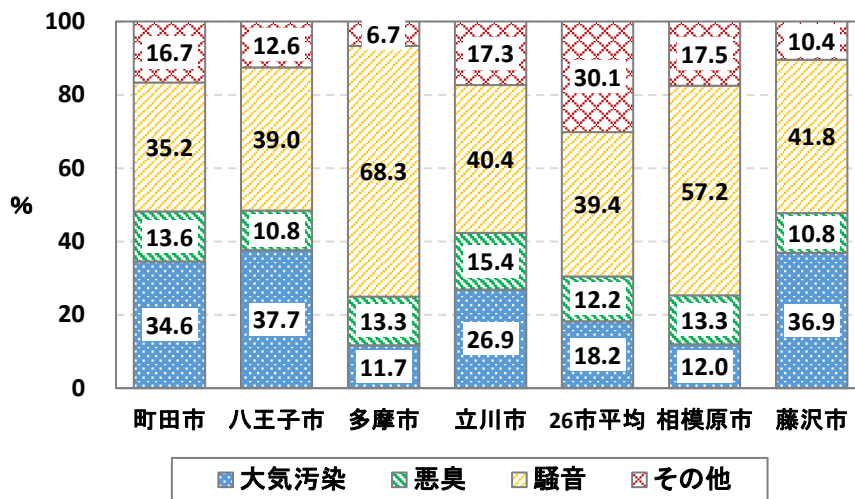
<2020年度との比較>

- ・苦情受付件数: 16.6%減
- ・「騒音」: 28.4%減
- ・「悪臭」: 15.6%増
- ・「大気汚染」: 42.5%減

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 町田市環境白書、庁内資料

②公害関係苦情受付構成比(No.3-3-1-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・「騒音」: 4.2ポイント低い
- ・「悪臭」: 1.4ポイント高い
- ・「大気汚染」: 16.3ポイント高い

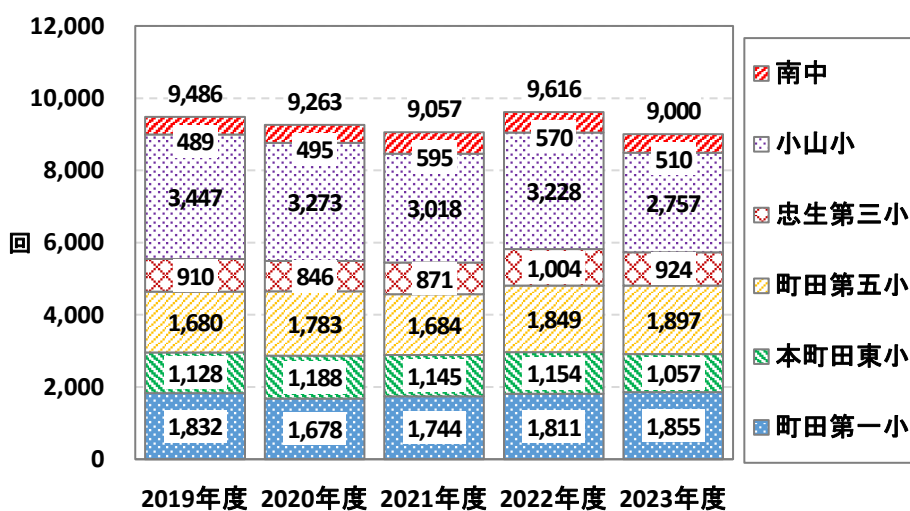
【注 1】 「騒音」は低周波騒音を含む。

【時点】 2022年度

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(2) 航空機騒音

①航空機騒音測定回数(No.3-3-2-1)



＜前年度との比較＞

- ・騒音測定回数: 6.4%減
- ・「南中」: 10.5%減
- ・「小山小」: 14.6%減
- ・「本町田東小」: 8.4%減

＜2019年度との比較＞

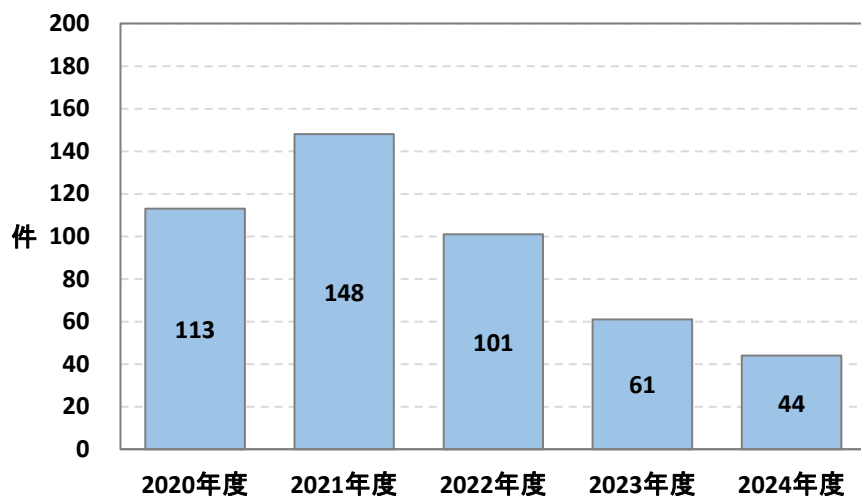
- ・騒音測定回数: 5.1%減
- ・「小山小」: 20.0%減
- ・「町田第五小」: 12.9%増
- ・「本町田東小」: 6.3%減

【注 1】 航空機騒音測定回数は、70デシベル以上で、5秒以上続く騒音の回数である。

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

②航空機騒音苦情受付件数(No.3-3-2-2)



＜前年度との比較＞

・27.9%減

＜2020年度との比較＞

・61.1%減

【期間】 各年度4月1日～3月31日

【出典】 庁内資料

IV 經濟

1 労働

<ポイント>

(1) 労働力状態

- 人口に占める労働力人口の割合は、2000年～2015年は低下傾向にあるが、2020年は2015年より上昇している。【(1)①参照】

(2) 就業者

- 産業大分類別15歳以上就業者数は、2000年以降で最も多く、2000～2020年で第3次産業は増加傾向、第1次・第2次産業は減少傾向にある。【(2)①参照】

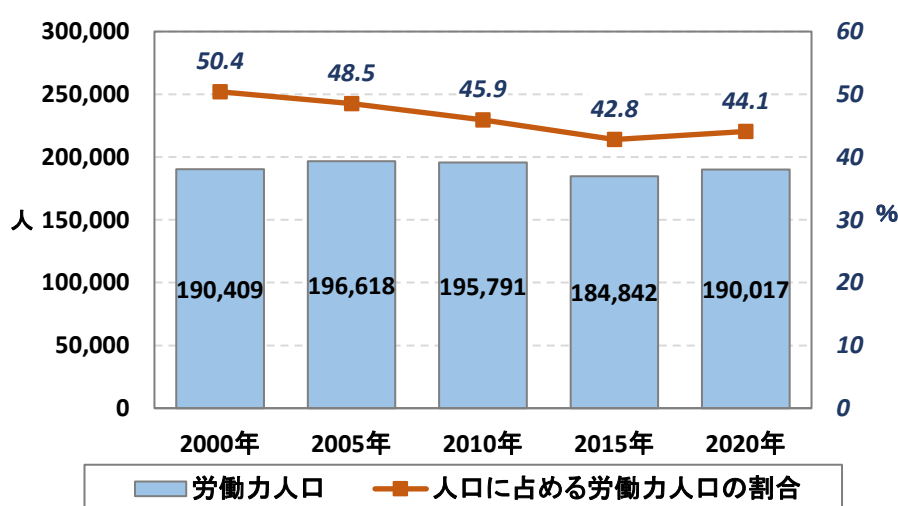
(3) 失業率

- 失業率は、2000年～2010年の5%台から2015年と2020年は4%台に低下している。

【(3)①参照】

(1)労働力状態

①労働力人口、人口に占める労働力人口の割合 (No.4-1-1-1)



<2015年との比較>

- ・労働力人口: 2.8%増
- ・人口に占める労働力人口の割合: 1.3ポイント上昇

<2000年との比較>

- ・労働力人口: 0.2%減
- ・人口に占める労働力人口の割合: 6.3ポイント低下

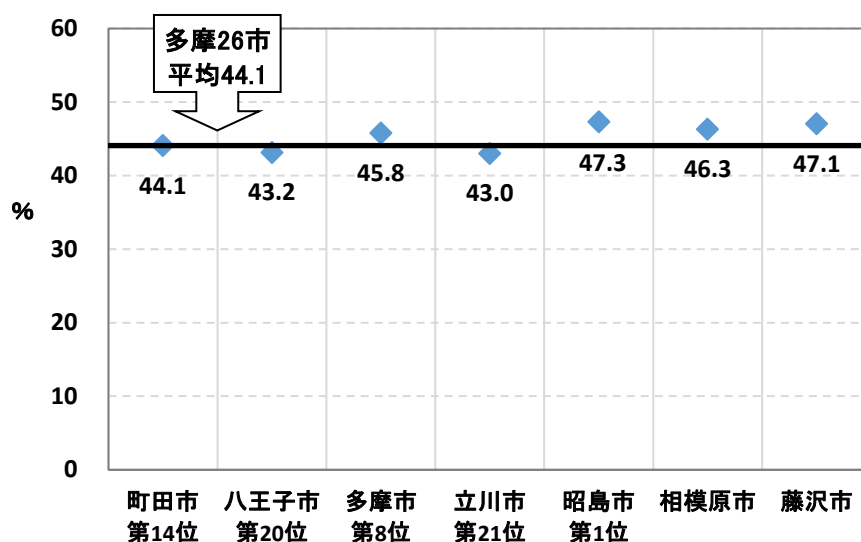
【注 1】 人口は、国勢調査人口。

【注 2】 労働力人口は、15歳以上人口のうち、労働の意思と能力をもつ者の人口。
就業者(休業者も含む)と完全失業者の合計。

【時点】 各年10月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、「国勢調査」

②人口に占める労働力人口の割合(No.4-1-1-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

・ほぼ同じ

<比較市との比較>

・4市の中で2番目に高い

<26市ランキング>

第1位: 昭島市	47.3
第2位: 狛江市	47.0
第3位: 羽村市	46.2
	(%)

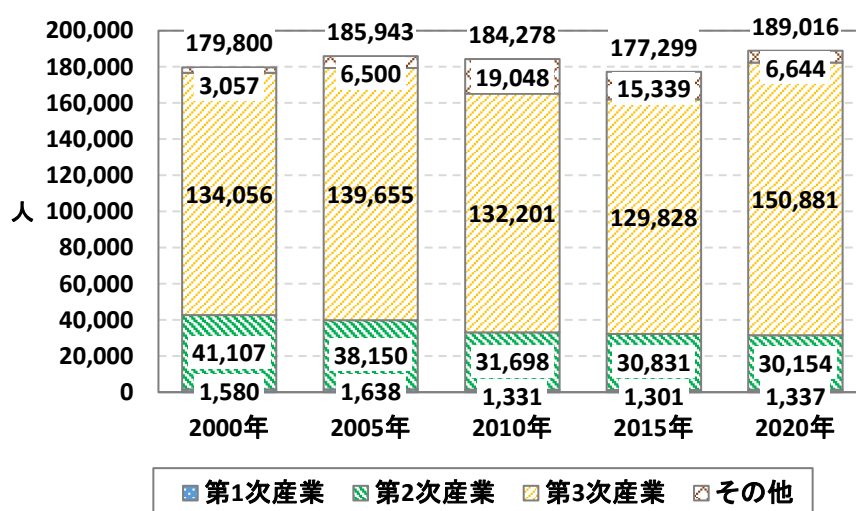
【注1】 人口は、国勢調査人口。

【時点】 2020年10月1日現在

【出典】 「国勢調査」(相模原市、藤沢市含む)

(2)就業者

①産業大分類別15歳以上就業者数(No.4-1-2-1)



<2015年との比較>

- ・就業者数: 6.6%増
- ・「第3次産業」: 16.2%増
- ・「第2次産業」: 2.2%減
- ・「第1次産業」: 2.8%増

<2000年との比較>

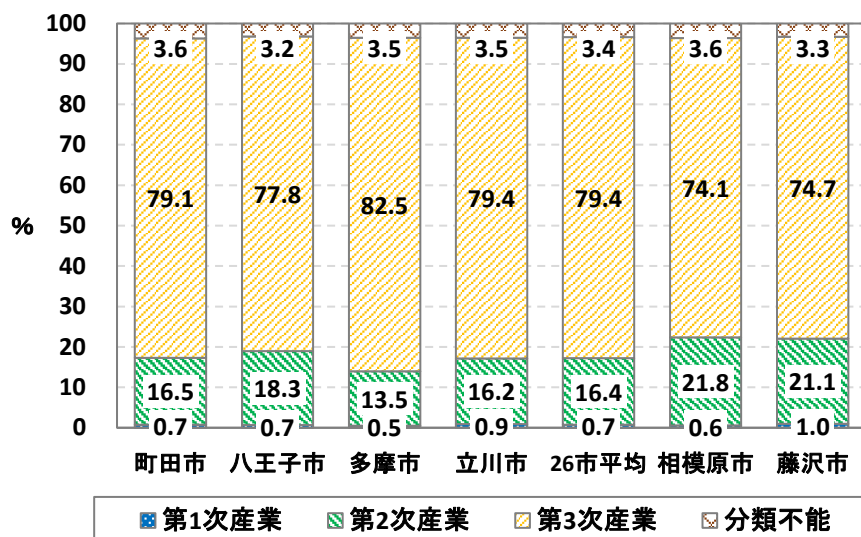
- ・就業者数: 5.1%増
- ・「第3次産業」: 12.6%増
- ・「第2次産業」: 26.6%減
- ・「第1次産業」: 15.4%減

【注1】 「その他」は分類不能なもの。

【時点】 各年10月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、「国勢調査」

②産業大分類別15歳以上就業者構成比(No.4-1-2-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

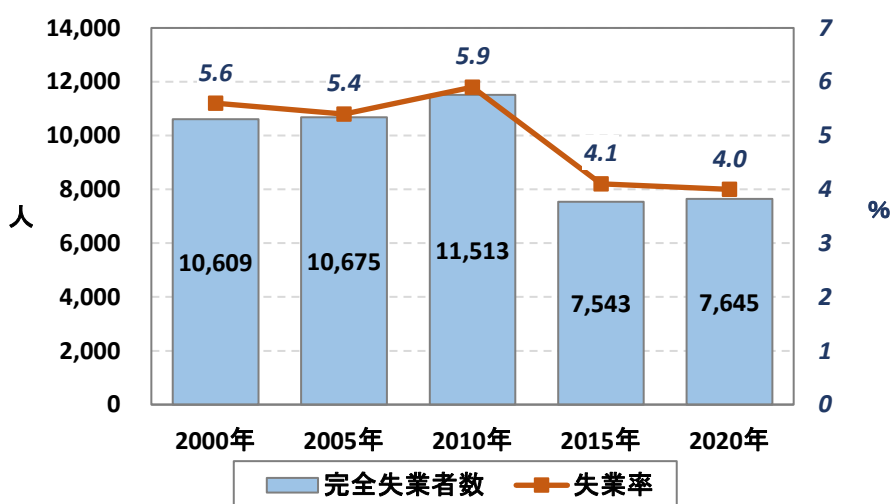
・26市平均とほぼ同様の構成

【時点】 2020年10月1日現在

【出典】 「国勢調査」(相模原市、藤沢市含む)

(3) 失業率

①完全失業者数、失業率(No.4-1-3-1)



<2015年との比較>

- ・完全失業者数: 1.4%増
- ・失業率: 0.1ポイント低下

<2000年との比較>

- ・完全失業者数: 27.9%減
- ・失業率: 1.6ポイント低下

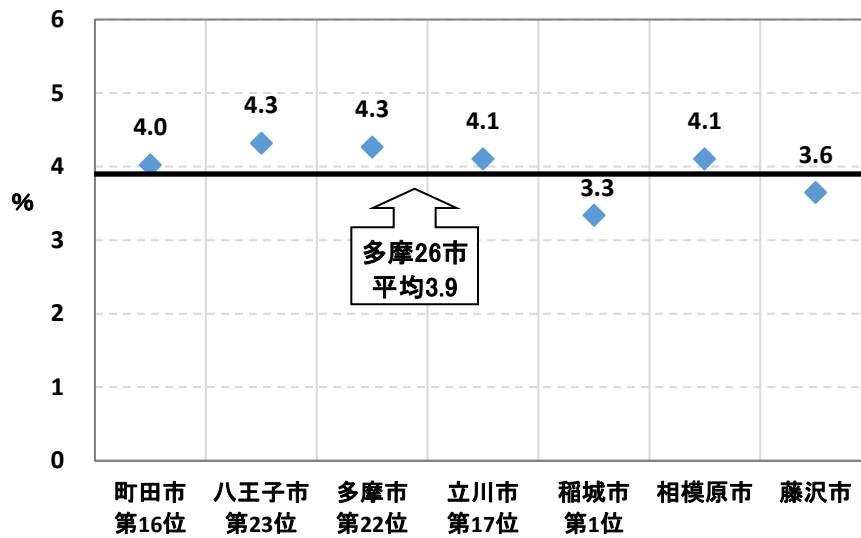
【注 1】 完全失業者は、収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、仕事に就くことが可能であって、かつ公共職業安定所に申し込むなどして積極的に仕事を探した人をいう。

【注 2】 失業率＝完全失業者数／労働力人口×100

【時点】 各年10月1日現在

【出典】 「町田市統計書」、「国勢調査」

②失業率(No.4-1-3-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

・0.1ポイント高い

<比較市との比較>

・4市の中で最も低い

<26市ランキング>

第1位: 稲城市	3.34
第2位: 三鷹市	3.35
第3位: 武蔵野市	3.36

(%)

【注1】 失業率＝完全失業者数／労働力人口×100

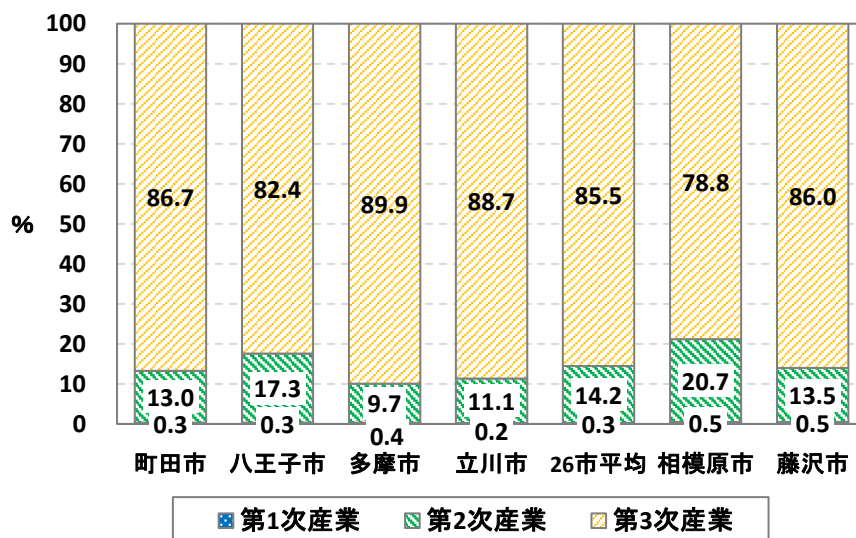
【注2】 このグラフの26市ランキングについては、数値の小さい市から並べている。

【時点】 2020年10月1日現在

【出典】 「国勢調査」(相模原市、藤沢市含む)

(4)事業所、従業者

①産業大分類別事業所構成比(No.4-1-4-1)【他市比較】



<26市平均との比較>

・「第3次産業」:

1.2ポイント高い

・「第2次産業」:

1.2ポイント低い

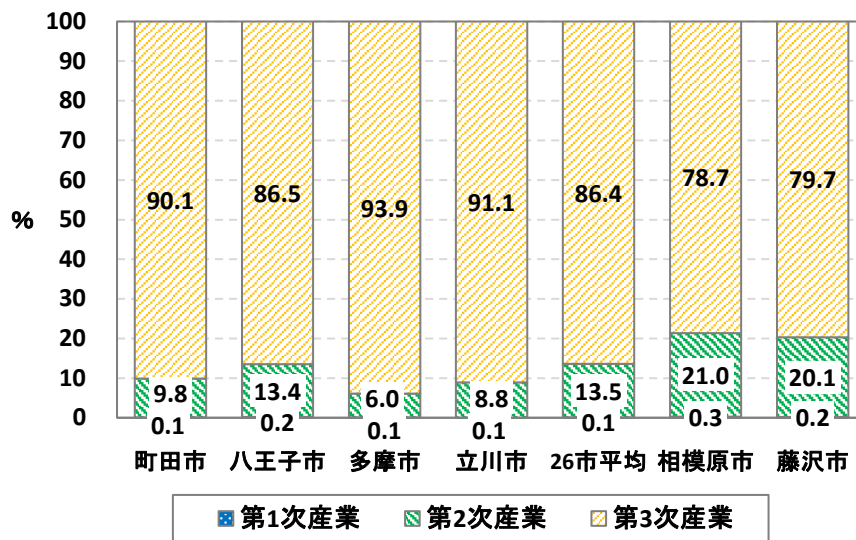
・「第1次産業」:

0.04ポイント高い

【時点】 2024年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

②産業大分類別従業者構成比(No.4-1-4-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・「第3次産業」:
3.7ポイント高い
- ・「第2次産業」:
3.7ポイント低い
- ・「第1次産業」:
0.01ポイント低い

【時点】 2024年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

2 中小企業融資

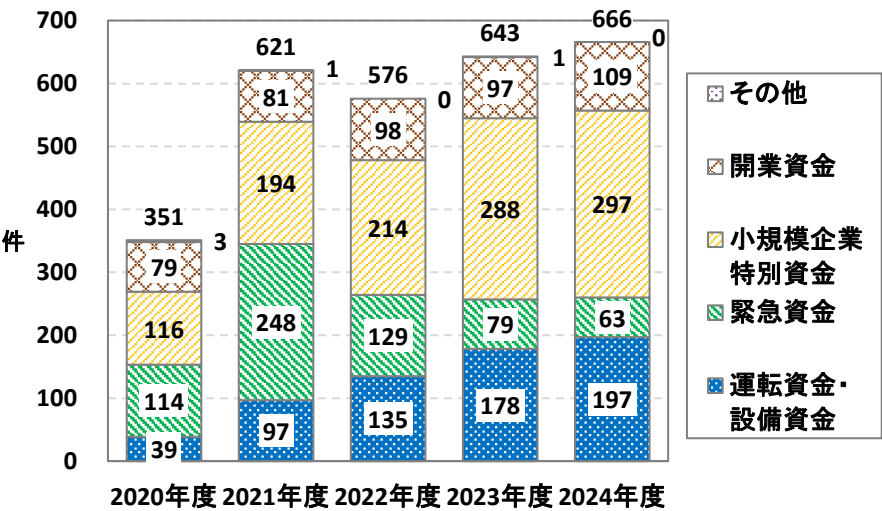
<ポイント>

(1) 中小企業融資

- 2024年度の利用件数及び融資額は、2020年度以降で最も多い。【(1)①②参照】
- 利用件数及び融資額とも、運転資金・設備資金と小規模企業特別資金が年々増加している。【(1)①②参照】

(1) 中小企業融資

① 中小企業融資利用件数 (No.4-2-1-1)



<前年度との比較>

- ・利用件数: 3.6%増
- ・「開業資金」: 12.4%増
- ・「緊急資金」: 20.3%減

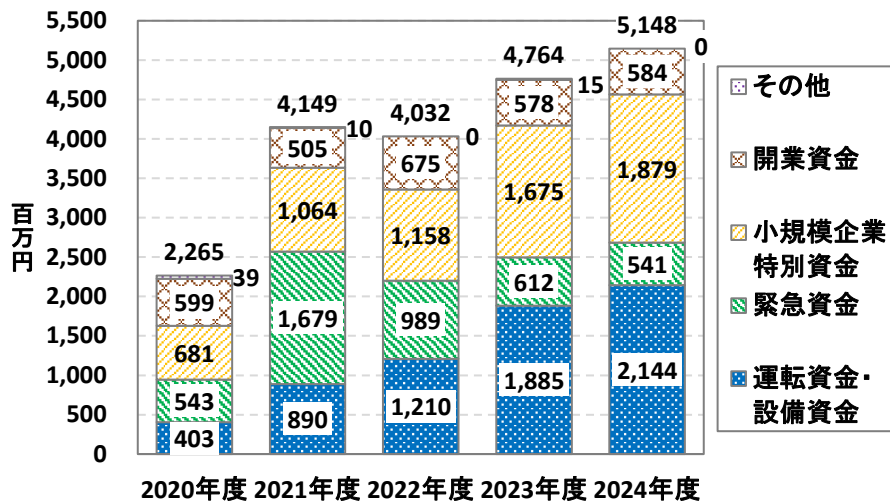
<2020年度との比較>

- ・利用件数: 89.7%増
- ・「小規模企業特別資金」: 156.0%増
- ・「緊急資金」: 44.7%減
- ・「運転資金・設備資金」: 405.1%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日(実行日／実際に銀行により融資が行われた日)

【出典】 庁内資料

②中小企業融資額(No.4-2-1-2)



<前年度との比較>

- ・融資額: 8.1%増
- ・「小規模企業特別資金」:
12.2%増
- ・「運転資金・設備資金」:
13.8%増

<2020年度との比較>

- ・融資額: 127.3%増
- ・「小規模企業特別資金」:
175.8%増
- ・「運転資金・設備資金」:
431.9%増

【期間】 各年度4月1日～3月31日
(実行日／実際に銀行により融資が行われた日)

【出典】 庁内資料

3 商業

<ポイント>

(1) 卸売業、小売業事業所数

- 2021年の事業所数は、2016年より卸売業、小売業ともに減少している。【(1)①参照】
- 多摩26市の中では、小売業の事業所数は2番目に多く、卸売業の事業所数は3番目に多い。【(1)②③参照】

(2) 卸売業、小売業従業者数

- 2021年の従業者数は、2016年より卸売業、小売業ともに増加している。【(2)①参照】
- 多摩26市の中では、小売業の従業者数は2番目に多く、卸売業の従業者数は5番目に多い。【(2)②③参照】

(3) 卸売業、小売業年間販売額

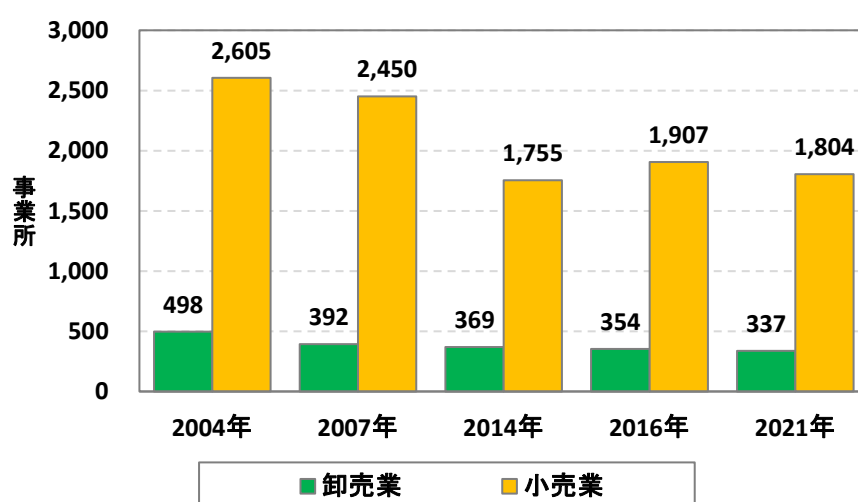
- 2021年の年間販売額は、2016年より卸売業はやや増加、小売業は減少している。
【(3)①参照】
- 多摩26市の中では、小売業の年間販売額は2番目に多く、卸売業の年間販売額は8番目に多い。【(3)②③参照】
- 小売業の従業者1人あたり年間販売額は、多摩26市の中で最も多く、卸売業の従業者1人あたり年間販売額は、多摩26市平均より少ない。【(3)④⑤参照】

(4) 町田駅周辺

- 2021年の事業所数及び従業者数は、卸売業、小売業とも2016年より減少している。
【(4)①参照】

(1) 卸売業、小売業事業所数

① 卸売業、小売業事業所数 (No.4-3-1-1)



<2016年との比較>

- ・卸売業: 4.8%減
- ・小売業: 5.4%減

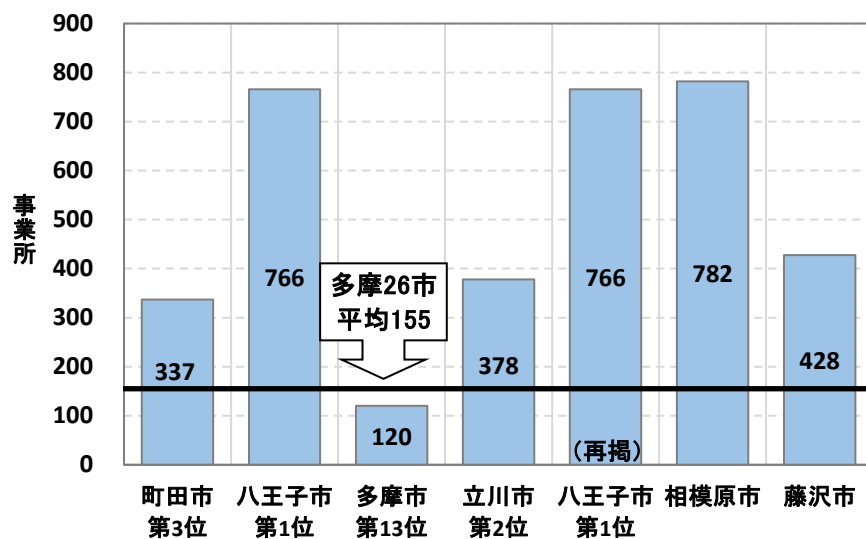
【注 1】 商業統計調査が2014年を最後に廃止されたため、2016年以降は経済センサスのデータをもとに作成。

【注 2】 卸売業、小売業の分類は、日本標準産業分類の大分類「I 卸売業、小売業」による。卸売業とは、生産者や輸入業者から商品を購入し、主に小売業者やその他の業者に販売する業態を指し、小売業とは、最終消費者に直接商品を販売する業態を指す。

【時点】 各年6月1日現在、(2014年)7月1日現在

【出典】 「商業統計調査報告(卸売・小売業)」東京都総務局統計部、「経済センサス」

②卸売業事業所数(No.4-3-1-2)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に少ない

<26市ランキング>

第1位: 八王子市 766

第2位: 立川市 378

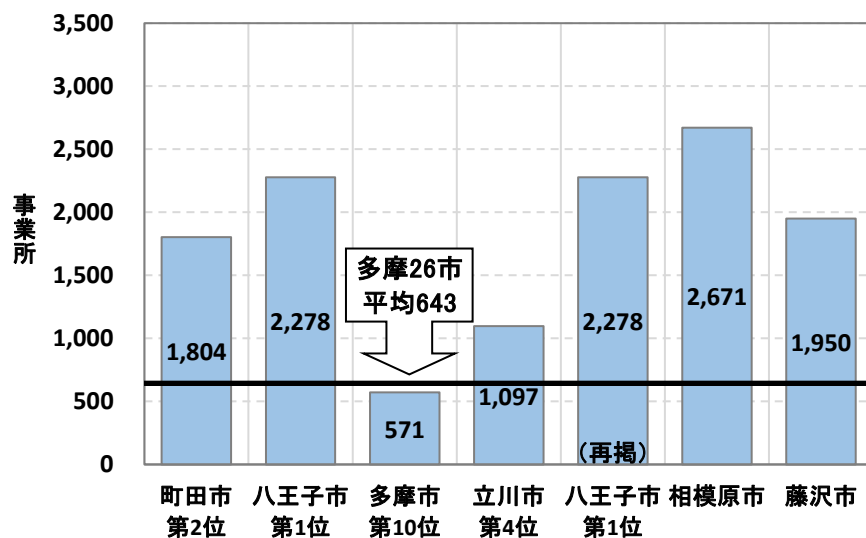
第3位: 町田市 337

(事業所)

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

③小売業事業所数(No.4-3-1-3)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に多い

<26市ランキング>

第1位: 八王子市 2,278

第2位: 町田市 1,804

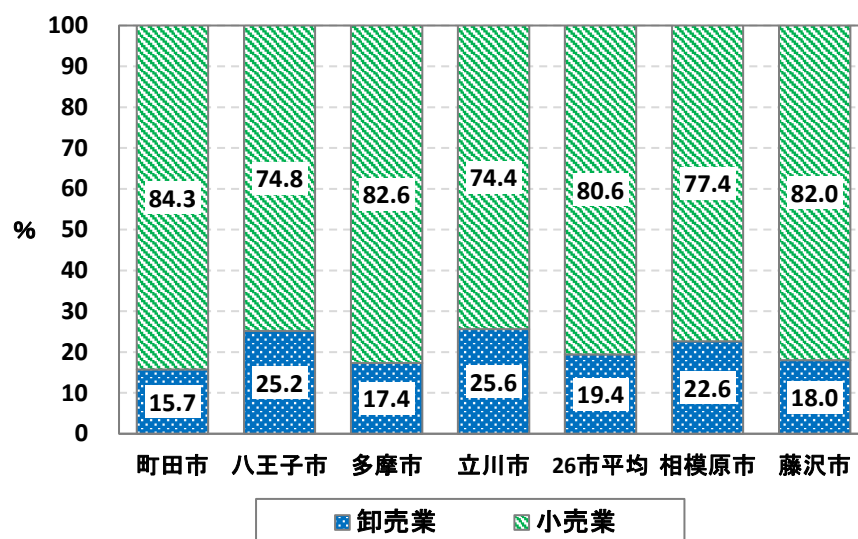
第3位: 武蔵野市 1,233

(事業所)

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

④卸売業、小売業事業所構成比(No.4-3-1-4)【他市比較】



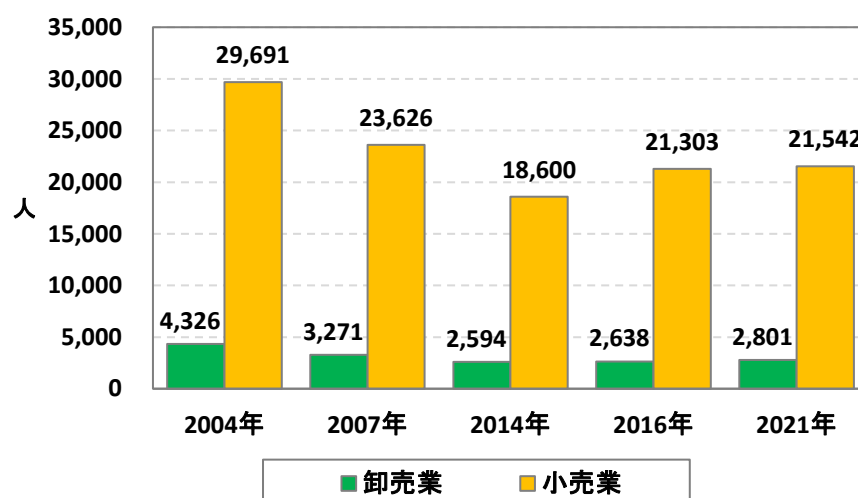
＜26市平均との比較＞
・「小売業」:3.7ポイント高い

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

(2)卸売業、小売業従業者数

①卸売業、小売業従業者数(No.4-3-2-1)



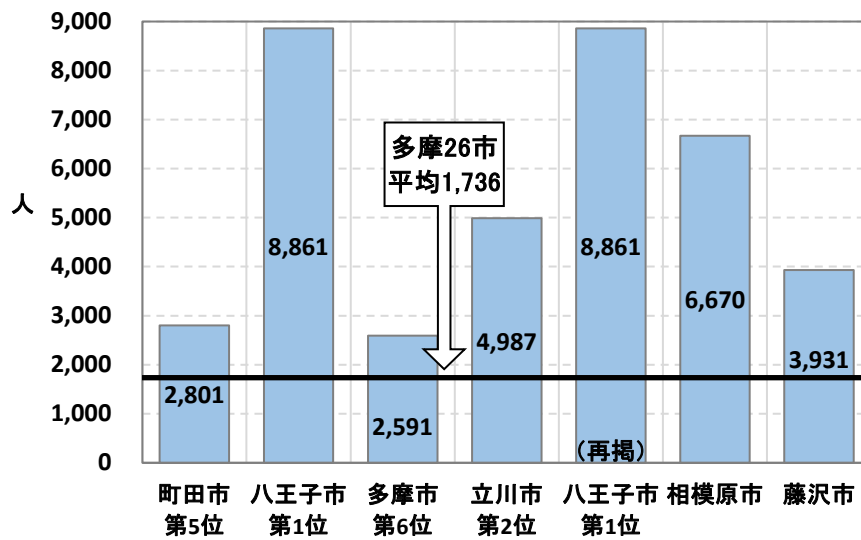
＜2016年との比較＞
・卸売業:6.2%増
・小売業:1.1%増

【注 1】 商業統計調査が2014年を最後に廃止されたため、2016年以降は経済センサスのデータをもとに作成。

【時点】 各年6月1日現在、(2014年)7月1日現在

【出典】 「商業統計調査報告(卸売・小売業)」東京都総務局統計部、「経済センサス」

②卸売業従業者数(No.4-3-2-2)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に少ない

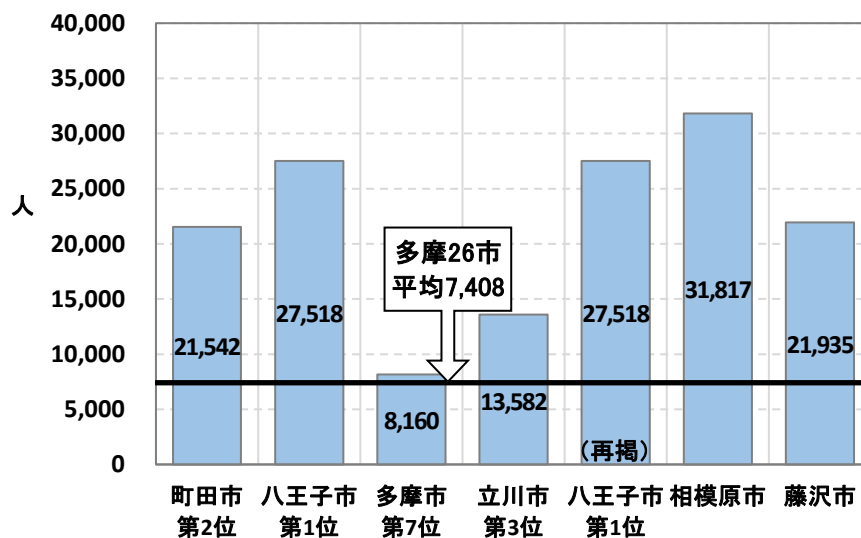
<26市ランキング>

第1位: 八王子市 8,861
 第2位: 立川市 4,987
 第3位: 府中市 3,699
 (人)

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

③小売業従業者数(No.4-3-2-3)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に多い

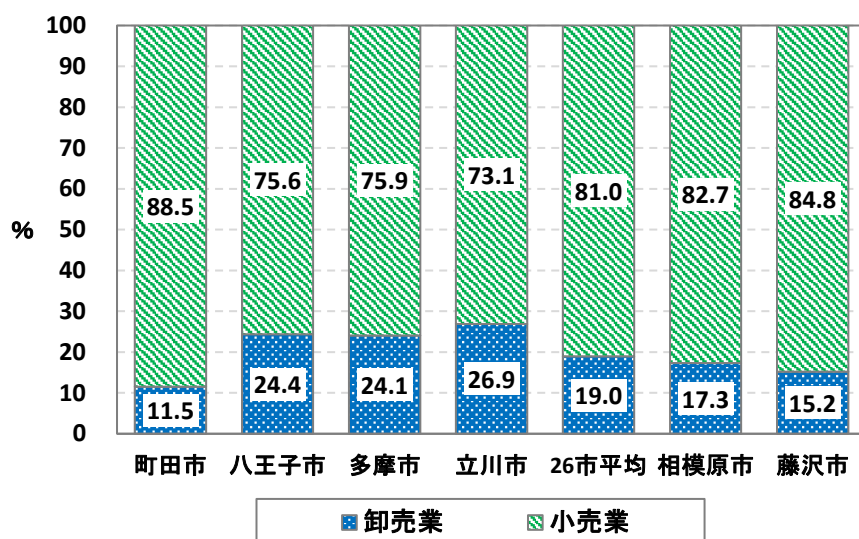
<26市ランキング>

第1位: 八王子市 27,518
 第2位: 町田市 21,542
 第3位: 立川市 13,582
 (人)

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

④卸売業、小売業従業者構成比(No.4-3-2-4)【他市比較】



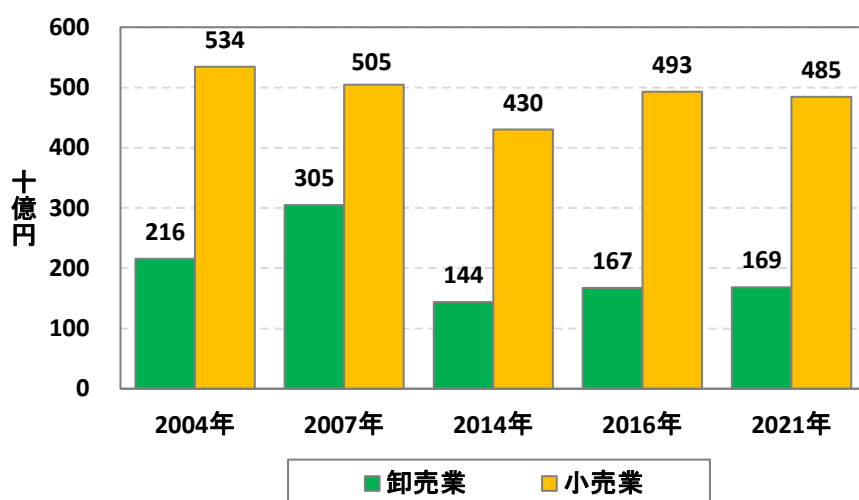
＜26市平均との比較＞
・「小売業」:7.5ポイント高い

【時点】 2021年6月1日現在

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

(3)卸売業、小売業年間販売額

①卸売業、小売業年間販売額(No.4-3-3-1)



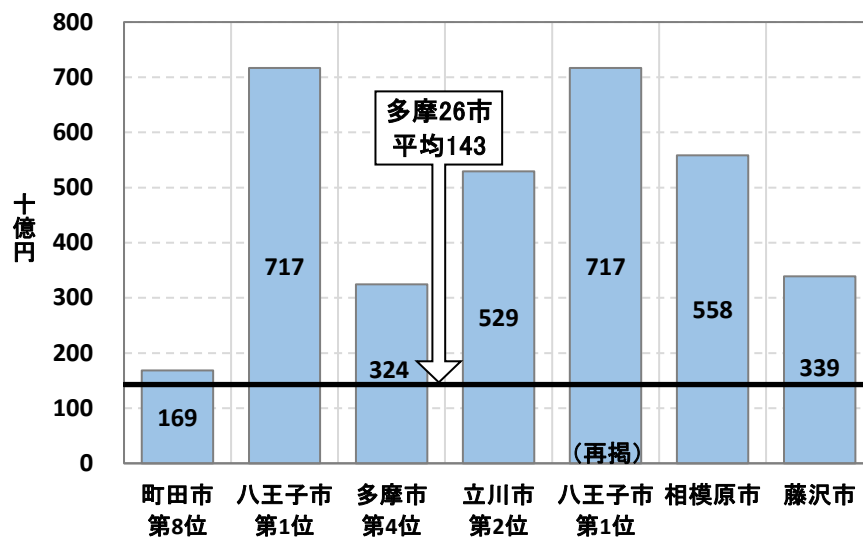
＜2016年との比較＞
・卸売業:0.9%増
・小売業:1.7%減

【注 1】 商業統計調査が2014年を最後に廃止されたため、2016年以降は経済センサスのデータをもとに作成。

【時点】 各年6月1日現在、(2014年)7月1日現在

【出典】 「商業統計調査報告(卸売・小売業)」東京都総務局統計部、「経済センサス」

②卸売業年間販売額(No.4-3-3-2)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で最も少ない

<26市ランキング>

第1位: 八王子市 717

第2位: 立川市 529

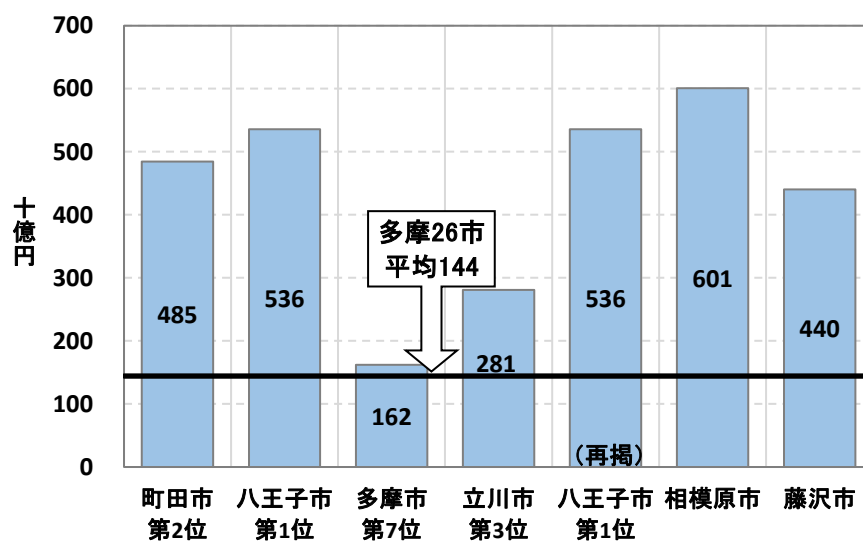
第3位: 府中市 356

(十億円)

【時点】 2020年

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

③小売業年間販売額(No.4-3-3-3)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に多い

<26市ランキング>

第1位: 八王子市 536

第2位: 町田市 485

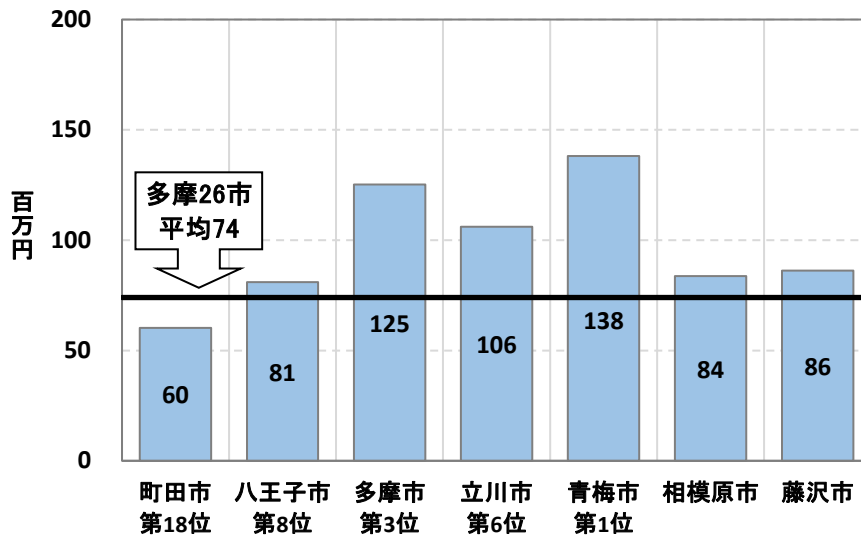
第3位: 立川市 281

(十億円)

【時点】 2020年

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

④卸売業従業者1人あたり年間販売額(No.4-3-3-4)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で最も少ない

<26市ランキング>

第1位: 青梅市 138

第2位: 国立市 130

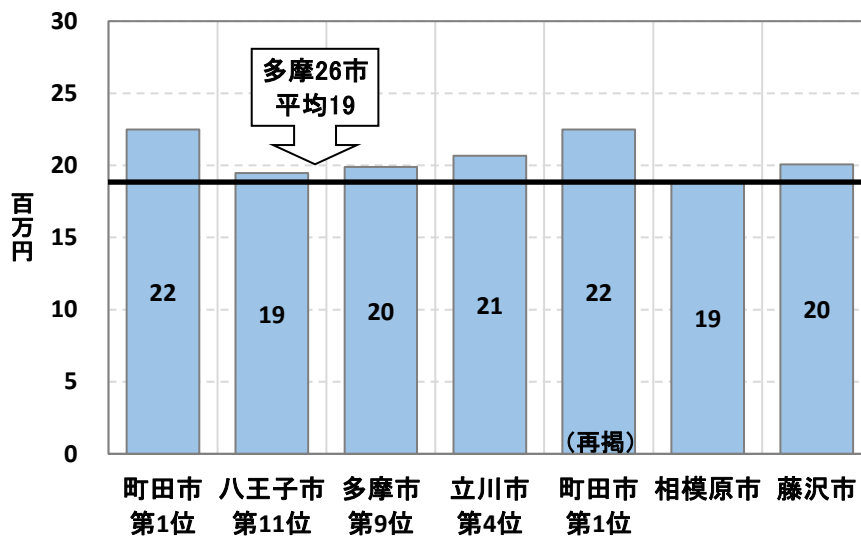
第3位: 多摩市 125

(百万円)

【時点】 2020年(年間販売額)、2021年6月1日現在(従業者数)

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

⑤小売業従業者1人あたり年間販売額(No.4-3-3-5)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で最も多い

<26市ランキング>

第1位: 町田市 22

第2位: 三鷹市 22

第3位: 狛江市 21

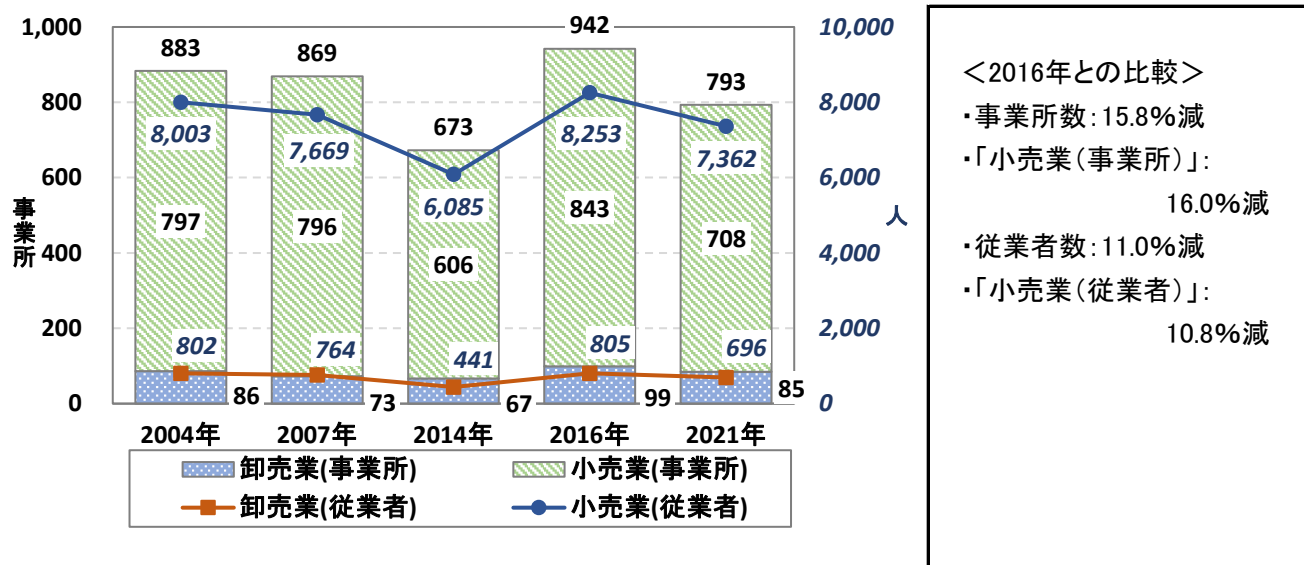
(百万円)

【時点】 2020年(年間販売額)、2021年6月1日現在(従業者数)

【出典】 「経済センサス」(相模原市、藤沢市含む)

(4) 町田駅周辺

① 町田駅周辺事業所数、従業者数 (No.4-3-4-1)



【注 1】 商業統計調査が2014年を最後に廃止されたため、2016年以降は経済センサスのデータをもとに作成。

【時点】 各年6月1日現在、(2014年)7月1日現在

【出典】 「商業統計調査報告(卸売・小売業)」東京都総務局統計部、「経済センサス」

4 工業

<ポイント>

(1) 事業所数

- 事業所数は、年々増加しており、多摩26市の中では3番目に多い。【(1)①②参照】

(2) 従業者数

- 従業者数は、2019年～2022年までは年々増加、2023年は前年より減少している。

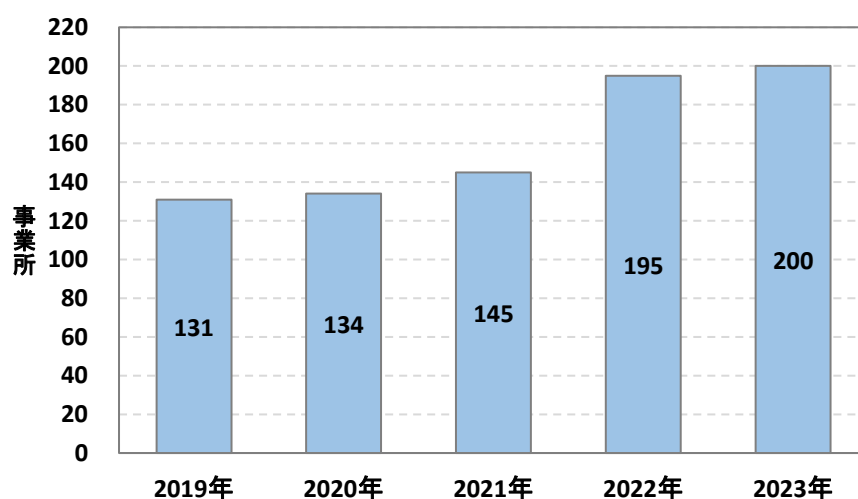
【(2)①参照】

(3) 製造品出荷額等

- 2023年の製造品出荷額等は、前年より減少している。【(3)①参照】

(1) 事業所数

①事業所数 (No.4-4-1-1)



<前年との比較>

・2.6%増

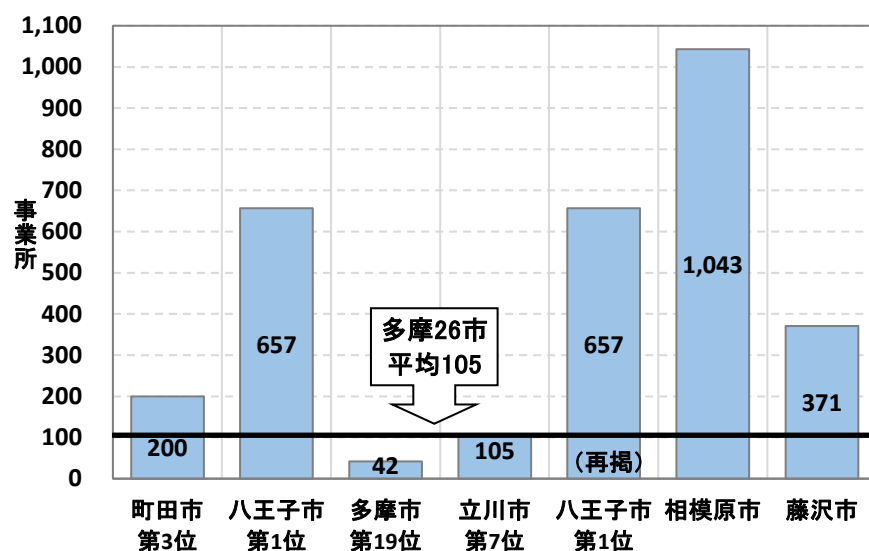
<2019年との比較>

・52.7%増

【時点】 各年12月31日現在

【出典】 「町田市統計書」

②事業所数(No.4-4-1-2)【他市比較】



＜比較市との比較＞

・4市の中で2番目に多い

＜26市ランキング＞

第1位：八王子市 657

第2位：青梅市 253

第3位：町田市 200

(事業所)

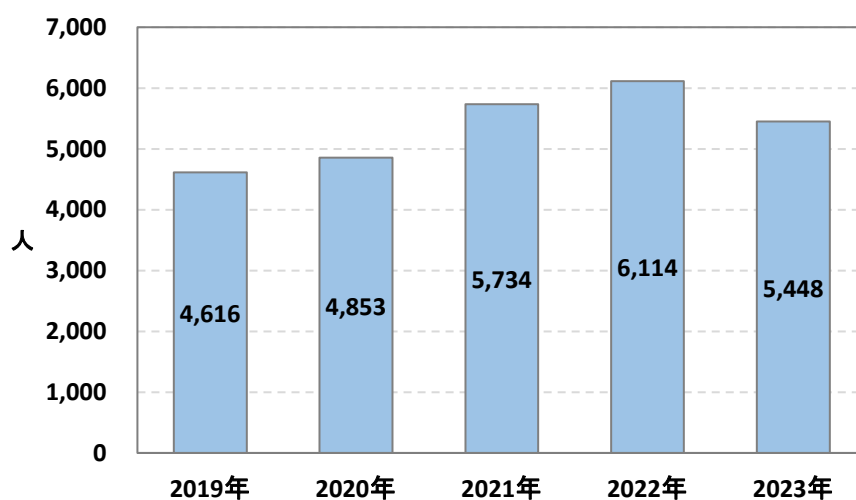
【注1】 個人経営は含まない

【時点】 2023年6月1日現在

【出典】 「経済構造実態調査」(相模原市、藤沢市含む)

(2)従業者数

①従業者数(No.4-4-2-1)



＜前年との比較＞

・10.9%減

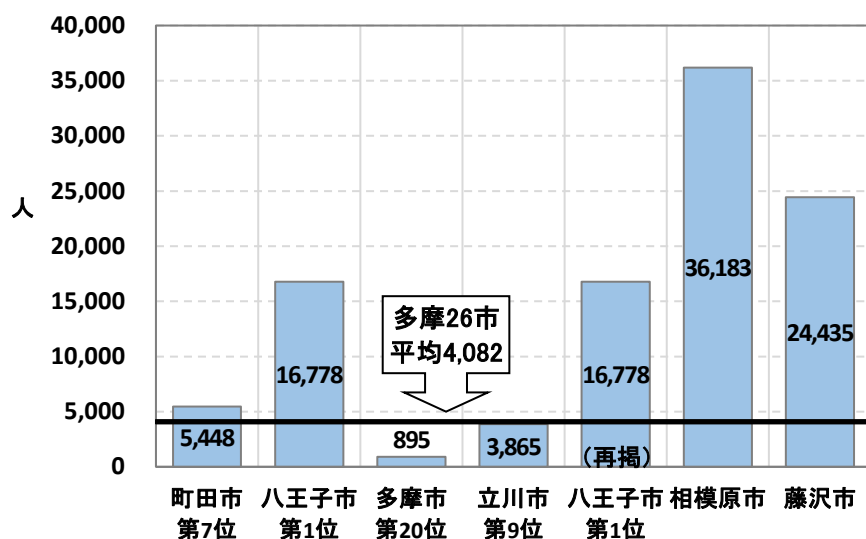
＜2019年との比較＞

・18.0%増

【時点】 各年12月31日現在

【出典】 「町田市統計書」

②従業者数(No.4-4-2-2)【他市比較】



<比較市との比較>

・4市の中で2番目に多い

<26市ランキング>

第1位: 八王子市 16,778

第2位: 日野市 13,071

第3位: 府中市 12,855

(人)

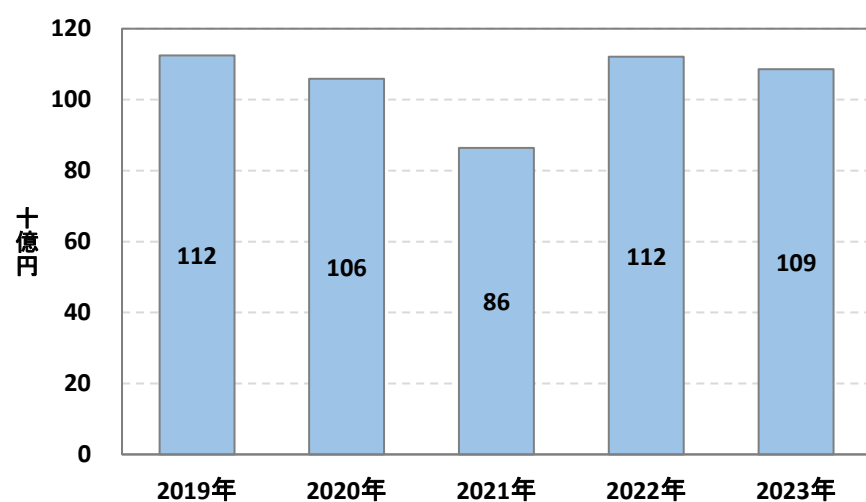
【注1】 個人経営は含まない

【時点】 2023年6月1日現在

【出典】 「経済構造実態調査」(相模原市、藤沢市含む)

(3)製造品出荷額等

①製造品出荷額等(No.4-4-3-1)



<前年との比較>

・3.1%減

<2019年との比較>

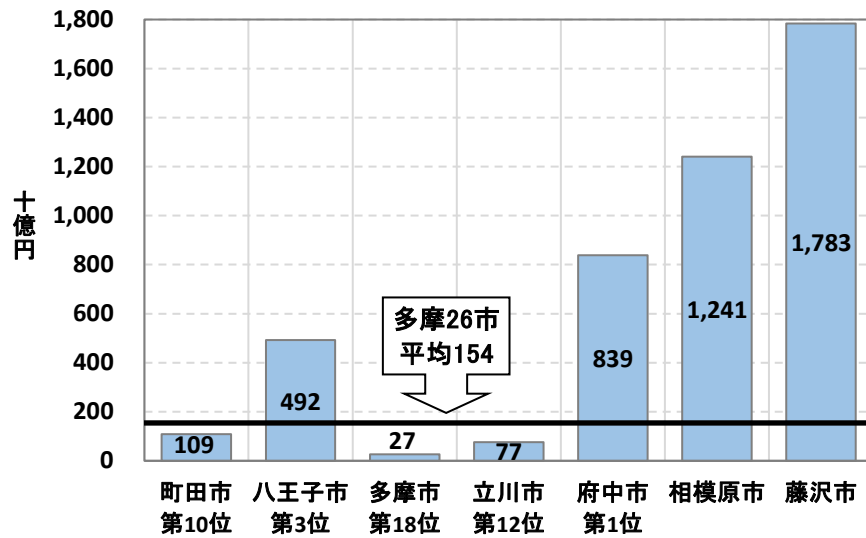
・3.4%減

【注1】 「製造品出荷額等」は、1年間における製造品出荷額、加工費収入額、修理料収入額、製造工程からでたくず及び廃物の出荷額並びにその他の収入額の合計であり、消費税及び内国消費税を含んだ額である。

【時点】 各年12月31日現在

【出典】 「町田市統計書」

②製造品出荷額等(No.4-4-3-2)【他市比較】



＜比較市との比較＞

・4市の中で2番目に多い

＜26市ランキング＞

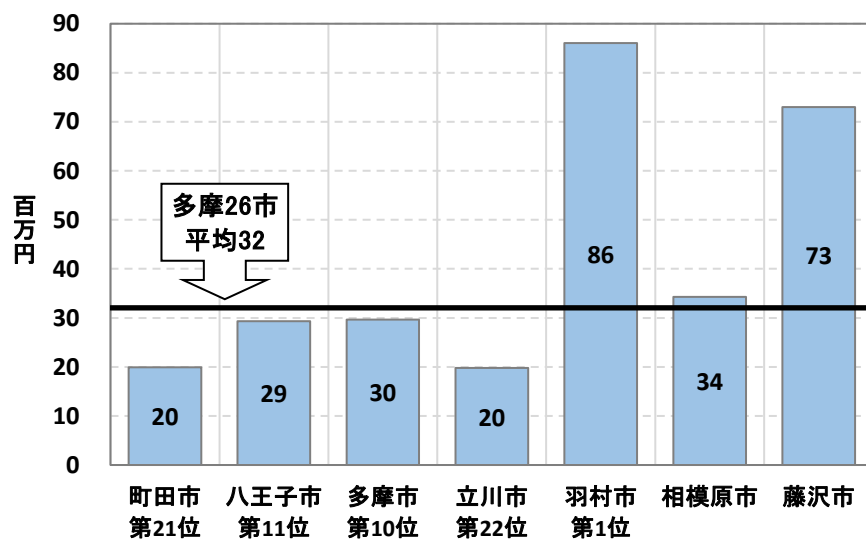
第1位：府中市 839
 第2位：羽村市 745
 第3位：八王子市 492
 (十億円)

【注1】 個人経営は含まない

【時点】 2022年

【出典】 「経済構造実態調査」(相模原市、藤沢市含む)

③従業者1人あたり製造品出荷額等(No.4-4-3-3)【他市比較】



＜比較市との比較＞

・4市の中で2番目に少ない

＜26市ランキング＞

第1位：羽村市 86
 第2位：府中市 65
 第3位：東大和市 64
 (百万円)

【注1】 個人経営は含まない

【時点】 2022年(製造品出荷額等)、2023年6月1日現在(従業者数)

【出典】 「経済構造実態調査」(相模原市、藤沢市含む)

5 農業

<ポイント>

(1) 農家数

- 農家数は、年々減少しており、2020年は2000年の半数近くまで減少している。【(1)①参照】

(2) 農家人口

- 農家人口は、全年齢層で年々減少している。【(2)①参照】

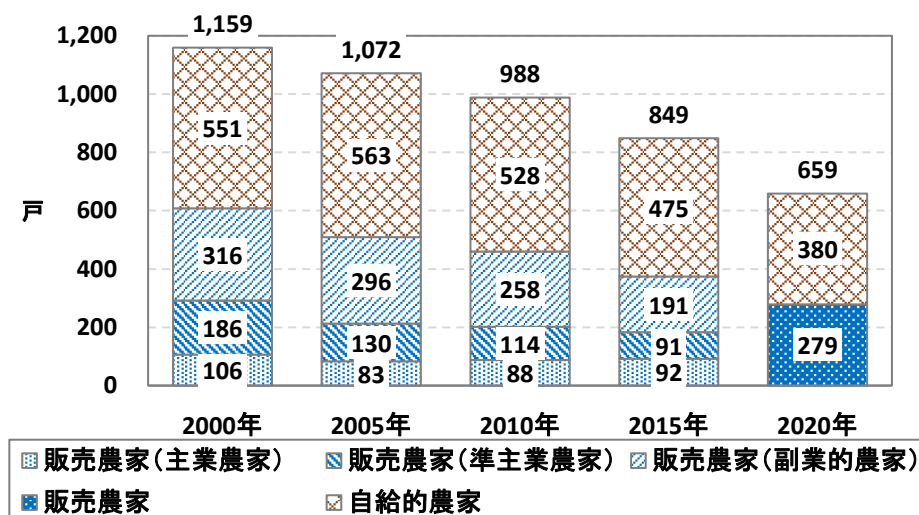
(3) 経営耕地面積

- 経営耕地面積は、減少傾向にあり、2020年は2000年の半数以下に減少している。

【(3)①参照】

(1) 農家数

① 農家数 (No.4-5-1-1)



<2015年との比較>

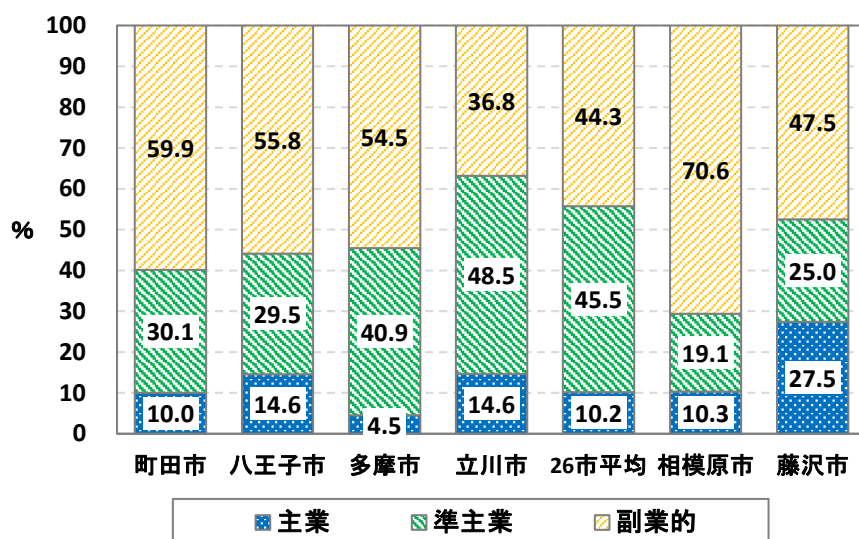
- ・農家戸数: 22.4%減
- ・「自給的農家」: 20.0%減
- ・「販売農家」: 25.4%減

<2000年との比較>

- ・農家戸数: 43.1%減
- ・「自給的農家」: 31.0%減
- ・「販売農家」: 54.1%減

- 【注 1】 自給的農家は、経営耕地面積が30a(アール)未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。
- 【注 2】 販売農家は、経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。主副業別分類では、主業農家・準主業農家・副業的農家に分けられる。2020年からは集計方法変更のため、内訳不明。
- 【注 3】 主業農家は、農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家をいう。
- 【注 4】 準主業農家は、農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家をいう。
- 【注 5】 副業的農家は、65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家をいう。
- 【時点】 各年2月1日現在 【出典】 「町田市統計書」

②農家(個人経営体)構成比(No.4-5-1-2)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・「副業的」: 15.6ポイント高い
- ・「準主業」: 15.4ポイント低い
- ・「主業」: 0.2ポイント低い

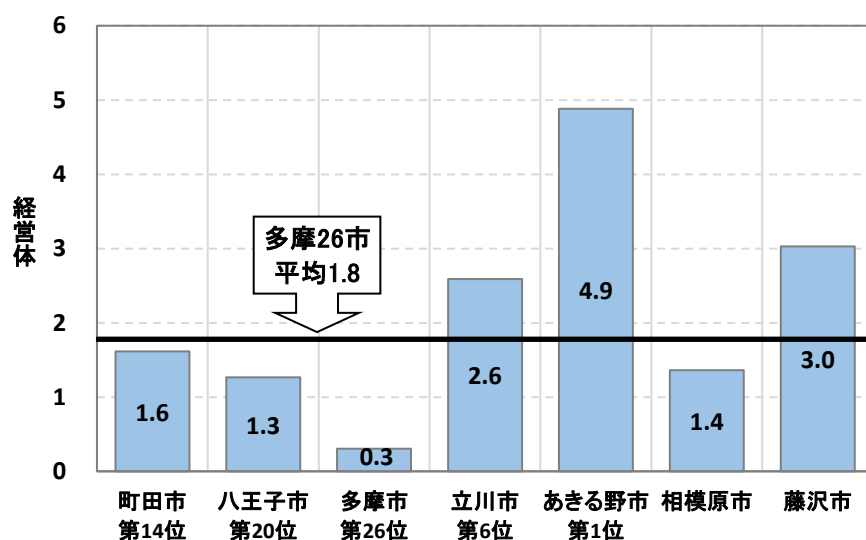
【注 1】 農家(個人経営体)とは、個人(世帯)で事業を行う経営体という。

なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。

【時点】 2020年2月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会、「農林業センサス」(相模原市・藤沢市)

③1千世帯あたり農家数(No.4-5-1-3)【他市比較】



＜26市平均との比較＞

- ・9.3%少ない

＜26市ランキング＞

- 第1位: あきる野市 4.9
 第2位: 武蔵村山市 4.4
 第3位: 清瀬市 4.3
 (経営体)

【注 1】 農家(個人経営体)とは、個人(世帯)で事業を行う経営体という。

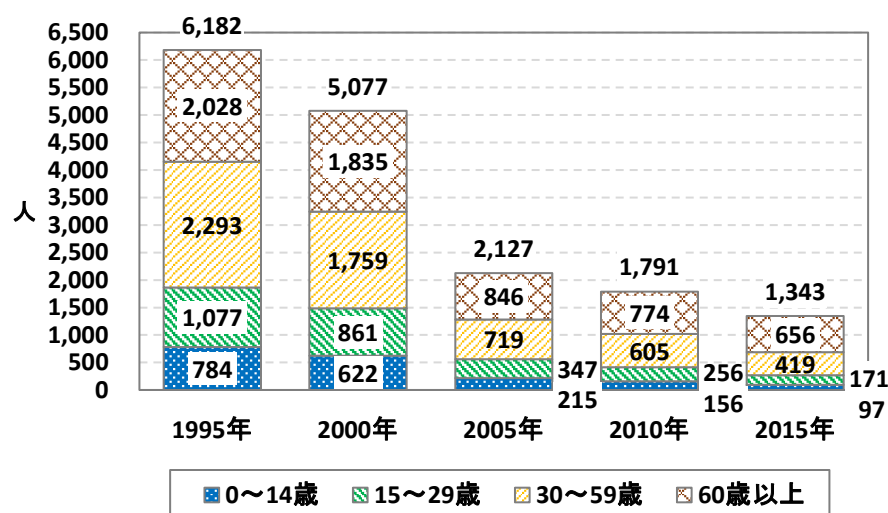
なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。

【時点】 2020年2月1日現在(農家数)、2020年1月1日現在(世帯)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会、「農林業センサス」(相模原市・藤沢市)

(2) 農家人口

① 農家人口 (No.4-5-2-1)



<2010年との比較>

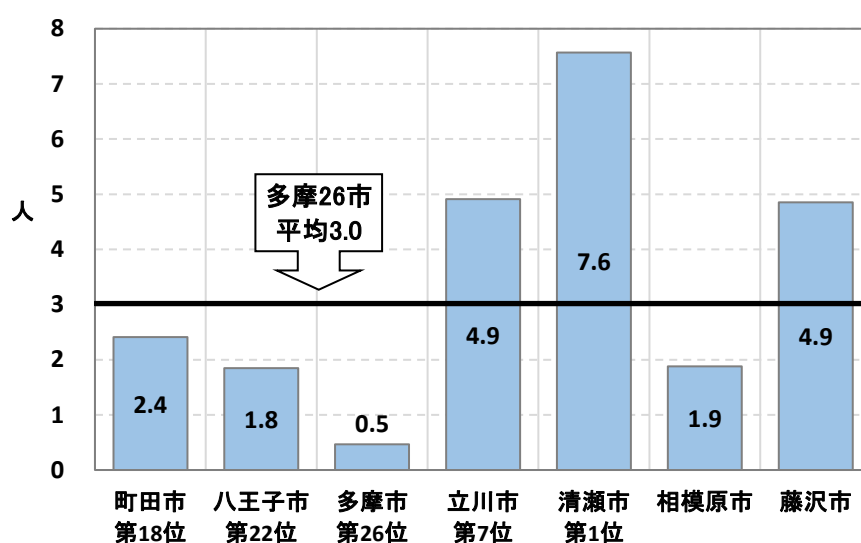
- ・農家人口: 25.0%減
- ・「60歳以上」: 15.2%減
- ・「30～59歳」: 30.7%減
- ・「15～29歳」: 33.2%減

【注 1】 2005年、2010年、2015年のデータは、販売農家のみの人口。

【時点】 各年2月1日現在

【出典】 「町田市統計書」

② 人口1千人あたり農家人口 (No.4-5-2-2)【他市比較】



<26市平均との比較>

- ・20.2%少ない

<26市ランキング>

- | | |
|------------|-----|
| 第1位: 清瀬市 | 7.6 |
| 第2位: あきる野市 | 7.0 |
| 第3位: 武蔵村山市 | 6.4 |
- (人)

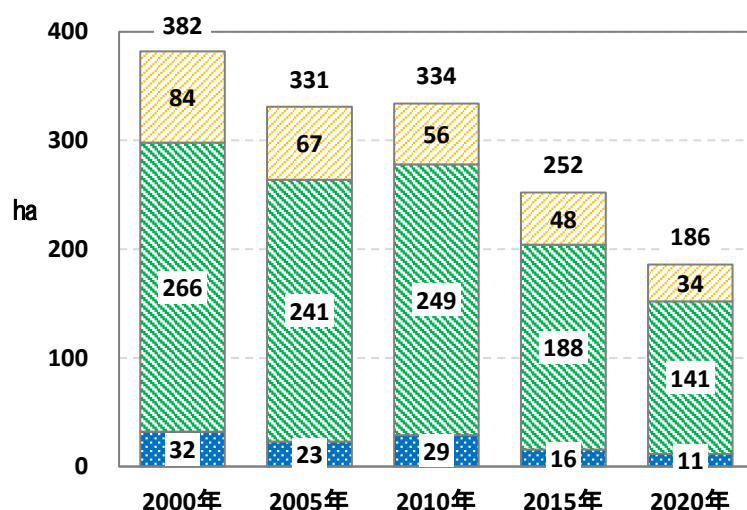
【注 1】 農家とは、個人経営体を指す。「個人経営体」とは、個人(世帯)で事業を行う経営体をいう。なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。

【時点】 2020年2月1日現在(農家世帯員数)、2020年1月1日現在(人口)

【出典】 「農林業センサス」(相模原市、藤沢市含む)

(3) 経営耕地面積

① 経営耕地面積 (No.4-5-3-1)



<2015年との比較>

- ・総経営耕地面積: 26.3%減
- ・「樹園地」: 29.2%減
- ・「畑」: 25.4%減
- ・「田」: 27.3%減

<2000年との比較>

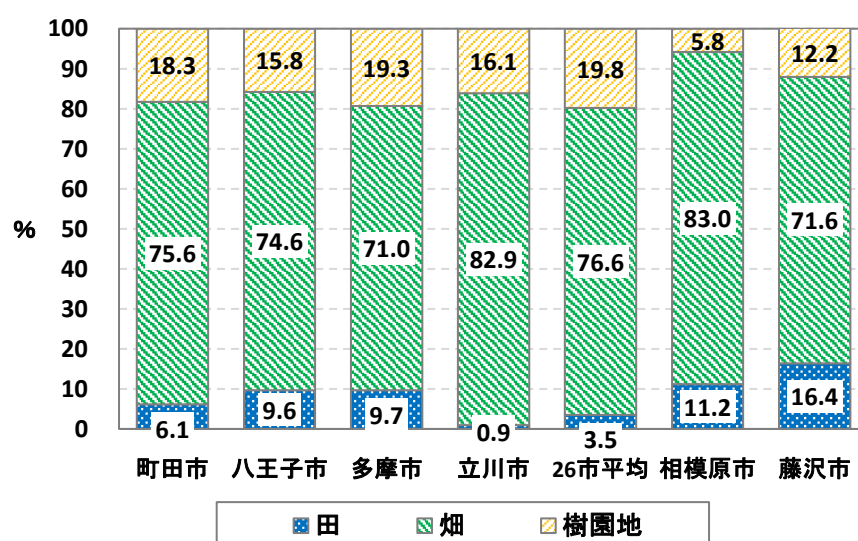
- ・総経営耕地面積: 51.3%減
- ・「樹園地」: 59.6%減
- ・「畑」: 47.2%減
- ・「田」: 64.4%減

【注 1】 経営耕地面積は、農林業経営体が経営する耕地(田、畑及び樹園地の計)の面積をいい、経営体が所有している耕地のうち貸し付けている耕地と耕作放棄地を除いたもの(自作地)に借りている耕地(借入耕地)を加えたもの。

【時点】 各年2月1日現在

【出典】 「農林業センサス」

② 経営耕地構成比 (No.4-5-3-2) 【他市比較】



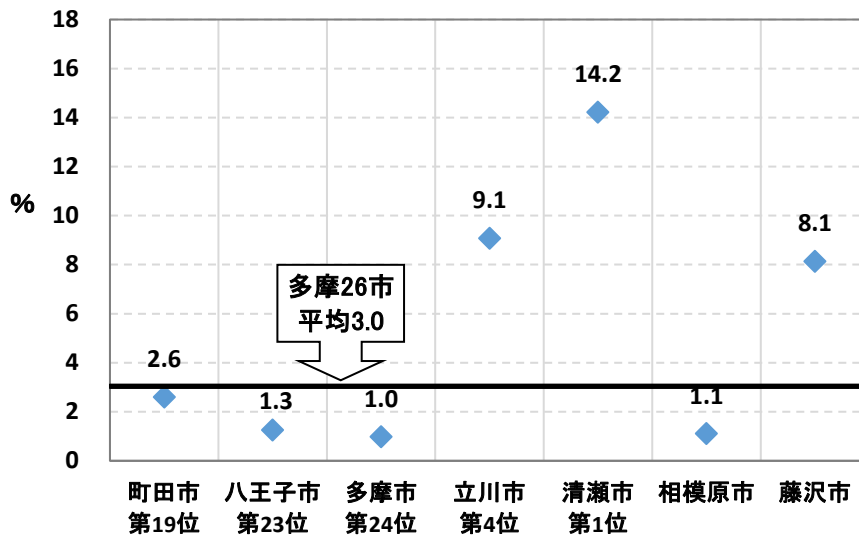
<26市平均との比較>

- ・「樹園地」: 1.6ポイント低い
- ・「畑」: 1.0ポイント低い
- ・「田」: 2.6ポイント高い

【時点】 2020年2月1日現在

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

③市域面積に占める経営耕地面積の割合(No.4-5-3-3)【他市比較】



<26市平均との比較>

・0.4ポイント低い

<26市ランキング>

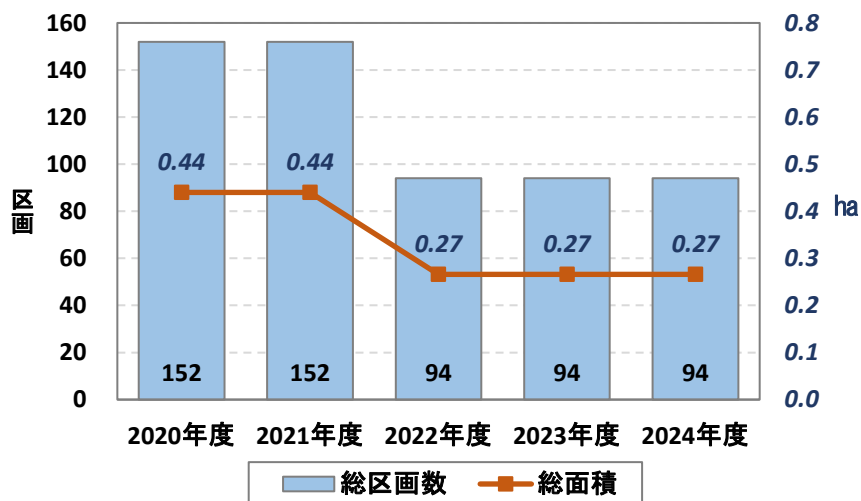
第1位: 清瀬市	14.2
第2位: 国分寺市	11.2
第3位: 東久留米市	10.5
	(%)

【時点】 2020年2月1日現在(経営耕地面積)、
2022年10月1日現在(市域面積)／藤沢市は2018年10月1日現在(市域面積)

【出典】 「多摩・島しょ地域データブック」東京市町村自治調査会

(4) 市民農園

①市民農園區画数、面積(No.4-5-4-1)



<前年度との比較>

・総区画数: 変化なし

・総面積: 変化なし

<2020年度との比較>

・総区画数: 38.2%減

・総面積: 39.5%減

【時点】 各年度3月31日現在

【出典】 庁内資料